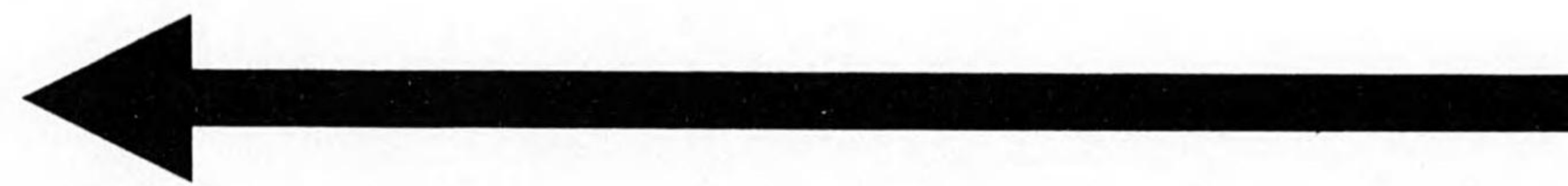


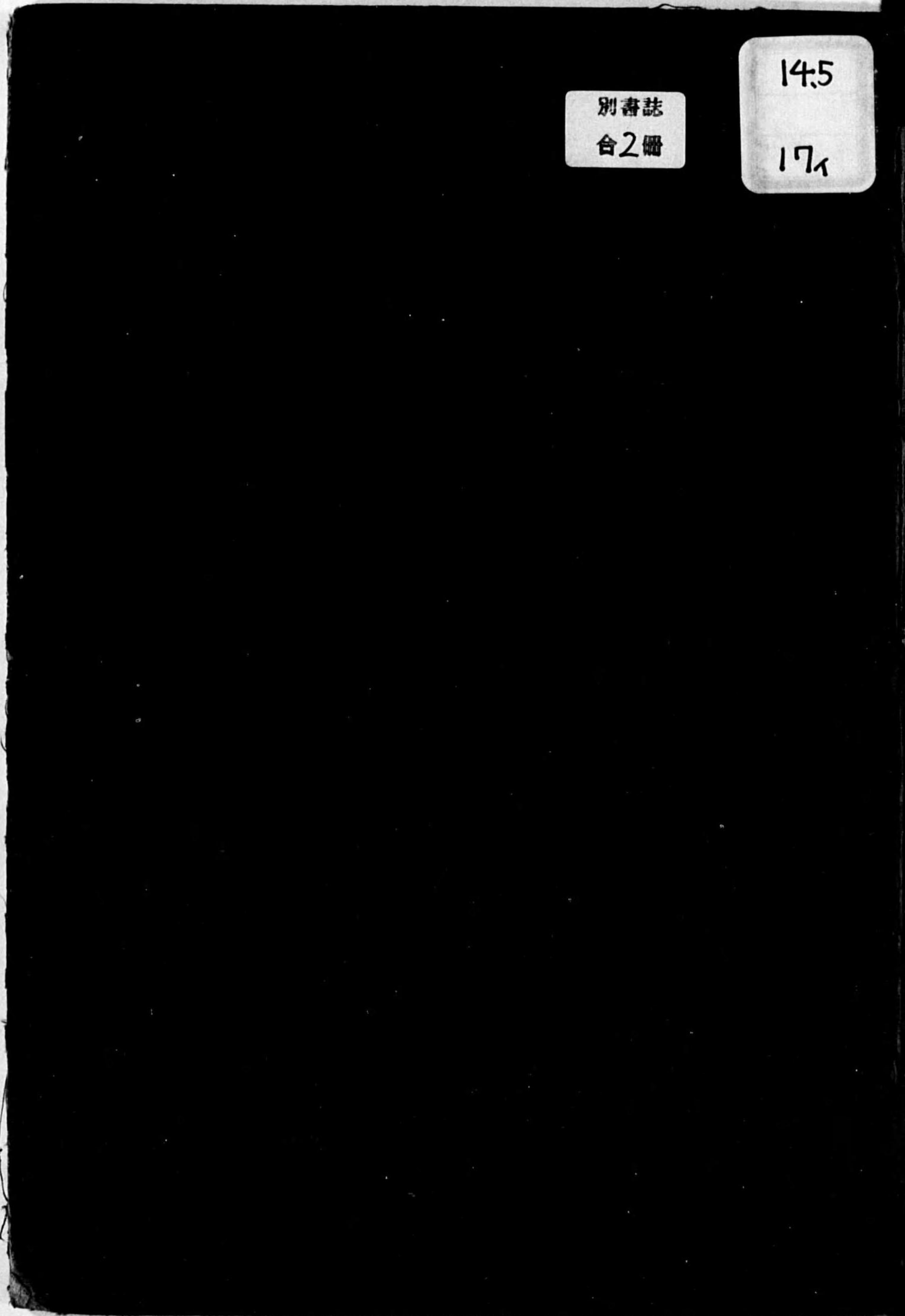
始



14.5

17₁

別書誌
合2冊



14.5-17イ



1200501211389

14.
17

滿鐵調査資料第百十一編

滿洲に於ける紙の需給と製紙工業

南滿洲鐵道株式會社
庶務部調査課

14.5-171

凡例

發行所寄贈本



一、本稿はその名の如く、満洲に於ける紙類の需給状態と満洲製紙工業事情の記述をその目的としたが、由來満洲に於ける製紙工業は甚だ不振を極め、機械工業としては安東の鴨綠江製紙と大連市外満洲製紙(營口分工場を有つ)の二社が漸く營業をなせるのみ。然も後者は極めて小規模な支那紙製造會社であり、前者はその規模満洲稀に見る大規模な機械工業であるが、近年漸く支那紙代用品年額二〇〇萬圓たらずを産するに止まるから満洲消費紙の大部分即ち洋紙の全部と支那紙の大部分は外國就中日本及支那本土からの供給に俟つてゐるのである。隨て満洲に於ける紙類は日本及支那本土に密接な關係があるから、満洲に於ける紙の需給状態を見る前に、先づ日本及支那に於けるそれに一瞥を與へた。

二、前篇満洲に於ける需給に關する資料の出所はその都度之を明にして置いたが、主として當課刊行「北支那」及「詳細」の兩貿易統計年報に據れるものである。

三、製紙工業に關する記述は鴨綠江及満洲兩製紙會社並に間島總領事館、滿鐵地方事務所乃至公所の回答に基づけるものである。茲に記して厚くその御助力を謝す。

一、本稿の擔當者 課員三上安美。

昭和四年九月十日



滿洲に於ける紙の需給と製紙工業

目次

前篇 滿洲に於ける紙の需給	一
第一章 緒言	一
第二章 支那に於ける紙の需給状態	四
第一節 支那市場に於ける紙の種類及用途	四
第二節 生産状況	一九
第一項 支那製紙業の沿革	一九
第二項 製紙法	二二
第三項 製造戸數及生産高	二二
第四項 主たる機械製紙工業現況	二四
第三節 輸入状況	二七
第一項 輸入額	二七

目次

一

發行所 實業本

第二項	主なる品種とその相手國	二九
第三項	主なる輸入港と輸入額	三〇
第四節	輸出状況	三一
第一項	輸出額	三一
第二項	主なる品種とその相手國	三三
第五節	再輸出状況	三四
第六節	支那に於ける紙の需給状態	三五
第七節	支那に於るけバルブ輸入状況	三六
第三章	日本に於ける紙の需給状態	三八
第一節	生産状況	三八
第一項	製紙業の沿革	三八
第二項	製紙の種類、性質及用途	四〇
第三項	製紙法	四五
第四項	製造戸數、會社數及職工數	五二
第五項	生産額	五四

第六項	主要製紙會社とその製造高	五八
第二節	輸入状況	六〇
第一項	輸入額	六〇
第二項	相手國	六二
第三項	品種	六三
第三節	輸出状況	六五
第一項	輸出額	六五
第二項	相手國	七三
第三項	輸出入趨勢圖表	七四
第四節	日本に於ける紙の需給状態	七六
第一項	和紙	七六
第二項	洋紙	七七
第五節	日本に於けるバルブ需給状態	七九
第一項	概説	七九
第二項	生産状況	八〇
第三項	輸入状況	八七

第四項 輸出状況 八九

第五項 需給状況 九〇

第四章 滿洲に於ける紙の需給状況 九二

第一節 生産状況 九二

第二節 輸移入状況 九三

第一項 概勢 九三

第二項 輸移入港及關別 九四

第三項 内外品別 九七

第四項 品種別 一〇二

第五項 輸移入紙界に於ける各國の勢力 一一一

第三節 輸移出状況 一一四

第一項 概勢 一一四

第二項 輸移出地別 一一五

第三項 品種別 一一八

第四項 仕向地別 一二三

第四節 再輸移出状況 一三九

第一項 支那紙 一三九

第二項 外國紙 一五三

第五節 滿洲に於ける紙の需給状態 一八二

第六節 滿洲に於けるパルプ需給状態 一八三

第七節 輸送状況 一八六

第一項 鐵道輸送 一八六

第一 滿鐵 一八六

第二 東支鐵道 二〇八

第三 其他鐵道 二二九

第二項 其他による輸送状況 二四一

第八節 輸出入關稅 二四五

第九節 取引方法 二四八

第十節 相場 二五三

第十一節 主要地に於ける需給状況 二五七

第一項 大連地方……………二五七

第二項 營口地方……………二六二

第三項 奉天地方……………二六七

第四項 長春地方……………二七〇

第五項 安東地方……………二七三

第六項 哈爾濱地方……………二七六

後篇 滿洲に於ける製紙工業……………二七九

第一章 緒言……………二七九

第二章 新式機械製紙工業……………二八〇

第一節 概説……………二八〇

第一項 沿革……………二八〇

第二項 資本金及借入金……………二八四

第三項 従事員、勞銀及作業日數……………二八四

第四項 動力燃料、用水及抄紙機……………二八六

第五項 原料……………二八八

第六項 生産額……………二八九

第七項 生産費……………二九〇

第八項 用途、販路及販賣額……………二九〇

第九項 販賣方法……………二九一

第十項 業績……………二九二

第二節 鴨綠江製紙株式會社……………二九三

第一項 沿革及推移……………二九三

第二項 現狀……………二九四

第一 資本金及借入金……………二九四

第二 従事員、勞銀及作業日數……………二九五

第三 工場設備……………二九五

第四 用水及燃料……………二九六

第五 製紙法……………二九七

第三項 原料……………二九八

第四項 生産高及生産費……………三〇〇

第五項 販賣及在庫高……………三〇二

第六項 用途及販路……………三〇三

第七項 販賣方法……………三〇八

第八項 業績……………三〇九

第三節 滿洲製紙株式會社本工場……………三三七

第一項 沿革及事業推移……………三三七

第二項 現狀……………三三八

第三項 原料……………三四二

第四項 生産高及生産費……………三四三

第五項 品種、用途及販路……………三四七

第六項 販賣方法……………三四七

第七項 業績……………三四八

第四節 滿洲製紙營口分工場……………三七四

第一項 沿革及事業推移……………三七四

第二項 現狀……………三七五

第三項 原料……………三七九

第四項 生産、販賣高及生産費……………三八〇

第五項 品種、用途及販路並販賣方法……………三八二

第五節 滿鐵及關東廳の助成政策……………三八二

第六節 結論……………三八三

第三章 舊式製紙業……………三九一

第一節 概説……………三九一

第一項 紙房數と經營組織……………三九一

第二項 資本金……………三九五

第三項 生産額及其の品種並用途……………三九六

第四項 職工數及勞銀……………三九八

第五項 原料……………四〇〇

第六項 製造時期及製造方法……………四〇一

第七項 用水及動力……………四〇三

第八項 販路、價格及輸移入品との關係……………四〇三

第九項 取引方法……………四〇五

第二節 各地に於ける舊式製紙工業……………四〇五

第一項 瓦房店地方……………四〇六

第二項 遼陽地方……………四〇七

第三項 奉天地方……………四一八

第四項 鐵嶺地方……………四二六

第五項 長春地方……………四二九

第六項 吉林地方……………四三三

第七項 安東地方……………四三八

第八項 鄭家屯地方(含通遼及赤峰)……………四四一

第九項 洮南地方……………四四八

第十項 齊々哈爾地方……………四五一

第十一項 間島地方……………四五七

第十二項 間島地方……………四五九

第三節 紙房の業績とその將來……………四五九

附 録

一 製紙原料としての滿洲產高粱稈……………四六一

二 高粱稈パルプ製造目論見書……………四六五

滿洲に於ける紙の需給と製紙工業

前篇 滿洲に於ける紙の需給

第一章 緒言

文明にとつて肝腎なものは殆ど枚擧に遑なき程多くに及ぶであらう。けれども凡そ紙程必要缺ぐべからざるものは先づ稀ではあるまいか。宜なる哉、紙類の需要額は直ちに以てその國の文明を卜するに足り、その製紙工業の如何は以て一國工業の盛否を知るに足ると迄云はれてゐる。されば一般經濟界の景氣不景氣が如何なる商品の需要にも影響を及ぼさぬものがないのに、獨り紙のみは世界各國を通じ、年々歳々愈々その需要を増加して行くのみである。我國に於てもその洋紙の製造は今を去る漸く五十數年前に着手したばかりであるが、彼の歐洲大戰のために世界に於ける紙

の輸出國たる瑞典、諸威が聯合國のために燃料、藥品その他の供給を阻止されるに至りて、その生産を著しく減殺され、加ふるに海上の不安、船腹の不足等より輸出頗る不振に陥り、随つてその供給力減退し、獨、澳、白の諸國亦戰亂の餘映を享けて生産休止の状態に陥り、固より供給の餘力を失ひ、只獨り加奈陀のみが生産力を増し、世界の輸出國たる地位を贏得するに至つたが、一般世界の供給力は戰時中著しく衰頽を見るに至れると、一方需要に於ては依然減

退の状勢を見ず、殊に戦争の餘慶に浴せる中立國に在りては財界の繁榮と共に、その需要倍々増大し、大戦を境に世界需給の均衡全く破らるゝに至つてより、本邦紙界に一大刺戟を與へ、他方國內に於ても需要愈々切なるものあり、茲に我國製紙業は世界大戦を境に急速躍進的發展を遂げ、今や主要工業の地位を占むるに至つた。随つてその生産額も著しく増加し昭和元年度は之を大正元年度に較べれば正に四倍以上に達し、需要額又三倍半に増加して來た。以て我國文化の伸展急速顯著なるを知るに難くないが、之を世界の文明國に較べれば、未だ遙に遠く及ばない。即ち我國現在の洋紙一人當一箇年消費高は二二封度に達して來たが、之を米國の一七五封度、英國の五八封度、獨逸の五〇封度等に比すれば、その消費遙に低位に在りと云ふべく、又その生産状態に就て見るも、調査稍舊きに屬すれど、一九二〇年現在に於ける世界の紙の産額は一億三千万キントルと概算され、その二分の一以上は米國(七五百万キントル)から殘餘は加奈陀(一一二)、獨逸(一〇・六)、大ブリテイン(九・五)、佛國(五・五)、瑞典(二・三)、チェコスロバキヤ(二・三)等から出ると云はれて當時我國の如きは殆ど問題とならなかつた。けれども上記世界大戦を一期として我國製紙工業は異常なる發達を見つ、現在に及び、今や一部特殊紙を除けば完全に自給自足を超へて、世界の供給國とさへなつて來た。今洋紙に就て見るに、昭和二年度に於ける製紙聯合會のみの生産額(我國産額の大部分)實に十一億五千万封度の多きに及び、同年の輸出額亦約二千萬圓の多額に上れり。而してその中約一千一百万圓は之を支那へ、更に約四百万圓を關東州へ輸出してゐるのである。云ひ換へれば我國紙の海外販路は支那なりと云ふことが出来るが、此の日本の對支輸出紙は亦支那輸入紙の殆ど大部分を占めてをる。斯くの如く、支那(含滿洲)に於ける紙の需給は、日本に最も緊密なる關係を有するものであり、又滿洲から見れば上記日本との關係の外に、更に支那本土に密接な關係がある。

と云ふのは現在滿洲に於ける紙の需要の約七八割は支那人の消費にかゝるものであるが、彼等は舊き年來の傳統的慣習から、今尙輸入外國紙と殆ど同額の支那紙を消費しつゝあり、その支那從來紙は滿洲内に於ける生産約百八十万海關兩を以てしては遙に及ばず、三百萬海關兩内外を支那本土から移入しつゝあるからである。これ本稿が滿洲に於ける紙の需給を調べるに當り、先づ日本及支那に於ける需給の概要に一瞥を與へんとする所以のものである。以下この見地から先づ支那及日本の需給事情を見て、然る後に滿洲に於けるそれに及ぼすことにしよう。

第二章 支那に於ける紙の需給状態

支那に於ける紙の需要は年々増加の一途を辿つて來てゐるが、就中文化の向上著しき近年に至て、その激増一層目覺しく、その國內生産が從來の舊式製紙と近年俄に勃興せる新式工業とによりて年々増加せるにもかゝらず、その増加せる需要を充たすべくもなく毎年夥しき外國紙の輸入を仰いで漸くその需給の圓滑を計つてをるのが支那現下の實情である。

以下その間の事情を概述して支那に於ける紙の需給状況を見ることにする。

第一節 支那市場に於ける紙の種類及用途

由來紙の種類は極めて多いのみならず、地方により、製造家により、サイズにより、重さにより或は色によりて同一品種のもの屢々異名を以て呼ばれてゐるから、殆ど一定しないのが實情であるが、凡そ物の需給状況を見るには豫めその内容を知る必要があるから、今主として紙の需給上支那最大の市場上海に於て用ひられてゐる、商品名を基礎として以下少しく説明を加へて置くことにする。

第一項 洋紙

一、道林紙 (M.F. Printing Book Paper)

之等は印刷紙にして専ら書籍の印刷に供せられる。元上海の公興洋行がロンドンの Darling & Co., Ltd. (道林廠) の製造にかゝる印刷用紙を輸入せしより、其の製造家の名をとりて華人間に専ら道林紙と稱されしに始まる。又道林紙と云へば「上等印刷紙」の代名詞としても用ひらるゝことあり。又桃林紙なる一種がある。普通二七吋の四〇吋のものである。或は小道林と稱する一種もあり、重さ五〇封度乃至八〇封度である。その三一吋の四三吋ものは之を大道林と稱し、其染色したるものに染紅道林或は梅紅紙と稱するものがある。市中六〇封度の道林紙最も多し。紙面稍粗なるもの之を毛道林と稱し獨逸産である。

二、木造紙 (Simili Paper)

日本で云ふ模造日本紙にして仿造洋紙とも稱す。元來我が印刷局特製の三極紙に模造したゝめに此の名がある。始めて之を模造したのは獨逸なりと云ふ。亞硫酸紙料のみを以て抄造した紙。支那市場に於ては日本品最も多く上海港のみにて日本よりの輸入四五六千封度、瑞典より三五六千封度、其他各國を併せて一箇年一二四七千封度の輸入があつた(一九二五年)。その質強靱にして印刷に適し厚薄種々の種類あり、大きき三一吋の四三吋もの多く、重さ三六、四五、四七、五五、七〇、九〇、一〇〇、一二〇、一三〇、一五〇封度もの等の種類がある。時價毎封度一錢二厘五毛位(兩)華人普通呼んで封度紙と云ふ。

三、二號紙 (Bond Paper)

高級筆記用紙、證券用紙なり、紙質強靱且薄く普通市販品の種類次の通り。

一一吋 × 一七吋

一〇封度

米國品

前篇 滿洲に於ける紙の需給

一七吋×二二吋	二〇封度	同
一八吋×二三吋	一六封度	同
二二吋×三四吋	二八封度	英國品
二二吋×三四吋	三二封度	米國品
二二吋×三四吋	四〇封度	同

色合も種々ありて淡藍、淡水、淡黄、金黄、金黄、蛋黄、粉紅等がある、重さも上の如く種々あり長網機抄造にて硬質サイズ(桶又はエンチンの中にて)を施し懸架空氣乾燥又は機械乾燥に附し、適宜の光澤を施し或は無光澤仕上りのあり。又長纖維に依る紙層の空隙或は雲狀構成を消殺するため高壓のロール處理を加へて緊縮せしめるのである。公債證券、合法證券、保險證券等の用途に従ひ通常その紙質、強度、耐久力を定めて抄造する。商業上の用紙として極めて多方面の用途に供せられる。紙質はバンクスに似てをる。

四、鈔 票 紙 (Bank Note Paper)

日本の鳥の子紙にして支那に於ては銀行紙幣、支那錢鈔發行の小額紙幣等を造るに用ひられる。外國に於ては亞麻、布屑等を原料とすれども日本では三極皮を用ひ溜漉法により抄造する。歐洲にては主に手工抄造するも米國は主として機械製である。日本では静岡縣主産地たり。重量三〇、三三、三四、三六、四〇封度の數種がある。その中三六封度の最も市中に多く三二、四〇封度ものは少い。サイズ二二吋の二七吋半又は二八吋。上海港のみにて一箇年四七八千封度の輸入がある(一九二五年)内日本より九五千封度、米國より一五八千封度、諸威五九千封度、獨逸七七千封度、伊太利五五千封度。

五、印字紙又は考皮紙 (Copying Paper)

紙質薄くして無サイズなれども普通光澤を附してある。淡黄色の日本製薄紙(雁皮又は三極皮纖維は特に此目的に適す)大き二〇吋×三〇吋毎リム四封度、七封度の兩種あり、上海に於ける輸入合計七千封度(一九二五)の中日本品約六千封度を占む。

六、打字紙(炭素紙、炭酸紙) (Carbon Paper)

淡藍、桃江、黑色等あり。サイズ又種々あり。二三吋×三四吋もの多し。片面塗、兩面塗あり。四八〇枚にて四封度、五封度半、七封度位の輕量である。

七、東 洋 紙

日本紙を總稱するものにして所謂和紙である。

八、連 史 紙

支那市場に於ける洋紙の大部分を占むるものにして支那製紙工場に於て抄造せるもの多く之である。純白に仕上りたるものを洋連史と稱し、又機械連史とも云ふ。木材パルプ製のものも多く印刷に供し、即ち薄質の中下等印刷紙である。之の上等なるを中國連史又は改良連紙と云ふ。本紙は筆寫にも適し又中國の便箋等にも用ひられる。二五吋の四四吋ものが多い。

九、有光紙又油光紙 (M.G. Caps)

機械製片面光澤ある薄質紙にしてヤンキー型抄紙機で抄造したものである。上海港のみの輸入洋紙の約二割三分を

占める。専ら中等以下の書籍印刷に用ひられる。大き二五吋の四四吋、毎リム一七封度、近來支那工場でも之を造る。之に種々色付けしたのものもある。

一〇、報 紙(新聞紙) (News Print)

支那輸入紙の大宗にして近年新聞事業の發達と共に需要年々増加するも支那に於ては今日尙生産がない。一割乃至二割五分の亞硫酸木紙料を含有し大部分は碎木紙料より成る。輕サイズ機械仕上げなり。支那市場に輸入されるものは瑞典、日本、諸威品を主とし近年日本品次第に優勢の地歩を占めつゝある。

一一、洋 表 古 (M.C. Buff Paper)

品質強韌書籍の表紙、壁紙時に印刷に供することがある。産地は瑞典にして、サイズは二五吋の四四吋である。

一二、書 面 紙(表紙) (Book Cover M.G. Pressing Paper)

藍、綠、雲青の各色あり、質強韌の厚き紙にして帳簿書籍の表紙に主として用ひられ、普通サイズ二五吋、三七吋英、日、瑞より主として輸入される。

一三、彩 紙 (Coloured Grazed Paper)

一に五彩紙とも云ふ。各種に色付けられ専ら廣告用紙として用ひられる。二五吋の四四吋もの普通である。

一四、棉 紙 (Wadding Paper)

其の質強厚帳簿等に用ひられる。貴重品の包装等にも用ひられ、サイズは二六吋半の三三吋。

一五、銅 板 紙 (Art Paper)

アート紙なり、品質緻密光澤あり、寫眞銅板用、凸板印刷用にして三一吋の四三吋、重さ二〇〇封度、一一〇封度、一四〇封度、日、英、獨、伊より重に輸入される。

一六、凸 飾 紙 (Embossed Paper)

各色各種の色彩並に凹凸花模様等の圖案を附せる紙にして箱張り裝飾用等に用ひらる。

一七、布 紋 紙 (Circuit Bond)

高級の證券筆記用紙、支那にては信箋、信盒に用ひらる。其ピンク色、淡綠等は婦人の歡迎するところである。大き一七吋の二二吋。

一八、細 花 紙

各色各様の模様ある薄き書面用紙にして硬きものは表装にも用ふべく、又帳簿書籍等の表紙にも用ふ。大き二〇吋の三〇吋。市場には英國品が多く。

一九、冰 紋 花 紙

冰花狀の模様であるところから出た名である。表装用にして二二吋半の三〇吋半。

二〇、夫 士 紙 (Fools Cap)

昔時弄臣の冠る帽子の形を漉入れにして他と區別したる筆記用紙の名に起因する。高級帳簿筆記用紙として廣く用ひられ英國道林廠の製品最も多し。二六吋の三三吋(五六封度)、二六吋半の三三吋(六四封度)、二六吋半の三三吋(七二封度)上海市場では日本品及伊太利品最も多し。

二一、招 帳 紙 (Poster Paper)

片面滑澤の廣告用紙である。

二二、吸墨紙及圖書紙 (Blotting Paper & Drawing Paper)

吸墨紙は日本品殆どなく英、米、獨、伊の製品が多い。良品は襪襖製なれども、普通品は化學的木材パルプを混用する。紙質の柔軟性と吸水性を増さしむるために一割乃至二割の填料を加へる。

圖書紙は日本品優勢である。上質品は木綿或は亞麻なれども良質化學的木材パルプを混用することが多い。紙質堅剛にして緊縮性に富む。厚質筆記用紙の一種紙面の手觸りは稍滑かなれども鉛筆の墨痕が迅速に附著するだけの粗粒面を要するのである。光輝或硝子様の斑點なく軽く仕上げ消削性に富み強サイズを施したものである。特に上質品にはダブルサイズを施したのものもある。

二三、捲 煙 用 紙 (Cigarette Paper)

紙巻煙草紙にしてテイツシュの一種である。喫煙に際して燃焼の臭氣を避けるため大麻、亞麻、及苧麻の襪襖を原料とする。又燃焼を良好ならしむるため原質に若干の炭酸マグネシウムを混す。總てサイズを施さず、俗にライスペーパーと稱するものがそれである。筒捲きと箱入と二種ある。每捲一五六〇米、幅二九一三〇ミリメートル、箱入りのものは百帳入りにして一帳四〇張又は六〇張である。現在日本品最も優勢である。

二四、手 巾 紙 (Napking Paper)

食卓手巾用紙である。機械漉薄葉紙を用ひ縮揉を施したものと然らざるものがある。薄いものは時に石鹼等の包装

に用ひられ、サイズは殆ど一定しなす。

二五、鷄 皮 紙 (Manila Enveloper)

マニラ封筒用紙である、片面光澤ある厚質の紙にして耐折度を有し、ペン及インキに適する仕上である。

二六、牛 皮 紙 (Kraft Paper)

全部又は大部分硝酸曹達法即ちクラフトパルプにて抄造したもので、その質強靱牛皮に似たるを以てこの名がある。現今では各デパートメント、ストア等にて包み紙其他に廣く用ひられる。獨逸、瑞典よりの輸入最も多い。

二七、玻 璃 紙 (Parchment Paper) 蠟 紙 (Waxed Paper) 油 紙 (Greased Paper)

之等を一括して支那では玻璃紙と云ふ。半透明狀にして紙質強靱弾力性があつて濕性を防ぐに適し、専ら藥品、石鹼、菓子等の包装に用ひられる。

二八、黄 板 紙 (Straw Board)

日本品最も優勢である。薬を不完全に處理して製造した板紙である。粗雜なる箱用又は荷造用とする。

二九、縹 紙 (Crepe Paper)

縮緬紙にして裝飾用に用ひられる。用紙は概して亞硫酸パルプ製なれども、時々碎木紙料を混用したものがある。紙ナフキン、紙タオル等にも用ひられる。又種々に着色したものもある。

三〇、壁 紙 (Wall Paper)

室内裝飾のため壁及天井に帖被する紙の總稱である。支那では長江流域に需要最も多い。原紙は階級によりて種々あ

るが、廉價級のものは碎木パルプを主とし高級のものには化學的パルプ其他上等の原料を使用する。厚さは中量以上にして捺染機と同様の機械を以て種々なる意匠彩色を凝らし、一定幅の巻取状としハンギング Hangings と通稱する。

第二項 土紙

支那土産紙は洋紙に比して一層その名稱、種類等複雑して居り同一品種のものも産地、用途等より種々なる名稱がある。蓋し支那は「紙の歴史」に就ては殆ど其第一頁を占むるとも稱せられ殊に文字の國として又毛筆を用ふる事等より洋紙の輸入後も華紙は依然として、獨特の地歩を占め、書畫用紙としての「宜紙」の如き内外最も珍重するところである。

普通支那市場にある土産紙の種類を見れば大體之を三別し得る。即ち(一)毛皮紙は粗紙にして包紙に用ふる種類の廉價なるものを總稱し、(二)連史紙は印刷帳簿等に用ふる上等紙を總稱し、(三)唐紙は書畫、信筒等の用に充つるものにして價不廉である。以上三種に屬する名稱、産地等を詳別すれば左の如くである。

支那土産紙の種類

名稱	重量	産地	用途
毛太	三四斤	江	寫字用
白單	二八	杭	包紙用
四兩	四	同	同
川連	三〇	福	寫字用

名稱	重量	産地	用途
羅天	四〇	同上	帳紙用
元江	六四	同上	同
市市	六〇	江	同
市參	二四	杭	帳紙用
七千	四五	同	同
五皮	五六	同	同
斑皮	三〇	同	同
六字	三〇	同	同
柏字	三〇	同	同
五珍	三七	同	同
奉珍	三〇	同	同
木皮	六〇	寧	包紙用
江皮	五〇	餘	包紙用
江皮	四〇	浙	包紙用
同皮	二八	同	同
同皮	七〇	同	同
行參	二四	同	同
安慶	二二	同	同
五把	四〇	同	同
六把	四〇	同	同
黃五	四〇	同	同

第二章 支那に於ける紙の需給状態

客表	六〇	江																						
南平	四〇	杭	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
老甲	四二	杭																						
大名	一八	杭																						
江毛	〇・九	杭																						
江西	四五	同																						
五成	四〇	江																						
連史	五四	餘																						
六才	二四	廣																						
		東																						
		杭																						
		同																						
		州																						
		西																						
		州																						
		同																						
		瀘																						
		水																						
		同																						
		用																						
		紙																						
		用																						
		紙																						
		用																						
		紙																						

今之等の中主要なるものに就て解説して見る。

福建省に多く産し、又江西省横江(石城縣)地方にも産するために福建毛邊、横江毛邊の名がある。用途最も廣く帳簿、筆寫、習字より包装用に至るまで凡く用ひられ、二二吋の五二吋のもの最も普通である。尤も製造地によりて多少は異つてをる。荷造は六刀半、これ呼んで六五紙と云ふ理である。每刀一五九枚、福建省のもの官推の別名あり、その内美大仁官推のもの最も賣行良く、價額每刀一兩四匁位にして江西産のものでは寧元和恒の商標のもの良く通り、元和重紙の別名さへある。一箇荷造五刀である。其他上海市中にて賣行宜敷ものに立昌和、聚興生、雙裕隆、泰昌乾和等の商標あり、一箇八兩——十二兩、品質により高低がある。良質は紙質細緻にして蛋黄色を帯び紙面平滑、毛筆筆寫に際して墨痕明瞭にして原料は竹のパルプである。近來木材パルプを混じたるものも市中に散見する。

二、連史紙

支那に於て専ら書籍、印刷に用ひられるものにして品質毛邊紙に比して良好、同じく竹を原料として純白細緻にして少しく綾網あり。其名の來たるや元連四と稱し、後連泗に轉じ今日では連史と云ふ。之れ福建の連史兄弟の創製にかゝる故である。產地福建洋々縣、江西省鉛山縣地方にて支那各地に於て用ひられるもの大抵此地方の産出にかゝる。普通二五吋の五四吋にして荷造一箇一五刀、每刀九五枚、市販品の種類、大きさ、價格大凡次の通り。

和茂本莊	二五吋×四三吋	一二兩二
文康京莊	二四吋×四五吋	一三兩四
本連史	二五吋×四三吋	一二兩八
復源姓加蓋	二四半×四三半	一〇兩六
祥興本連	二五吋×四三半	一二兩八
樹大加魁	二五吋×四四半	一二兩

最近上海地方其他で新式製紙機械製の連史紙亦多い。之を有光連史及連史に分つが既に洋紙の部に述べたから茲には省く、連史にも數種あつて賽子、元字、天字、光字、天加工、光加工等の別がある。一箇荷造一五刀、重量六〇封度より九〇封度に至り固有の連史に比し品質劣る。

三、宜紙

安徽省宜縣の産出である。尤も宜紙の發源地は宣城を距る稍遠き涇縣なるも小邑のことゝて宣城の産を通稱する。宜紙の名之より來た。又貢宜とも云ひ、その種類甚だ多い。良好なもの白露、全榜、畫心、棉料等にして長さ二丈、

第二章 支那に於ける紙の需給状態

八尺、四尺、六尺(支那尺)等がある。又厚薄種々あつて單層、二枚重、三層のもの等あり、用途は主に書畫、聯子又信箋等にして近年海外輸出も相當盛である。原料は標皮にして俗に棉花を原料とすると云ふは誤りである。

四、貢川紙

主に福建省汀州連城より出る。故に又汀貢紙とも稱し或は挺貢とも云ふ。主として商店の商標又は錢莊の支票などに用ひる。大貢川、小貢川の別がある。大貢川は荷造り三三刀、二二吋の一〇吋、小貢川は四六刀、二二吋の九吋 $\frac{3}{4}$ 。

五、川連

福建省より出る薄質の連史紙、二〇吋の二五吋 $\frac{3}{4}$ 、每一箇荷造四四刀、用途は筆寫である。

六、元書紙

浙江省富陽縣の産出にかゝり、石竹を原料とし黄色を帯び毛邊紙に從て品質稍々劣る。浙江地方に於て専ら書寫、包装に用ひ、六千元書、五千元書の兩種がある。大さその他次の通り。

六 千 元 書

一九吋三×一八吋三

每件五二刀

五 千 元 書

一七吋五×一六吋五

每件四六刀

七、昌山紙

元書紙に殆ど同じく産地亦同じ、大さ一六吋二×一三吋八、每箇八八刀、時價約一〇元位。

八、羅地紙

廣東省の名産にして紙質純白多く書信用に供せられる。又商店發票等用途は廣い。二二吋×五二吋、每箱二〇刀、時

價約五元五〇仙位。

九、毛六紙

又毛鹿紙とも云ふ。福建地方の産にして用途は帳簿、信箋、書寫等甚だ廣い。大さ二〇吋×三三吋、天印毛六每件八刀、價格八兩内外、又改良毛六紙と稱するもの每件一六刀、價格一六兩、大さ二〇吋×三三吋三、普通品に比し色一層純白。

一〇、毛太紙

一一、表芯紙

江西省、福建省産、其質柔軟にして水煙を飲むときの火付用に用ひらる。大さ二二吋半の一七吋。

一二、海放紙

浙江省産、用途(一一)に同じ 一六吋の一六吋三。

一三、六印參皮

主産地浙江省、他省にも産し、大さ一九吋七の一七吋五にして用途は書畫の表裝用及内張り等にて原料は桑皮である。種類多く毛邊參、茶箱參、白料參、灰參皮、四連大參皮等がある。

一四、參項紙

參皮紙の一種にして反古紙を原料とし、大さ一四吋×一二吋。

一五、純皮紙

浙江省富陽地方の産、又一に白單紙とも云ふ。用途裏張用又柔軟なるより桐油を以て油紙を造ることがある。四五吋の

六五吋。

一六、桑皮紙

浙江省餘杭地方の産、紙質柔軟、用途衣服の保存、貴重品の包装等に用ひらる。仙鶴印、杭一印等市販品に多い。大さ一八吋の二〇吋半。

一七、安慶皮紙

安慶地方の産、一に安慶雙參とも云ふ。二三吋の一八吋。

一八、奉化紙

寧波附近及奉化地方より産し、一二吋の一八吋三。

一九、牛莊皮紙

牛莊地方の名産にして一九吋三の一八吋三。

二〇、高表紙

黄色の粗紙にして一六吋五の二三吋。

二一、黄元紙

浙江省産(二〇)に殆ど同じ、一二吋半の一八吋半。

二二、表黄

浙江省富陽地方の産、用途廣く一二吋半の一八吋半。

二三、廠黄

(二二)と同じ、二三吋半の一七吋半。

二四、草紙

唐片とも云ふ。稻藁を原料とする。浙江省富陽地方に出る、多く支那人の廁用、七吋半の八吋三。

二五、杭邊紙

各地に産し、下等紙にして包装用に用ふ。八吋七の八吋。

二六、表古紙

栗色の書籍表紙用にして大さ四〇吋半の四二吋半、産地浙江省。

二七、白關紙

浙江省産用途普通包紙及帳簿用。一八吋七の三二吋。

二八、南屏紙

杭州の産、用途書畫の表装用にして一二吋の一三吋。

第二節 生産狀況

第一項 支那製紙業の沿革

紙の發明は支那が世界で最も早かつたと考へられてゐる。即ち今を距る約二千年前後漢の時代に蔡倫が破布、魚網

を用ひて紙を發明せしを以て世界に於ける抄紙術の濫觴なりと傳へられてをる。この抄紙法は印刷法の發明と共に支那の文化に一大進歩を劃したことは汎く世人の認むるところである。支那に於けるこの製紙法は日本初め其他西歐諸國に傳はり、總てそれ等諸國の文化の發展に伴れて間斷なき改良が施され、遂に今日の如き精巧大規模なる製紙術が完成されるに至つたのである。然るに支那に於てはその發明の早かつたにかゝわらず、殆ど多くの改良を見ず今日に至るも舊態依然支那の製紙とし云へば所謂その舊式製紙を指す程近代的機械製紙に較べて遙に盛である。然しながら支那も亦近年に至り旺に日本其他の新式機械製紙術に倣ひ今やその工場數二十餘を算するに至り、舊來の手工製紙と併存してゐるが、何と云つても手工製紙遙に盛にして機械製紙は未だその需要を充たすに足らず、洋紙の殆ど大部分は擧げて輸入に俟つ現狀である。

抑々支那に於ける歐米式機械製紙工業は前清光緒十七年李鴻章によつて創立された綸章源造紙廠を以てその濫觴とする。然し該工場は其後事業不振の結果久しく操業を歇めてゐたが、一九一八年(民國七年)名を寶源造紙廠と改めて再び事業を進めた。尤も光緒三十三年大成機器造紙公司なるものが創設されたが、その工場は香港であつた。

その後光緒三十一年重慶に富川紙廠が設立されて専ら燐寸箱用紙等の製造を創めたが、極めて小規模なるものであつた。次で卅二年紳商龐元濟其他によつて資本銀四〇萬兩で上海市外に龍華造紙廠が設立され、又樂元造紙公司が設立された。該廠は其後成業造紙廠と改め更に現在の華興造紙公司となつたものである。

又右の外に官營製紙工場として廣東印刷局があり、又宣統二年に張之洞氏によつて組織された白沙洲造紙廠等がある。同年北京政府財政部は造紙廠を計畫し、度支部の直營事業として資本金二百萬兩を以て創設しやうとしたが、時

偶々革命のために頓挫を來たした。革命政府は之を繼承して民國元年(一九二二年)二月初めて開始された。之が支那最大の官營製紙工場であり且つ亦全國機械製紙工場の首位に置かるべきものである。又同年江門造紙廠が設立され連紙及包裝紙の製造に従事し、其後更に一九一〇年華盛造紙版股份有限公司、同十一年杭州に武林造紙公司等の設立を見最近にも數箇所會社設立の計畫があり、今後益々此趨勢は旺になるであらう。

斯くの如く支那は今を距る遠く二千餘年前に世界に率先して紙を發明して之を後進諸國に傳へながら、爾後自國に於ける斯業の舊態依然たるに引き替へ之等後進諸國に於ては其術間斷なく改良進歩したるがために今やその所謂近代的機械製紙を逆輸入してゐるのである。即ち製紙の術は支那より出で、二千年間世界を一循して再び支那に歸へらんとしてゐる形である。

第二項 製紙法

支那に於ける製紙業は從來の手工製紙と近年漸く輸入しつゝある機械製紙との併行状態に在るが、今のところ前者遙に後者を凌ぐ盛況に在り、近代的意味に於ける製紙工業の不振は既に述べたところである。茲にはこの兩者の製紙法を述べんとするのであるが、斯くの如く支那に於ける製紙が現在手工製紙を主としてをり旁々機械製紙法は内外略ぼ其の規を一にするが故に、茲には支那在來の主たる製紙法を略述して、その機械製紙の法は後述日本に於ける製紙法の項に譲ることにする。

支那土産紙の原料は時に他の草類(蘆の類)を用ふることもあれども多くは竹を用ひる。楮を用ふるは主に福建及浙江

地方である。其他薬、襪、反古紙等を用ふることなしとはいえないが、竹を最も普通の原料とするのである。竹を以てするには筍發生後五六尺になつた時に之を採取して十尺立方位の池を掘り、周圍を石灰等にてタタキとなし、桶を通して水を引き、この中に竹その他の原料を一二尺位に切りて入れ、石灰水とも浸して置くのである。かくすること一二箇月にして紙料は軟弱となり、腐敗し分解して皮は直に剝落するを以て表裏兩面皮を剝去し其肉を細切して之を臼に入れて粉碎する。臼の動力は主に牛又は水車を用ひる。かくて得たるパルプより紙を漉くのであるが、別その間何等化學的藥品を以て漂白其他の處理を加へない。極めて原始的方法でその抄紙の如き因より手漉を以てするのである。

第三項 製造戸數及生産高

支那の製紙業は大規模なる機械製紙でなく、主たるものは在來の家内工業的製紙なるが故に、さなきだに困難なる製造戸數及びその生産高の正確なる數字を知ることは一層困難である。従て是等に關する多くの資料は斷片的であり且つ相互間に可成の相違があつて果して何れを信すべきかに迷ふ。今最近の事情を報するものに支那海關報告がある之に據れば一九二三年に於ける全國製紙家數(手工及機械の兩者を含む)、製紙、職工及年總生産額次の通り。

全國製紙家數	五五、八六八軒
製紙工總數	男工 二七四、九八七人 女工 二二三、五一一人 計 二九八、四九八

年總生産額

五四、八六〇、七七五元

(三六、三三一、六三九海關兩)

即ち此によつて大體現在支那の製紙家數は約五萬六千、之に従事する職工約三十萬人、而してその生産額約五千五百萬元(三六、三三一、六三九海關兩)なりと云ふことが判る。(同年の海關兩對銀元の對比は一兩一・五一元)

然らば此等の紙は如何なる地方に最も多く産するものであらうか。既に述べた通り、由來支那の製紙業は從來の手工的製紙を以て主となすが故に、従て農家の副業的意味も含まれて幾んど全國に遍及してゐるのであるが、就中安徽江西及福建の三省は古來紙の産地として有名である。即ち福建及江西の連紙、毛邊紙と安徽の宜紙は内外にその名あり。この他浙江の皮紙等も市場に歡迎さるゝところであり、その需要は極めて旺である。

而して此等支那製紙は果して如何なる品種なりやを見るに、その種類素より本章第一節に述べた如く極めて種類に富んでゐるが、品種別に見て最も多きは上記主産地が福建、江西、安徽の三省であるだけに連史紙、毛邊紙及宜紙を以て最多となす。

過去に於ける生産狀況を知らんが爲めに、果してどの程度迄信じて可なるか不明なれど参考迄に農商統計によつて民國元年から同十年(その後の發表なし)に至る製紙戸數、職工數及品種別生産額を表示して見れば次の如くである。

累年比較 (第九次農商統計表に據るものなるが計數に不合あり)

區分	年									
	次	民國元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
製造戸數	四、七二	五、八一	四、〇六	五、八八	三、五九	三、九三	三、〇六	二、〇九	五、八七	四、六八

職工數計	男		女		連史紙	毛邊紙	宜紙	畫心紙	皮紙	白關紙	油紙	仿造西洋紙	裱心紙	粗製紙	其他	
	計	男	女	計												男
計	三〇,一八八	三六,七二二	一八,一八〇	二七,四九七	三三,四四九	三〇,六二八	二六,一三五	八,三七七	一〇,三九〇	一,三三〇	二,〇九二	一,〇三三	八,五三三	二,五〇七	二,〇九二	一,〇三三
其	七,四八五	二四,五三四	一七,四五一	二五,五六一	二九,八五六	二八,五七四	二四,八四四	二〇,五九〇	一五,〇七五	一〇,八四七	六,五九七	三,三〇四	一,〇三三	一,〇三三	一,〇三三	一,〇三三
粗製紙	一四,〇三三	一五,六七八	一七,九八一	二四,〇八二	二六,七四七	二四,〇二二	二〇,九四二	一五,〇七五	一〇,八四七	六,五九七	三,三〇四	一,〇三三	一,〇三三	一,〇三三	一,〇三三	一,〇三三
其他	七,四八五	二四,五三四	一七,四五一	二五,五六一	二九,八五六	二八,五七四	二四,八四四	二〇,五九〇	一五,〇七五	一〇,八四七	六,五九七	三,三〇四	一,〇三三	一,〇三三	一,〇三三	一,〇三三

備考 計の欄中小字は一兩二一・六三元の率を以て換算したるものなり。

第四項 主たる機械製紙工業現況

一國文化の程度は其の紙の使用量の多寡によりて判断せらるべく、而して其の製紙能力は又一國工業の遲速を表示する標尺である。蓋し國家にして愈々文明なれば紙の使用愈々多く、製造も亦従つて夥しいであらう。支那は近年その著しき文化の向上に伴れて年々夥しき洋紙の輸入を見ると同時に、是等洋紙を抵制し、利權を挽回する見地から頻頻として製紙工廠を設立するやうになつた。今やその主要工廠約二十餘を以て算する。然しながら是等の工業は概して極めて不振の状態に在る。其の原因としては或は資本の過少、經營の不熟練等を挙げられてゐる。素より其の主要因が上記に在ることは明であるが、支那の製紙業の障碍は實に之等に止まらない。そは一二規模も相當大きく組織も亦比較的完備しながら未だ充分なる成績を挙げ得ないのを見れば判る。聞くが如くんば由來支那在來の製紙が家内工業である關係から偶々經營に着手せんとすれば郷民の生計、公衆の衛生に口を藉りて反對し、或は更に官廳に請願して既設工廠に對し嚴重な取締を乞ひ、或は又未成工廠の添設を禁止すべく乞ふこと多しと云ふし、又走馬燈のその如き政局の不安定等は依て支那製紙業不振の重大なる因を爲すものではあるまいか。これ過去に於ける洋紙の需要が著しく増加し、將來は更に又恐るべき激増を來たすべく豫想され、從て支那機械製紙業の前途極めて有望なりとされながら何等の進歩發展を見ざる所以のものである。故に將來支那に於て製紙業の眞の發展を望むには資本と經營の熟練の外に政局の安定と、更に高き民度を要するものである。然らざる間は支那は永遠に紙の輸入國に甘んじなければならぬ。莫遮支那機械製紙工業の現況を掲げれば凡そ左の通りである。

機械製紙工業現況

名	稱	所在地	資本金	産品	産額	設立年
白	沙	武	昌	印刷紙連史紙等	年	一九一〇

第二章 支那に於ける紙の需給状態

極めて不振の状態に在ること前章既に記述の如くである。然し在來の支那紙は近代文化と密接なる關係を有つ印刷用紙例へば新聞、書籍及雜誌等に使用するには頗る不適當である。從て印刷法の發達に伴つて支那の洋紙に對する需要は過去に於て日進月歩の勢で増進したのみならず、自國の生産の趨勢より推せば將來に於てこそ更に一層その勢を逞しうするものである。

今一九〇五年以降に於ける洋紙の輸入額を見れば左の如くである。(單位海關兩)總輸入(再輸出を含まず)

年次	總輸入額	年次	總輸入額
一九〇五年	三〇八四、四六〇	一九二三年	一六、七八五、八七七
一九一〇年	五、五二〇、五六三	一九二四年	二〇、二四九、五二八
一九一五年	六、三七五、七六五	一九二五年	一九、一八〇、三九九
一九二〇年	一四、四〇四、六五〇	一九二六年	二七、七九四、五〇三
一九二一年	一五、六一三、七二八	一九二七年	二五、五四四、六三六
一九二二年	一三、八六二、五五五		

註 Yellow Book に據る。

この數字に就て見るも一九〇五年は僅に三〇〇萬兩に過ぎなかつたものが、その後漸次増加して一九二〇年に至るや一躍一、四〇〇萬兩餘に激増し、其後引續いて一、〇〇〇萬兩以上を持續しつゝ遞増して來たが、一九二四年には二、〇〇〇萬兩を超へ、次で一九二六年には約二、八〇〇萬兩に達した。之を一九〇五年に比べれば約九倍以上に、一九一〇年に比べれば約五倍の激増振りである。これ支那文化の發展を證する好個の資料である。勿論この期間に於ける紙價の昂騰を計算すると、その數量は輸入價額に對する比例を異にするとは云へ、その急激な増加率は何としても注意

に値すると共に、他面支那の文化的向上發展を暗示するものでなければならぬ。

第二項 主なる品種とその相手國

輸入洋紙類は歐洲大戰以前に在つては獨逸、奧太利、瑞典產品最も優勢を示してゐたが、大戰中は出荷杜絶して遂に日本、英國產品之に代つた。輸入紙は連史紙、毛邊紙、新聞用紙、板紙及模造紙等にして、此外印刷用紙及紙幣用紙は多く日本品に係り、英國より輸入するものは寫字紙を主とし品質極めて佳良である。朝鮮より輸入するものは毛邊紙、包皮紙、油紙及大甲紙等である。現在輸入されるものは日本品最も多く次は英國、獨乙、米國及佛國等の產品である。海關の統計によれば最近三箇年に於ける輸入各種紙類の數量は左の通りである。(單位擔)

紙名	民國十三年	民國十四年	民國十五年
普通印刷用紙	六二二、九七六	六三二、五七二	八〇六、二五八
有光紙	三九一、四六〇	四〇二、八九八	四九六、六一八
印刷用紙	二四六、八二七	一七七、七五九	二六三、七九八
卷煙草用紙	四三、三六二	二八、四一三	四六、五三六
合計	一、三〇三、六二五	一、二四一、六四二	一、六一三、二一〇

これ等の紙の輸入相手國の主なるものは已に掲げた通りであるが、今更に相手國別に輸入額を示せば左の如くである。(海關兩)

年次	日本	英國	獨逸	米國	佛國	其他
一九〇五年	一、三九、八七五	一、二六、五七五	三〇、七七一	四、三二六	八、三三三	三〇、八三三
一九一〇年	一、九〇、一〇〇	一、九〇、三六八	一、五五、七七一	二、四二二	七、九三三	一、〇九、六五九
一九一五年	二、一五、一三三	一、七三、一五九	一〇、一〇〇	一、〇六、四四六	二、四八五	一、四三〇、〇三二
一九二〇年	四、四七、五〇六	二、六五、九三〇	一、八三、五三三	三、一七、四二六	二、五四七	三、八九、三三九
一九二一年	六、三三、三三六	三、一三、六三四	三、九四、一四一	三、八四、七三三	二、六七四	一、八五、六三四
一九二二年	五、一七、九九九	三、一九、四四四	六、八、五七〇	一、四〇、〇九〇	一九、九七三	三、五三、六六九
一九二三年	五、一五、〇六二	三、七六、八七四	一、一八、〇〇五	一、八〇、〇六六	三、八三四	四、九三、九二七
一九二四年	四、九三、七〇四	四、八八、九四四	一、八六、五二九	二、八〇、二八八	三、八三四	五、七〇、〇〇九
一九二五年	七、七〇、〇三三	二、九三、三三五	一、三三、五三三	一、三三、九七三	三、三九七	五、五五、一六〇
一九二六年	九、〇九、五〇〇	四、三三、一九四	二、九三、九三三	二、六三、三三三	六、八、二二九	八、一四、六二五

註 本表の數字は經濟資料第十四卷第十二號による。

因みに其他諸國中に於て一〇〇萬海關兩以上の取引のあつたものは諾威、瑞典及伊太利の諸國である。

第三項 主なる輸入港と輸入額

次にその輸入港に就て見ると、五大港中上海港は紙輸入貿易の初期以來最も重要なもので、その額も極めて多額に達して居る。即ち次表に示す如く、一九二〇年以來は何れも五〇〇萬海關兩以上を算へて居り、多きは九〇〇萬海關兩

以上であつたが、尙同港は一九二六年の如き著しい増加を來して二、六二五、四七九海關兩に上つた。之に次では遙に下るが天津、大連、廣東の諸港であるが、此等の諸港の輸入額は何れも歐洲大戰頃から相當の増加を示してゐる。(海關兩)

年次	大連	天津	其他	漢口	上海	其他	廣東	其他
一九〇五年	—	五〇、四〇六	七、二、三六八	一、四、三三二	八七、九三六	一、五、三三〇	三、三、九三〇	四、五、六四七
一九一〇年	三、八、〇〇七	九〇、一、五〇〇	一、七、一、二七	二、七、九七三	一、三、八、三八〇	三、一、四六六	七、三、七八〇	四、五、〇九二
一九一五年	六、三、三六八	一、七、九、九四	六〇、一、七五	三、三、四七	一、五、〇、七三五	五、六、七五四	四、八、〇七七	五、五、二八六
一九二〇年	九、五、〇、七六五	一、八、九、二、九六	八、九、九、八八	三、三、八、三六	八、三、三、四六六	六、四、三、二二	八、二、〇、〇九	三、四、七、七九
一九二一年	一、五、八、三、二七	三、〇、〇、〇六	一、五、九、四、三六	六、〇、四、四四	六、二、四、六、〇三	八、〇、七、九五四	一、三、〇、〇、六一	四、七、四、四九
一九二二年	一、二、二、六、〇五	二、五、四、一、五三	九、六、〇、三、七	六、九、二、八、六六	五、七、四、七、四一八	一、〇、一、八、九、〇二	一、五、九、三、三三	五、九、六、三三
一九二三年	一、五、〇、九、七五	二、五、八、一、四三	一、三、四、一、〇三	七、五、〇、七、七九	七、四、五、〇、五五	九、四、五、六、九	一、〇、〇、〇、〇〇	八、七、一、〇、八
一九二四年	一、五、六、六、三	三、三、七、九、三二	一、一、八、九、四九	九、三、三、五、七〇	九、四、五、九、三、四	一、二、七、九、四四	一、八、〇、七、三三	一、〇、一、一、八八
一九二五年	二、〇、七、一、四六	三、五、三、一、〇〇	一、五、六、一、四四	一、九、九、三、〇、一〇	七、五、四、八、四、七七	一、五、三、四、六、〇	一、一、五、六、九、四	九、四、〇、一、八五
一九二六年	三、九、七、七、七	三、五、〇、〇、三	二、〇、九、〇、〇七	二、八、〇、二、九二	三、六、五、四、七九	一、七、六、一、四七	二、二、八、四、三、七〇	一、一、九、三、五、八

備考 其他の諸港として一九〇五年度には一、二二七海關兩、又一九一〇年度には五、八二六海關兩が計上せられ居るも此等は便宜上其他南部支那中に合計表示せり。本表の數字は經濟資料第十四卷第十二號による。

第四節 輸出状況

第一項 輸出品額

支那は紙の輸入國なるが故にその輸出は素より多かるべき理由がないが、生産旺なる支那在來紙はその有する特殊

の性質と用途及在外華人の傳統的慣習等から相當額を輸出しつゝある。今一九〇九年以降に就て見るも、十數年間數量二一三〇萬ピクル、總價額三〇〇—五〇〇萬兩に上り、既往十數年間の輸出額に見るも、市場は相當穩固にして大きな變動なき様である。

即ちその輸出状況を見るに左の如し。(單位海關兩)

年次	輸出數量	輸出價額
一九〇五年	二七八、八六五	三、三八九、九〇四
一九〇六年	二九四、四九九	三、一〇六、四三〇
一九〇七年	二九二、五一五	三、二五〇、三五九
一九〇八年	二四九、四七四	三、一八二、八六一
一九〇九年	二二九、九七五	二、八六五、〇二九
一九一〇年	二五三、〇一三	四、二六一、〇五二
一九一一年	二八一、六七〇	三、九五七、一六二
一九一二年	三〇三、三九五	四、五三八、七七一
一九一三年	二八五、五三二	三、九七七、六四九
一九一四年	三一九、三〇九	四、八三三、三四八
一九一五年	三四一、八四六	五、一二三、七〇五
一九一六年	二八〇、一三八	四、八六四、八七七
一九一七年	二七八、四六九	五、一一五、七六一
一九一八年	二七三、九八四	五、三五三、二三五

備考 海關統計による。

第二項 主なる品種とその相手國

以上輸出紙の大部分は宜紙、竹紙、毛邊紙等支那に固有の紙であるが、之を海關統計は上等紙、中等紙、下等紙、廠製紙及其他に分類してゐる。

然らば是等の紙は何處へ輸出されるかを最近の海關統計に就て、而してその最も多額を占むる上等紙に就て見れば左の如く、安南に行くもの最も多額を占め、之に次では香港、新嘉坡方面である。

左表は單に上等紙のみに就ての事實であるが、他種の紙に於ても此の傾向は略ぼ同様である。

上等輸出紙輸出先 (單位數量、金額海關兩)

輸出先	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
香港	一五九三	三七七、六一	九、九六六	二、八三〇、〇六	一六、三九三	四、九一四、二二
澳門	一、四八三	五〇、九四	六、七	一九、九〇一	一、二二二	三、九〇〇、〇〇
安南	三、四四三	四三三、七六	三、九七六	八〇三、二七	二、五五二	六、八五八、六
暹羅	一、四三三	二八三、〇一	一、五七三	三九八、二五	一、四四六	三、六九七、七
新嘉坡	五、九〇三	二八、七五二	八、六九三	二、五一八、三三	六、三八一	一、七三三、四
印度	三、六六	八〇、四七	四、六六	一、九〇八	三、三三	一、一〇八、
土、波、						
獨逸						

第二章 支那に於ける紙の需給状態

三三

年次	佛國	伊國	露國、太平洋各國	朝鮮	日本	比島	加奈陀	米國(含布哇)	メキシコ、中米、パナマ	計
一九〇五年	一、四〇五	一、一〇〇	一、〇六六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一九一〇年	一、四〇五	一、一〇〇	一、〇六六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一九一五年	一、四〇五	一、一〇〇	一、〇六六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一九二〇年	一、四〇五	一、一〇〇	一、〇六六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一九二一年	一、四〇五	一、一〇〇	一、〇六六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一九二二年	一、四〇五	一、一〇〇	一、〇六六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計	一、四〇五	一、一〇〇	一、〇六六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

第五節 再輸出状況

一旦支那に輸入されたる紙が再び外國に輸出される額は極めて少額であるが、今一九〇五年以降の數字を見れば左の如くである。

年次	金額	年次	金額
一九〇五年	二八、二四一	一九二三年	一五九、三五八
一九一〇年	三三、六九九	一九二四年	一四〇、八五〇
一九一五年	四〇、七二〇	一九二五年	九九、四二二
一九二〇年	二四五、四六四	一九二六年	一二五、八一
一九二一年	三〇一、八五五	一九二七年	一二八、二五二
一九二二年	一七三、二九七		

註 本表の數字は經濟資料第十四卷第十二號に據る。

第六節 支那に於ける紙の需給状態

以上支那に於ける紙の生産状況及其の貿易状況を概述して來たが、今是等の數字から支那に於ける紙の需給状態を見れば大要左の如く、近年著しく需要を増してゐるが、最近年々約五乃至六千萬海關兩の需要を見つゝある實状である。而してその需給關係を見るに約三、六〇〇萬兩を自國に於て生産し、その中約五〇〇萬兩を海外に輸出するから残り三、〇〇〇萬兩を自給し、その不足額二千數百萬兩を海外からの輸入に俟つてゐるのである。

而して生産は大部分在來支那紙であり、輸入紙は洋紙であるから、現在に於ては洋紙の需要未だ尙土産紙に及ばぬことが判る。自國生産三六〇〇萬兩は一見稍々多きに失する觀なき能はされども、之を確むる方法はないが、彼の廣大際涯なき國土の津々浦々に普及せる紙廠に想ひ到らば、蓋し實を傳ふるものとも惟はれる。

需給表 (單位海關兩)

年次	生産額	輸入額	輸出額	再輸出額	差引需要額
一九一〇年	一、七二五、四四四	五、五〇、五三三	三、四七、七三三	三、三六、九	一、九七〇、二七七
一九一五年	三、六三六、九三六	六、七五、七三三	四、六二、〇三三	四、〇七〇	三、五七〇、九三九
一九二〇年	三、六三三、三三三	一六、六五、八七七	四、八三、三三八	一、五九、五八	四、八二四、八二〇
一九二四年	三、六〇〇、〇〇〇	一〇、四九、五二八	五、二二、七五	一、四〇、八五〇	五、〇九八、九七三

第二章 支那に於ける紙の需給状態

三五



前篇 滿洲に於ける紙の需給

一九二五年	三六,000,000	一九,八〇三,九	四八,六四八,七	九,九四三	五,二六二,〇〇
一九二六年	三六,000,000	二七,九四四,〇	五,二五七,一	二五,八二	五八,五三九,二
一九二七年	三六,000,000	二五,四四六,六	五,三三三,三	二八,二五三	五八,〇六二,四

三六

備考 上表生産額中一九一〇年、一九一五年は農商統計により、一九二三年は海關報告書により、一九二四年以降は之に據つて推定したものである。

第七節 支那に於けるパルプ輸入状況

近代製紙工業の主要原料たる木材パルプを殆んど總べて外國に仰がねばならぬことが、近代的意味に於ける支那製紙工業を阻礙する一因であることは前にも述べたところである。素より生産もあるにはあるが、殆んど問題にならない現状である。今パルプ輸入状況を見れば左の如く、輸入亦必ずしも多くない、以て近代的支那製紙工業の幼稚さを知るに足る。

仕出國より見たパルプ輸入 (單位數量擔、金額海關兩)

仕出國	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
諸威	三,九三三	三,三三〇	一,五五五	六,三三三	八〇	三,九二
瑞典	一,九六六	一,九六六	一,九六六	九,五九〇	九五	四,〇一一
獨逸	八〇〇	四,〇一一				
和蘭						

仕入港	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
伊太利	一三三	四〇〇	一三五	六七五	九二九	四,二六
朝鮮	三三	一〇六	四	四七五	二,四四一	九,四七
日本、臺灣	六六九	二,四九六	三,三九九	一七,四七一	六,二七	三〇,三九
米國 (含布哇)	二〇〇	七六	一,五七〇	七,四八	六,二七	三〇,三九
再輸出	六六九	二,四三三	一,八一九	九,九三	六,二七	三〇,三九
純輸入						

備考 本表はYellow Bookに據る。

次に之等パルプの輸入状況を港別に見れば左の如く、一九二五及一九二六年は上海港最も多かつたが、一九二七年は大連港が最も多い。因みに前仕出國別表は純外國輸入であるに反し、本表は更に支那諸港よりの輸入をも含むが故に數字に多少の増加を見てゐる。

仕入港	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
安東	三三	一〇六	一三五	六七五	三,八二	一七,三三
大連	一三七	五〇五	七〇〇	四,一四三	一,六七	八三
天津	六,五五五	二二,八七六	一,三七	一,五八		
上海	六,六九四	二四,二八七	九,四三	四,六九〇	三,七二六	二二,三三
計	一三,〇八七	四八,三三〇	一,九五	二,〇九六	六,六二七	三〇,三九
輸入超過再輸出	二,〇八七	八,三五〇	一,九五	二,〇九六	六,六二七	三〇,三九
純輸入	四,〇七	一五,九七	一,九五	二,〇九六	六,六二七	三〇,三九

備考 本表の數字はYellow Bookに據る。

第二章 支那に於ける紙の需給状態

第三章 日本に於ける紙の需給状態

我國に於ても亦年々文化の發展と比例して紙の需要は漸増の趨勢に在つたが、とりわけ日清、日露の兩戰役及歐洲大戰の三大事件は我國紙の消費に劃期的大増加を刺戟したものである。中にも世界大戰はその範圍廣汎に互り爲めに世界に於ける紙の需給の均衡を大部分破壊して了つた。於茲乎其影響は延いて日本紙界に大なる刺戟を與へ、且つ内地に於ても需要愈々切なるものがあつて製紙業者は何れも工場の新設、擴張及能率の増進に銳意し以て生産の増加に努めたるために、本邦製紙量は逐年累増し、大正八年に至るや總量實に五〇萬噸の巨額に上り本邦紙界は正に自給的範圍を脱却して世界に於ける供給國たる地位を占得するようになった。其の後需要は依然持續されたが、一方製紙業は目覺しき發達をなして遂に生産過剩に悩むようになつて來た。現在尙僅に特殊品の輸入を見つゝあるが、數年後には是等特殊品さへ殆ど跡を絶ち、完全に自給自足の實現を見んとしてをる。

以下その生産及貿易事情を述べて本邦に於ける紙の需給状態を見ることにする。

第一節 生産狀況

第一項 製紙業の沿革

世界に於ける紙の始祖が支那であることは前章既に述べたところであるが、我國に於ては推古帝の御代に高麗の僧侶が始めて我國に抄紙の術を傳へたと歴史は告げてゐる。然し紙の質を強靱にし、從來の粗製品を立派な精製紙に仕

上げたのは實に我が聖德太子である。太子時代に於て既に楮の皮を用ひて紙を製造することを常とはしたが、その楮を煮るに灰汁を以てせしは太子の發明に係るとされてゐる。尙又和紙の最も困難とする糊即ち英語のサイジングも太子時代より使用されたと記されてゐる。太子の書き給ひし經卷は全く今日の鳥の子であつて、其の紙質は強靱で且實に立派なものである。願れば今を去る千三百年前に我が製紙業が斯く迄も發達してゐたことを思へば實に驚嘆の外はない。その爲我國和紙抄造業は一般的に平安朝に至つて進歩し、その種類も亦頗る増加した。降て徳川幕府の時代には紙の需要増加し、紙質又大いに改良されて土佐、美濃、駿河、石見等はその最も重要な製産地であつた。

和紙の種類は明治年間に著しく變化した。就中明治の晩年に至り木材パルプの利用を見るや、以前と質の異つた紙を製造するに至つた。

一方洋紙に就て見るに、我國にその製造業を起したのは有恒社にして、淺野侯爵家を中心とし明治五年蠟穀町に呱呱の聲を擧げたのを以てその嚆矢とする。後三田製紙所、王子製紙會社(明治五年設立、資本金一五萬圓、澁澤榮一氏の計畫に基く)及大阪中ノ島製紙所等が設立された。當時之等會社の製品は需要少く、且その種類は包紙の如きもの、みで賣れる紙は少しも漉けなかつた、然し其後當業者の辛苦研究の結果は空しからず、紙質も改善され、又生産高も漸次増加するに至つた。殊に日清、日露の二大戰役は我國洋紙界に一大刺戟を與へねばをかなかつた。即ち日清戰後は四日市製紙、東京製紙、西成製紙の諸會社が設立され、又王子製紙も静岡工場を増設する様になつた。次で日露戰後は利根製紙、中央製紙、北越製紙、岡山製紙等の各社勃然として興り、又富士製紙の如きは北海道江別工場に木材パルプ工場の建設に著手し、一方王子製紙も北海道苫小牧工場を起し新聞用紙の自給策を謀る様になつた。

斯くの如く日清、日露の二大戦役によつて我國製紙業は異常な發展を遂げたが、未だ我國は依然として紙の輸入國であつた。然し幸か不幸が歐洲大戦は我國紙界に一大革命を齎らした。即ち戦前日本に輸入せられる洋紙は英國、獨逸、瑞典、諸威及米國等であつたが、一度開戦に遭ふや此等の輸入は斷然杜絶せるが爲めに、自ら自給策を講ぜざるを得ない様になり、茲に我國洋紙界は一大飛躍をなし、その結果は輸入國であつた我國は一躍一大生産國に變つた。次に近代製紙に缺ぐべからざるパルプ製造業の方面を見るに、明治二十二年製紙原料としてパルプの良好なることを知られ、王子製紙の静岡氣田工場に碎木パルプ機を備附けたるを始めて、同二十三年富士製紙が静岡縣入山瀨に第一工場を設置した。其他二三の會社は富士山麓の樅梅を用ひてパルプの製造をした。次で木曾山林に着目したが皆その原料を得るに苦しみたる結果北海道及樺太木材を使用する様になつた。即ち明治四十年頃に至り富士、王子會社はパルプ工場を北海道江別金山、苫小牧等に設け材料として蝦夷松を使用した。其後大正二年樺太大泊に三井紙料工場が設けられ次で大川平三郎氏の設立にかゝる樺太工業會社泊居工場の設立を見るに至つた。

第二項 製紙の種類、性質及用途

本邦に於て製造される紙の種類又複雑を極めてゐるが、今次にその主なるものに就て解説を與へる。

(イ) 手漉紙

一、耐柔性厚紙
美濃紙、書院紙、傘紙、提灯紙、仙花紙、東洋紙等之に屬し、東洋紙は筑後、高松、岐阜、伊豫に産し支那及朝鮮に輸

出する。紙面粗造なれども紙質厚く縮りがあつて耐柔性に富むのをその特徴とする。その原料は優良品に在りては楮皮を用ひ、劣等紙は之に木材パルプ、和紙、反古、マニラ麻及柔皮等を混ぜる。

二、柔軟性薄紙類

典具帖、櫻紙、吉野紙、造花紙之に屬す。紙質薄く柔かにして耐柔性を有つことを特性とする。その原料は一に同じ

三、筆記用紙

半紙、半切、書院紙等之にして紙面平滑にして、墨附良く運筆自由。優等紙には三椗を用ひ、劣等紙には木材パルプ、稻藁パルプ、マニラ麻パルプ等を用ふ。

四、包装用紙

奉書、檀紙、杉原、糊入等之に屬す。

鳥ノ子紙は英、米、佛各國に於て頗る珍重され、大正八年佛國巴里に於て締結されたる講和條約の正文贖用紙には之を用ひられた。而して該用紙は福井縣今立郡藤本村西野製紙及同縣南條郡武生町武生製紙場の二箇所にて製したるものである。紙質厚く柔軟にして原料には楮皮を用ひ之に米粉を混ぜて作る。但し劣等品には木質パルプを混用する

五、薄葉紙類

Tissue Paper 雁皮紙「コッビー」紙、薄葉紙、圖引用紙等之に屬す。原料は雁皮、三椗皮にして紙質薄く縮りありて透明、水に耐へる力大である。

六、印刷用紙

第三章 日本に於ける紙の需給状態

溜漉法で作る局紙等の貴重印刷紙類にして紙面平滑耐水性を有し、印肉を吸ひ取り印刷を鮮明ならしむ。三椏、木材パルプ、木綿、襪襖パルプを用ふ。

七、雑紙

淺草紙等之にして表面粗造にして耐水性、耐柔性なく極めて弱い。その原料は屑又は反古の類を用ふ。

(ロ) 機械漉紙

一、筆記用紙類

證書用紙、簿冊用紙、書翰用紙等これにして紙質は堅く縮りありて平滑である。インクは浸透せず、ゴム又は小刀にて紙面を削り、書きかへ得る性質即ちテディール性を有つ。原料はリネンパルプを用ひたるものは上等品、亞硫酸木材パルプを用ひたるものは劣等紙である。

二、圖畫用紙

繪畫用紙、製圖用紙これにして紙質厚く縮りあり、紙面粗造にして鉛筆繪具等を塗着することを得、ゴム又は小刀にて紙面を削り得ること、耐水性強きこと等をその特徴とする。上等品は麻と木綿との混合パルプにて作り、下等品は木材パルプを用ふ。

三、印刷用紙

アートペーパー、美術印刷用紙及其他一切の印刷に用ふる紙を云ひ、紙面滑にして印肉の吸収力大且鮮明に印畫を表すこと、紙質不透明なること、耐水性過大ならざること等をその特徴とする。その原料は通常木綿パルプを用ひ、下

等品は木材パルプを用ふ。アートペーパーは膠、白土、水を混じ塗料を作り表面に塗りスーパーカーレンダーにて光澤を附けたるもの。

四、薄葉紙

コツビー紙、透寫用紙、ナフキン、煙草卷紙、ライスペーパー等これに屬し紙質薄く縮りあることがその特徴にして原料は上等品に在りては麻パルプ、下等品には木材又は藁パルプを混用する。ナフキンは天具帖、鉛紙等に花鳥模様を印刷したるもの。

五、板紙類

ボール紙、型紙、寫真臺紙、表紙等これに屬し、特徴としては厚く強靱なる性質を要す。原料には木材パルプ。藁パルプ及反古類を用ふ。その製法は普通の抄紙法にて造る法と、紙を貼り合せ又は抄造したる混紙を合せて壓縮して造る法等の三種がある。

六、厚紙

板紙よりも品位優良にして繪葉書、カルタ用紙、名刺、招待狀用紙等に使用される。

七、吸取紙

Blotting Paper 及濾紙 Filter Paper 化學用濾紙、吸墨紙之に屬し、木綿纖維又は之に木材パルプを混用し、その紙質は柔軟、吸収性濾過性の大、氣孔に富みサイズ又は填料の無なきことをその特徴とする。その製法は叩解のときビーターロールと承及とを近付けて纖維を鋭く切りビーターロールの回轉を速にする。

八、パーチメント紙

サイズを施さざる紙を硫酸に通し紙の表面をアミロイドと稱する膠狀特質に變化せしめたるものを水洗及乾燥したるものにして透明耐水性あり革の如く強し、用途は食料包紙、薬壘の封紙等とする。原料は木綿纖維又は之に化學的木材パルプを混用する。模造パーチメント紙は鈍刃の叩解機にて長時間叩解して粘狀となりたるものを抄製したるもの

九、ヴァルカナイズ紙

サイズを施さない薄紙を濃厚鹽化亞鉛溶液に通過せしめ、數葉を重ねてロールにて壓搾したるものである。性質堅牢にして水油を浸透せざるにより靴皮革の代用物、熱電氣の絶縁體、ポンプの瓣、敷石代用に供し又は管器物の製作に供せらる。

一〇、パラフィン紙

パラフィンを紙に塗布したるもの。食料品の包紙、タイプライター用、ステンシル、謄寫版原料等に用ひらる。

一一、包紙類

貨物の包装用に供せられ性質強靱、耐水性、耐揉性に富み麻パルプ又は之に木材薬、碎木パルプ等を混用する。

一二、連史紙

獨逸にて支那連史紙に模造して支那に輸出したるものであるが我國も之に倣ひて大阪製紙、富士製紙の兩社、及兵庫の三菱製紙所等にて作り幅二五吋、長さ四四吋のもの多し。用途は印刷包装、壁紙等に用ひらる。

(ハ) 大きさに依る種類

一 圖畫用紙及筆記用紙にはフルスカップ(一三 $\frac{1}{4}$ 吋×吋一五 $\frac{1}{2}$)印刷用紙としてローヤール(二〇吋×二五吋)エ
レファント紙(二三吋×二八吋)の各種がある。

二 又我國には四六判(二六寸×三六寸)菊判(二二寸×三一寸)地判(一九 $\frac{1}{2}$ 寸×二〇 $\frac{1}{2}$ 寸)三三判(二三寸×三三寸)等の大きさがある。

第三項 製紙法

紙の製造工程を示せば左の通り

- 一 原料の準備作業 (選別斷裁及除塵)
- 二 パルプの調製 (原料の煮沸洗滌叩解)
- 三 半紙料の調製 (蒸煮原料の漂白、洗滌)
- 四 紙料の調製 (半紙料の叩解及調合物の混和)
- 五 抄紙工程
- 六 仕上工程

以下之等諸工程に就て略述して見よう。

一、原料の準備作業

權襪の準備

第三章 日本に於ける紙の需給状態

a 工程——楹襪は除塵機にて塵埃を除き之を蒸氣フォルマリン等にて消毒し別室に於て選み人力にて楹襪の種類を類別し釘、ボタン、コハゼ等の金屬質及革絹、毛等の動物質のものを除き次に斷裁機にて三四寸の大きに斷裁し再び除塵する。

b 斷裁板——回轉輪筒に取付けたる刃の下向する毎に固定せる他の刃と嚙合ふ装置とす。除塵機、打綿機と回轉圓筒除塵機とを併用する。

薬の準備

砂、粗、穀粒を除き斷裁後除塵をし又は斷裁したものを扇風機にて吹き分け莖のみを用ふることあり。

三椶皮及楮皮の準備

水に浸して表皮腐朽部蝕部を除く。

木材の準備

回轉鋸にて木材を約二呎に切り外皮を剥ぎ取り巨材なるときは割木機にて縦に裂き除節す。化學的木材厚紙料を製造するときは削裁機にて削りて除塵及精選する。

二、パルプの調製

楹襪パルプ

楹襪の準備作業を終るも尙脂肪、油染料、其他の不純物を含有せるに依り之を除去するために原料を蒸煮劑と共に蒸煮罐に入れ適當の水を加へて密閉し蒸氣を吹込み蒸煮しつゝ回轉する。蒸煮劑は苛性曹達、炭酸曹達、石灰又は

石灰と炭酸曹達との混合物を使用する。六七時間蒸煮した後蒸氣の送入を止め噴氣弁を開いて蒸氣を出し次に蒸煮液を流出せしめて口を下にし楹襪を出す。次に蒸煮罐の下部に在る溜池に入れ温湯にて良く洗ひ更にホルンダーに依りて洗滌する。而して此等の纖維質をパルプと稱ぶ。

薬パルプ

薬は不純物の純纖維と化合せる状態に在るから蒸煮劑は楹襪の場合よりも激烈にする。通常原料の一二割にてよし。

三椶及楮皮パルプ

新舊二式ありて本邦舊來の方法は此等の皮を二日位水中に浸して木灰又は石灰と共に水を加へて釜に入れ熱す。近來は石灰の代りに曹達灰又は苛性曹達を使用する。

新式法とは大なる工場に於て回轉式横置圓筒罐に曹達を入れ此等の原料と共に熱し、次にホルンダー中にて洗滌する法を云ふ。

反古紙類

反古紙は釜中に於て曹達灰と共に煮沸する。

木パルプ

製法に機械的即碎木パルプ及化學的木材パルプの二種あり。

碎木パルプ Ground Wood Pulp

第三章 日本に於ける紙の需給状態

本法は木材を二尺位に切りその外皮を剥ぎ、節を除き之を割木機にて割り次に碎木機にて機械的に碎きて得たるパルプである。西曆一八四四年獨人「ケラー」氏の發明にかゝるもの。碎木するに當りては冷碎法と熱碎法の二種あり。前者は磨碎の際水量を多くして磨碎熱を冷却し比較的低温にて原質を作る法にして製品の色白くして紙面の平滑なるものを作るに良く、後者は水量少き爲め熱力高く色相悪しと雖新聞紙の製法に適す。斯くの如く碎かれたる木質はスクリーンと稱する機械で精選し大なる木片を除き直に原紙に作り又は乾してパルプとする。

化學的木材パルプ Chemical Wood Pulp

藥品を用ひて化學的に處理する方法にして非纖維物を大部分除去することを得る。

先づ木材は削截機で截片に削り除塵機にて清淨し、次に蒸着罐に入れ藥品を加へて蒸氣を吹き込み三〇時間加熱して瓦斯及蒸着液を排出して水を加へ罐内のパルプを洗滌して取り出す。次に離解機にて纖維の結束を解きSandtableの上を流して重き夾雜物を沈め、次で精選機を以て不良の部分を除いてホルンダーの中に入れて洗滌するが必要に應じて厚紙に漉くこともある。而して化學的木材パルプには曹達法パルプ、亞硫酸法パルプ及硫酸曹達法パルプの三種がある。

三、半紙料の調製 Half Stuff

前述したパルプは何れも著色せるが故に之を漂白して更に洗滌する。之を半紙料と云ふ。但し薬を原料とする薬色紙竝に薬半紙のときは此方法を行はない。

漂白——ホルンダーにて洗滌を終つたパルプはその儘同一又は他のホルンダーに移して網輪を引き上げ晒粉液を加

へ蒸氣を吹き込みつゝ加熱してロールを回轉し三時間漂白する。

洗滌——ホルンダー中にて水洗する。此の際亞硫酸曹達又は亞硫酸石灰を加へて遊離鹽素を鹽化物に變化せしめる。

四、紙料の調製

以上の半紙料は叩解法により纖維素を個々に分解し又は適當の長さに切斷し、次に調合物を混和する。

叩解 Beating——叩解にはビーター Beater に水及半紙料を入れロールを回轉せしめるときは纖維は承双とロールとの間に於て叩かれ又は切斷せられる。

紙料の調合——叩解後は適當に各種の纖維素を配合し猶(イ)サイズ、(ロ)填料(ハ)染料等の調合を要す。是等の添加は總てビーター又はホルンダー中に於て行ふのである。

(イ) サイズ Size は纖維の毛管作用を減じて之に耐水性を與へ且つ紙質を堅縮して紙面を平滑ならしめ以てインクの浸むことを避け、運算、印刷に便且つ外觀の美を増さしむるためである。而して使用方法により之を二種に分ち一をエンヂンサイズ他を膠サイズと云ふ。前者は樹脂、石鹼及明礬の兩混合液を以てビーター乃至ホルンダー中に於て行ひ後者は膠を抄出したる紙面に塗る。

(ロ) 填料は紙の重量を増し透明性を去りて紙面を平滑ならしむ。それには陶土、硫酸石灰、硫酸重土、石膏アガライト等を用ふ、その分量は5/100内外とし歩止をよくするために普通澱粉糊を用ふ。

(ハ) 染料、原料は大低薄き黄色を帯びるを普通とするから青色を加へて之を隠す。又色紙製造のためにすることもある。染料の添加は百分の〇・一以下にて足りる。色紙のときは更に多くを添加する。

紙料の調整——優良なる紙を造るときは更に紙料調整器にて均齊に纖維を切斷する。かくて紙料は貯槽に入れて置くものとす。

和紙紙料の調製法——和紙製造のときは原料を臼で搗き次に石製又は木製の板上に載せて打棒にて叩き次に槽に入れて糊、にべ、黄蜀葵汁、米粉、粘土等を混ぜる。

五、抄紙工程

手漉法——漉法にも二種あり、日本固有の流漉法及歐洲に於て行はるゝ溜漉法これなり。

流漉法は先づ楮皮、三稜、稻藁等の原質を合せて二二〇匁位を適當に調製し之に布袋により濾過した清水一石二三斗を加へ馬鍬と稱する竹筥を櫛狀に固著した器械を以て前後に動かして紙料を混合する。抄造は竹筥を載せた漉機を取り附けた把手を持ちて適當の紙料を掬ひ上げ前後に數回動かして上部の餘液を流して捨てる。之を反覆すること數回にして適當の厚さになりたる時漉桁を二本の架橋に載せて靜置する。次に漉桁より漉簧を離して簧と共に板上に伏せ濕紙を漉簧より離し板上に重ねる。次に吊石式又は螺旋壓搾機によつて壓搾し、之を終りたる濕紙は一枚宛剥ぎ取りて張板に張り付け日光又は乾燥室に於て乾す。本法による和紙は其の質頗る強靱である。美濃書院紙、薄葉紙、半紙及傘紙は大體本法による。

溜漉法は先づ流漉の流簧と漉桁の代りに黃銅製網を張つた漉桁を用ひて紙料を汲み上げ金網上に紙層を作る。流漉のときは過剰の紙料は棄て溜漉のときは之を棄てざるものとす。次に濕紙堆積板上に一枚毎に毛皮を挟み積み重ねて壓搾す。更に之を乾燥して一枚宛取りてプレートカレンダーと稱する光澤機で光澤を出しギロッテン、カツター

にて所要の大きさに斷截する。現今此の方法を應用せる工場は靜岡縣の三立商會等にして貴重印刷紙、吸取紙、化學用濾紙、圖畫用紙等を製作する。その特色は紙面平滑にして印肉を完全に攝取し印刷を鮮明ならしめ紙質不透明なる點に在る。

機械漉法——本法は先づ紙料を貯槽よりポンプを以て調節箱に送る。次で紙料をサンドテーブルと稱する機械の上を通過せしめて不純物たる鐵屑、土砂、石灰粉末等を除く。サンドテーブルにより纖維の結束又は塵埃等を除去し得ざるときは除渣機にて之を除去する。右の紙料はフロアボックスに流入して適當に配流せられて長網上に流送する。

(イ) 長網式抄紙機 Fourdiner Machins

抄紙機に二種類あり一を長網式他を丸網式と云ふ。長網式はフロアボックスを通過した紙料は金網上に流れ其の横振動によりて纖維の揃み合ひを充分ならしめて紙の薄き層を生ず、紙層中の水分はテーブル、ロールによつて濾過せられ尙餘分の水分はサクシヨンボックスで吸収され、更にダンデイ、ロールによつて紙面を均一にしカウチロールにて壓搾し濕紙を作る。之を無端の毛布に移し、更に數組のプレス、ロールを通過せしめて水分を壓搾除去して次にドライヤーにて乾かし最後に捲取機によつて捲取るものである。本法は薄紙の抄造に適す。

(ロ) 丸網式抄紙機 Cylinder Machins

本法は長き漉網の代りに丸網を使用し之を半ば紙料中に浸して回轉しポンプで内部から吸収して紙層を丸網の周圍に形成せしめ之を毛布に受け更に壓搾し乾燥内筒にて乾かすのである。この法は纖維の揃み合ひ少きにより紙の力大ならず従て一般に厚紙の抄造に適す。

(ハ) 仕上工程——乾燥した紙は次の工程によつて仕上を行ふ。光澤機で光澤を附す。光澤機即 Calendar は堅牢な鑄鐵製の架臺に鋼鐵製のロールを十數本積み重ねて其間に紙を通過せしめ光澤を發せしむ。之を更に Super Calendar で光澤を附す。その構造は鐵製ロールと紙又は木綿を壓搾して作つたロールとを交互に積み重ねたるものである。

捲取機にて捲取る

新聞紙及電氣絶縁紙の如きは捲取の形で賣買される。

斷截機で斷截する

紙葉を斷截して賣買する場合は Cutter で適當な大きに截つ。

包裝

斷截せし紙葉は女工の手によつて破紙、傷紙、汚紙等を選別して一連宛包裝する。

第四項 製造戸數、會社數及職工數

一、和紙

和紙の製法はその昔より専ら手漉法によつて來たものであるが、偶々洋紙の製法の輸入せらるゝあり、一方其の需増加は勢ひ機械漉法を招來し、今や同法は急速の進歩發達を遂げてその全産額の六、七割は之によつて製造されてをる現状である。隨て従來の製造戸數及従業職工の如き年々著しき減少を見つゝある。これ機械漉轉化によつて小資本

の個人製造から大資本の合同(會社組織)製造に移りつゝある必然の現象であつて、この傾向は今後益々繼續されるものである。

今その間の事情を數字を以て示せば次の如くである。

和紙製造戸數及職工數

年次	製造戸數 (年末現在)	職工 (平均一日使用數)		計	製造戸數	職工數
		男	女			
大正四年	四七,三三三	六二,三〇〇	八四,二四四	一四六,五四四	一〇〇	一〇〇
同五年	四五,六六二	六〇,八八五	八四,七三六	一四五,六二二	九七	一〇〇
同六年	四四,八六一	六二,六八二	八五,七三六	一四八,四一八	九七	一〇一
同七年	四四,四四四	六二,五五六	八六,八三三	一四九,三二八	九六	一〇二
同八年	四四,〇二五	六二,四五一	八六,九四九	一四九,四〇〇	九五	一〇六
同九年	四三,九八八	六三,九八六	八五,九四四	一四九,九三〇	九五	一〇九
同十年	四〇,二九六	五八,〇〇〇	七三,三三三	一二三,三三三	八五	一〇九
同十一年	三六,三三四	五一,九三三	六四,六三三	一一六,五六六	七七	八〇
同十二年	三四,七四九	五一,〇〇九	六二,七七一	一一三,七二〇	七四	八六
同十三年	三三,七九三	四九,五七七	五九,九七七	一〇九,四八四	六九	八六
同十四年	三〇,一九〇	四四,〇一七	五四,二一一	九八,二二八	六四	八六

註 本表は商工省統計表に據る。

二、洋紙

第三章 日本に於ける紙の需給状態

洋紙の製造工場及職工數を見れば左の如くである。

年次	工場數(年末現在)		職工(年末現在)	
	男	女	男	女
明治四十二年	七		四七	四七
大正三年	四		五四	五二
同 八年	九		三二	三九
同 九年	一〇		三三	三九
同 十年	一〇		三三	三九
同 十一年	一〇		三三	三九
同 十二年	一〇		三三	三九
同 十三年	一〇		三三	三九
同 十四年	一〇		三三	三九

註 大正十四年商工省統計表に據る。

第五項 生産額

一、和紙

和紙の生産も明治二十年には僅に四百六十萬圓に過ぎなかつたものが、十年後の三十年には約一千三百萬圓に達し更に四十一年には一千九百萬圓に上り、其の後我國文化の發達につれて漸次増加し、大正八年の歐洲戰時に至つては

遂に約八千萬圓を製産するに至つた。其の後財界の變動に伴ひその産額も漸次減少の傾向を如何ともし難いが、之を
通觀して見れば時により程度の差こそあれ漸次増産の趨勢にある。數字を以て詳細を示せば次の通り。

和紙生産高

年次	美濃紙		半紙		其他價額	總價額	指數
	數量	價額	數量	價額			
明治二十年	一五〇八七		一七、七二		一、九一〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	三
同 三十年	一五三、〇〇〇		二七、三六九		六、〇〇〇、〇〇〇	三、五〇〇、〇〇〇	六
同 四十一年	三三〇、〇〇〇		二八、四五四		一〇、〇〇〇、〇〇〇	一、八七五、〇〇〇	九
大正元年	三五六、七二		三、五〇、八六九			二、〇三六、〇〇〇	一〇〇
同 二年	三五〇、〇七	二、七五、八六四	三、〇〇、九八一	五、五五、八二九		二、〇九三、三九一	一〇三
同 三年	三三三、三三	二、二八、二六〇	三、〇七、八五五	五、四〇、五二八		一、八五三、〇〇七	九二
同 四年	二九七、六五	二、二九、六七三	二、九五、五五八	五、五七、八四六		二、三九五、六九八	一一〇
同 五年	二七五、二九	二、〇三、二六一	三、二六、一九五	六、四四、八九一		二、四七四、〇六七	一二三
同 六年	二四八、九四	二、七五、四四〇	四、四四、〇七九	二、一、五九、八八六		三、六二八、三五二	一六
同 七年	三九、八九五	五、五二、四三九	四、三三、二三〇	一、七四、八八三		五、九三、三九九	二六
同 八年	三八、八三	九、五二、八四八	四、六二、四四二	二、三三、四四五		七、九七四、〇〇九	三〇
同 九年	三二、〇九七	五、九二、四三八	四、一四、四一九	一、七九、七三三		六、五三三、六四四	三〇
同 十年	四八、八五四	七、一五、四七六	三、九四、〇五七	一、七〇、五〇三		六、二二二、三三三	三〇〇

前篇 滿洲に於ける紙の需給

五六

年次	印刷料紙	板紙	煙草用紙	熨斗用紙	連史紙	其他	數量合計	總價額	指價格
大正十一年	四九八八六	七〇四一八七	三九七五三	一四六八七九	三二七三三三	五四八三六〇八	二六七		
同十二年	五二一六五	五六三二三五	三〇四七六	二一八五五三	三三九八二	五〇四八四九九	二四七		
同十三年	五三二七〇	五七〇七二	三〇七二六	二二六五〇二	三四六三九九	五〇四八四九九	二六二		
同十四年	五〇三三九	五二〇六三三	四三三三三	二二五三〇五	三四〇七六一	五〇四〇三九九	二六〇		

註 農商務省統計に據る。

二、洋紙

洋紙の生産高は大正元年に在りては僅に二千萬圓に止まつてゐたが、その後需要の増加は必然生産の激増を誘ひ、大正九年に至つて遂に絶頂に達し、全額一三、六〇〇萬圓に及んだ。超へて十年は一億三千萬圓に下り年々同一状態に在つたが、大正九四年に至り約一億二千萬圓に達してゐる。同元年を基準にすれば、約六倍に増加してゐることになる。今次にその詳細を表示することにする。

洋紙 生産高

(單位封度、△印は枚)

年次	印刷料紙	板紙	煙草用紙	熨斗用紙	連史紙	其他	數量合計	總價額	指價格
大正元年	一八〇三九八六	三、四四、七〇〇	四三二、七三六	九二五、〇二六	七、八〇、四五四	五、一三、四八六	三、四〇、七、三三五	二〇〇、九三、四三三	一〇〇
同二年	三〇、〇三、三五七	七〇、六〇、〇〇〇	四八、二、二九三	九、九四、七、三三	九、五三、七、七	四九、五、二、七九	三、七四、七、五、〇、四九	二、〇〇、三、六、〇〇	一〇〇
同三年	三九、三、八、二〇六	五九、四、四、二七	七、五九、六、八〇	九、〇七、七、九	二、七三、三、六六	四八、三、八、三、四四	四、八、九、〇、四、五三	二、五〇、六、九、七、七	二三五
同四年	三九、三、九、二、四、一九	二、〇、四、七、一、五、四	八、八、九、五、五、八	一〇、八、五、三、六、四	六、三、四、二、四〇	六、九、三、九、一、五、四	四、九、八、四、九、五、七	二、九、六、九、五、〇	一四八

年次	印刷料紙	板紙	煙草用紙	熨斗用紙	連史紙	其他	數量合計	總價額	指價格
同五年	三二、三、五、六、〇、三三	三、三、六、〇、七、五	九、五、六、八、五	七、四、八、〇、〇	七、八、四、三、三	一〇〇、三、九、一、五、四	五、五、八、五、八、二、四、六	四、八、三、三、四、九	二二八
同六年	三〇、五、七、七、五、五	二、六、二、〇、〇、〇、〇	三、三、六、三、四、七	一、四、三、三、九、二	五、四、八、九、五	一、四、〇、四、七、六、三	六、二、四、三、五、七、五	五、九、二、七、六、六	二九五
同七年	三〇、〇、〇、〇、〇、〇	三、四、四、四、四、四	二、七、七、六、六、六	一〇、九、六、〇、〇	一〇、四、六、九、〇	一、四、〇、四、七、六、三	八、七、七、四、九、〇、六	一〇、三、〇、七、一、七	五二二
同八年	三〇、五、九、八、八、七	二、七、二、五、七、八	二、六、五、六、四	一、一、八、七、七	九、八、六、三、〇	一、四、〇、四、七、六、三	七、三、三、〇、〇、〇	一、一、七、二、四、一、三	五六一
同九年	四〇、五、九、四、一、二	二、七、〇、〇、二、九	一、六、一、四、三、三	二、九、五、八、七	八、〇、八、三、九	一、四、〇、四、七、六、三	七、三、三、〇、〇、〇	一、三、八、九、七、六	六七三
同十年	四〇、五、九、四、一、二	二、七、〇、〇、二、九	一、六、一、四、三、三	二、九、五、八、七	八、〇、八、三、九	一、四、〇、四、七、六、三	七、三、三、〇、〇、〇	一、三、八、九、七、六	六七三
同十一年	三、五、三、〇、三、七、一	二、九、八、〇、七、八	八、〇、八、三、九	六、二、〇、〇、九	七、五、三、一、七	一、三、三、〇、一、〇、一	七、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、三、六、七、九	五二二
同十二年	五、七、六、〇、三、七、五	二、四、八、四、一、八〇	二、八、四、三、九、六	四、〇、四、一、五、〇	二、九、八、三、七、六	一、九、八、三、一、三	八、七、八、三、〇、八、五	一、〇、三、六、七、九	五二二
同十三年	六、〇、〇、〇、〇、〇	三、三、三、三、三、三	三、三、三、三、三	三、三、三、三、三	三、三、三、三、三	六、九、六、六、六、六	九、九、九、九、九、九	一、〇、三、六、七、九	五二二
同十四年	七、五、九、八、三、二	二、四、八、四、一、八〇	二、八、四、三、九、六	四、〇、四、一、五、〇	二、九、八、三、七、六	一、九、八、三、一、三	八、七、八、三、〇、八、五	一、〇、三、六、七、九	五二二
昭和元年	七、五、九、八、三、二	二、四、八、四、一、八〇	二、八、四、三、九、六	四、〇、四、一、五、〇	二、九、八、三、七、六	一、九、八、三、一、三	八、七、八、三、〇、八、五	一、〇、三、六、七、九	五二二
同二年	七、五、九、八、三、二	二、四、八、四、一、八〇	二、八、四、三、九、六	四、〇、四、一、五、〇	二、九、八、三、七、六	一、九、八、三、一、三	八、七、八、三、〇、八、五	一、〇、三、六、七、九	五二二
同三年	七、五、九、八、三、二	二、四、八、四、一、八〇	二、八、四、三、九、六	四、〇、四、一、五、〇	二、九、八、三、七、六	一、九、八、三、一、三	八、七、八、三、〇、八、五	一、〇、三、六、七、九	五二二

上表では品種別には大正一四年迄の數字しか判らないが、今其後の數字を見れば左の如くである。因より此の數字は製紙聯合會所屬會社産額に止るから産額の殆ど全部ではあるが實際の産額は此の數字を稍々出る筈である。

(單位千封度)

年次	上等印刷紙	印刷紙	新聞紙	鳥ノ子模造紙	ロール紙	判用紙	構寸紙	色紙類	包紙	連史紙	唐紙	雜種紙	計
昭和元年	一五、八二六	一三、六五〇	五〇、八〇三	七、七五五	二七、三三二	八、七三二	九、五八八	四、五〇八	一、三三九	一〇、九六〇	一〇、七四六	一、七四六	一、七四六
同 二 年	一五、〇九三	一三、七四四	四八、七五五	九、三三三	四三、七三三	八、五〇〇	三、二四七	五、八四八	三、九四五	一、四六三	一、五二五	一、五二五	一、五二五

因に製紙聯合會所屬會社の産額は、大正元年に於て二五一、三七七千封度、大正一〇年に於て五三四、四五〇千封度、同一四年九三一、七七二千封度にして、全國産額の大部分は聯合會所屬會社の製産にかゝる。

第六項 主要製紙會社とその製造高

一、和 紙

和紙の製造會社として特に注意すべきは土佐紙株式會社のみ、其他小規模の會社は凡そ七八十社（機械製紙）に達するも茲に枚擧の煩を避ける。尙個人製紙業者（専門副業）は全國に散在するがその主産地と目すべきは高知、愛媛、福岡、静岡、岐阜、廣島及福井の諸縣である。

二、洋 紙

主なる洋紙生産者の業態並に十四年に於ける生産者別製造高は左表の通りである。因に此等製造會社の生産高は全國總生産高の約九割五分を占めてゐる。

主なる生産者の業態並製造高

生産者名	機		械		十四年製造高	%
	臺數	吋數	臺數	吋數		
富士製紙株式會社	三	二、四九七	三	三、五三三	三、九〇八	三、九〇八
王子製紙株式會社	三	二、三二六	二	二、七四四	三、五八八	三、五八八
三菱製紙株式會社	三	九、七五	一	一、〇七	七、四八〇	七、四八〇
九州製紙株式會社	六	六〇〇	六	六〇〇	六、八七一	六、八七一
中央製紙株式會社	四	三、七六	五	四、四四	四、〇〇〇	四、〇〇〇
樺太製紙株式會社	三	三、三三	四	四、三三	三、五二〇	三、五二〇
北越製紙株式會社	五	四、七	五	四、六	二、八〇六	二、八〇六
中之島製紙株式會社	一	六〇	一	六〇	四、〇六	四、〇六
其他製紙株式會社	二	一〇、八	一	九、七	九、二七	九、二七
合 計	六	八、九六	九	二、六	一〇、三	一〇、三

次に更に昭和二年及同三年に於ける之等主たる會社の生産状態を見れば左の如くである。

主たる會社

昭和三年

昭和二年

富士	四九九、八五六、八九〇	四二八、八六四、二三六
王子	三八五、九九三、九五二	三六九、五三七、六一五
樺太	二三二、一七三、二〇五	一八五、八六三、〇〇七

第三章 日本に於ける紙の需給状態

前篇 滿洲に於ける紙の需給

六〇

三	菱	八三、一五七、七六七	七四、九一八、六八三
北	越	三八、八七〇、〇四九	三一、二六一、二三〇
日	紙業	二八、四六〇、四四八	二八、〇七八、九九六
乾	製紙	一五、四〇七、四〇八	一四、五〇二、三二七
日	本製紙	一六、〇一九、九七六	一三、五六九、〇三八
西	野	五、八一五、〇二五	四、九一九、八八一
合	計	一、三〇五、七五四、七二〇	一、一五一、五一五、〇一三

第二節 輸入状況

第一項 輸入額

洋紙の輸入は本邦に於ける生産増加の爲め需要並輸出増加の割合に増加を見ない。即ち特殊の紙以外は本邦の生産品で間に合ふ様になつたので、輸入品は全部特殊品と見ることが出来る。而して輸入量は輸出品と大差ないが、最近は年額二千萬圓前後にあり、概して輸入超過の状況である（十四年以降現在の趨勢は七五頁圖表参照）

洋紙 輸入状況

年次別	印刷用紙	包装用紙	構寸用紙	板紙	筆記用紙	圖書用紙	模造日本紙及フアンシユペーパー
大正元年	二七、三三三、三三三斤	五、〇七九、八四四斤	一、八二一、八五五斤	四、〇七五、八八九斤	二、八五〇、三三八斤	一、三三六、〇九八斤	二、五九七、三五四斤

年次別	印刷用紙	包装用紙	構寸用紙	板紙	筆記用紙	圖書用紙	模造日本紙及フアンシユペーパー
同 二	三三、四〇〇、〇〇〇	七、五九九、〇〇〇	一、三三三、三三三	四、八二二、三三三	二、五七三、三三三	六、四九三、三三三	七、五九七、三五四
同 三	三〇、四八五、七〇〇	五、八六五、七〇〇	六、七二七、七二七	三、六六六、七二七	一、九七三、八二七	五、二七三、〇二七	七、〇〇〇、〇〇〇
同 四	八、九七三、三三三	四、〇七九、八四四	四、〇〇〇、〇〇〇	一、五八六、七二七	一、四九七、七二七	一、四九七、七二七	二、四九七、七二七
同 五	二、四六六、八八八	六、〇九二、九二九	七、九六六、八八八	二、九七九、〇二七	一、八五九、〇二七	二、四九七、七二七	三、〇〇〇、〇〇〇
同 六	三、六四七、九七九	三、六四七、九七九	二、四七九、七二七	一、八二二、三三三	一、八二二、三三三	一、〇七三、三三三	三、〇〇〇、〇〇〇
同 七	一、四八〇、九九九	六、四七九、七二七	三、〇七三、三三三	一、八二二、三三三	八、八二二、三三三	一、〇七三、三三三	一、三三三、三三三
同 八	三、三三三、三三三	一、〇七三、三三三	九、九九九、九九九	五、八二二、三三三	二、二二二、二二二	二、二二二、二二二	一、三三三、三三三
同 九	一、五五五、五五五	一、五五五、五五五	一、五五五、五五五	四、四四四、四四四	一、五五五、五五五	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三
同 十	一、五五五、五五五	一、五五五、五五五	一、五五五、五五五	一、五五五、五五五	一、五五五、五五五	一、五五五、五五五	一、五五五、五五五
同 十一	四、〇〇〇、〇〇〇	三、三三三、三三三	一、五五五、五五五	一、五五五、五五五	三、三三三、三三三	一、五五五、五五五	三、三三三、三三三
同 十二	四、〇〇〇、〇〇〇	三、三三三、三三三	一、五五五、五五五	一、五五五、五五五	三、三三三、三三三	一、五五五、五五五	三、三三三、三三三
同 十三	五、〇〇〇、〇〇〇	三、三三三、三三三	一、五五五、五五五	一、五五五、五五五	三、三三三、三三三	一、五五五、五五五	三、三三三、三三三

備考 ×印は包装用紙中に構寸用紙を含む。

年次別	模造羊皮紙		フアンシユペーパー		計		其他價額	總價額	價額指數
	數量	價額	數量	價額	數量	價額			
大正元年	一、一七五、〇〇〇斤	六、二五八、三三三	一、一七五、〇〇〇斤	六、二五八、三三三	二、三五〇、〇〇〇斤	一、二五八、三三三	一〇〇		
同 二	一、一七五、〇〇〇斤	六、二五八、三三三	一、一七五、〇〇〇斤	六、二五八、三三三	二、三五〇、〇〇〇斤	一、二五八、三三三	一〇一		
同 三	一、一七五、〇〇〇斤	六、二五八、三三三	一、一七五、〇〇〇斤	六、二五八、三三三	二、三五〇、〇〇〇斤	一、二五八、三三三	六九		

第三章 日本に於ける紙の需給状態

六一

年	数量	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
大正四年	六三,五八六	一九九,五七四	二八三,七六六	二二,九九九	三〇,七七五
同五年	一五,七二七	二八,五三三	五五,九六三	三〇,七八六	五八,七四八
同六年	一,九三七	一三,二三八〇	三八,九四一	三三,二九七	四〇,九七六
同七年	九,四〇七	二八,三三三	八八,七三三	四九,一五七	九三,九四〇
同八年	二,七八五	四六,三三六	一七,五九四	七九,三三三	一八,三六八
同九年	二,三三八	四八,八九〇	一六,七九二	六一,一五三	一七,四八二
同十年	一,七九二	三七,〇三六	二一,三三〇	七九,二四一	三三,二〇二
同十一年	二,〇一九	三二,六八〇	一九,〇五二	一三,七九三	二〇,三三三
同十二年	三,〇〇八	八八,三六五	一六,七七九	七〇,四四六	一七,四八三
同十三年	三,三三〇	一三,一四九	二六,〇〇七	一五,八六三	二七,六九四

備考 本表は鐵道省運輸局刊行「重要貨物狀況第十五編」に據る。

第二項 相手國

最近に於ける輸入相手國を見れば、左表の如く瑞典雖然多く輸入總量の約三四%を占め、之に次では英國、獨逸、米國等の諸國であるが、共にその量は瑞典に及ばざること遠く、割合にして總量の二〇%に足りない。詳細を示せば次の如し。(單位數量封度、價額圓)

相手國	昭和三年		昭和二年		昭和元年		大正十四年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
瑞典	三三,八〇三	四〇,九三三	五〇,九三三	七三,九七九	四八,三二八			

英 獨 北 諾 加 和 白 其 合	吉 逸 米 威 陀 蘭 義 他 計	昭和三年		昭和二年		昭和元年		大正十四年	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
英	利	一九,六九〇	三三,三七八	三二,七〇七	四〇,九四七	四〇,三九五			
獨	逸	一六,四八〇	二六,九三三	二五,四三〇	三九,五九五	三三,八八三			
北	米	一六,三三三	一五,一三三	一五,四三〇	一八,二六四	一五,一九〇			
諾	威	八,八三六	九,九五五	一〇,八九三	一,六九一	一,三二八			
加	陀	九,三九六	八,五八四						
和	蘭	二,六七三	三,一八二	二,九五三	三,五七四	二,九九九			
白	義	四,七四〇	七,四三七						
其	他	二,八五三	七,八三七	一,七四三	一,七三〇	一,九四六			
合	計	一〇〇,七〇八	一五,九一四	一五,三六三	二〇,四三二	一六,九八三			

備考 昭和二年以前の加奈陀、白耳義は其他中に含まる。昭和三年括弧内は割合を示す。本表は大藏省五十三回年報及紙業雜誌二十四卷第三號に據る。

第三項 品 種

輸入外國紙の品種如何を見れば左の如くであるが、その中では印刷料紙最も多く總額一億封度中四千萬封度を占め之に次いで包装用紙多くその量約三千七百萬封に及ぶ之に次いで模造羊皮紙、筆記用紙、燐寸用紙及板紙の順位であるが何れも遙に降つて數百萬圓に止まる。品種及其の輸入額を掲げれば次の如くである。

前篇 滿洲に於ける紙の需給

昭和三年輸入紙品種別輸入額

品種	數量 (封度)	價額 (圓)
印刷料紙(五八瓦未滿)	一四、六七八、八〇〇	一、四九八、六六九
同 (五八瓦以上)	一五、三八一、〇六七	二、三七〇、三四四
同 (アート)	五、二九三、三三三	九五〇、七七八
同 (有色)	四、九二七、六〇〇	七〇三、三七一
小計	四〇、二八〇、八〇〇	五、五二三、〇六二
筆記用紙	五、五六五、〇六七	一、〇七二、四二六
包裝用紙	三六、七七八、九三三	三、九四二、四三三
構寸用紙	四四二、〇〇〇	四八、二八〇
模造日本紙	四、二〇九、七三三	六六六、六九七
及ティッシュ	七、二二八、六六七	一、四九四、二三九
模造羊皮紙	四七四、九三二	二八八、九一四
圖畫用紙	八五一、四三二	二〇一、三〇六
吸取紙	四、七七九	一八、六五三
瀧草紙	一三	二〇
煙草用紙	一八七、三〇一	一一七、二三二
壁紙	四四三、二二九	一七六、六一七
唐紙	三九二、九三二	二一八、二六六
其他		

其他(數量不明のもの)	合計	合計
合	九六、八五九、八一八	六三一、三五八
板紙	三、七六七、二〇〇	一四、三九九、五〇三
總計	一〇〇、六二七、〇一八	六九一、七〇一
備考	紙業雜誌第二十四卷第三號に據る。	一五、〇九一、二〇四

第三節 輸出狀況

第一項 輸 出 額

最近我國が輸出する紙は一箇年、數量に於て一億八千萬封度その價額約二千六百萬圓に達する。而してその輸出先は可成多きに及ぶが、輸出量から云へば、支那斷然第一位にして、總輸出量の約六六%を占め、之に次では關東州にして一四%に及んでをる。其他は香港の約九%を筆頭に遙に下つてをる。即ち日本の輸出紙の八〇%は支那及關東州に輸出されてゐるのである。

その品種も種々あるが、最も多く輸出されてゐるものは印刷料紙にして、總額約一億八千萬封度中一億一千万封度に及んでをる之に次いで多いのは板紙にして三千万封度、其他は包裝紙及鳥の子紙等であるが共に一千万封度に達しない今之等の詳細を表示すれば左の如くである。(紙業雜誌第二十四卷第二號に據る)

昭和三年中輸出紙種別及國別表

種名目	支那		關東州		香港		北米合衆國	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
印刷用紙	八六,三〇〇	100,000	二八,八〇〇	1,100,000	九,〇〇〇	1,000,000
煙草用紙	二,七〇〇	1,700	二,四〇〇	1,500	一,六〇〇	800
鳥の子紙	四,三〇〇	7,500	一,六〇〇	2,800	二,五〇〇	一,五〇〇
連史用紙	二,三〇〇	2,700	一,七〇〇	2,100	一,五〇〇	
包裝用紙	五,九〇〇	8,700	一,四〇〇	2,000	六,〇〇〇	二,七〇〇
小計	101,700	133,200	17,000	22,600	10,500	12,800
雁皮紙及薄葉紙	九,八〇〇	57,600	五,〇〇〇	4,000	四,〇〇〇	
吉野紙及典具帖	五,四〇〇	6,800	
中紙及美濃紙	二〇,〇〇〇	27,000	九,〇〇〇	3,900	一,〇〇〇	
塵紙	二,四〇〇	7,200	一,四〇〇	3,700	一,〇〇〇	
小計	五,四〇〇	73,800	三,三〇〇	7,600	三,〇〇〇	
其他の紙	三,九〇〇	7,800	一,五〇〇	3,400	
合計	106,200	141,000	二〇,900	33,600	
板紙	10,000	12,000	
總計	二六,七〇〇	32,800	二四,〇〇〇	29,000	
百分率	六五	六九	一四〇	一五〇	八九	六九

種名目	英領印度		英吉利		露領亞細亞		比律賓諸島	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
印刷用紙	二,三〇〇	1,300	二六,〇〇〇	3,400	八〇〇	1,100
煙草用紙
鳥の子紙
連史用紙
包裝用紙	三,四〇〇	5,800	二,四〇〇	2,100	二,五〇〇	七〇〇
小計	三,四〇〇	5,900	四,五〇〇	5,300	二,七〇〇	4,000
雁皮紙及薄葉紙	二,四〇〇	1,300	一,四〇〇	1,500	
吉野紙及典具帖	
中紙及美濃紙	六,六〇〇	9,000	一,九〇〇	2,800	四,〇〇〇	三,六〇〇
塵紙	一,〇〇〇	3,500	四〇〇	2,900	一,〇〇〇	六〇〇
小計	二,五〇〇	3,600	四,八〇〇	5,300	六,〇〇〇	五,〇〇〇
其他の紙	一,七〇〇	3,600	四,七〇〇	5,900	
合計	四,二〇〇	7,200	九,五〇〇	11,200	
板紙	九,〇〇〇	10,800	
總計	一三,〇〇〇	18,000	一〇,〇〇〇	12,100	
百分率	五三	二二	一〇二	一一	一五	二六

種目	獨逸		海峽殖民地		其他の諸國		合計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
印刷用紙	1,407	19,574	3,067	52,562	1,077	13,553	5,551	85,689
煙草用紙	27	35	8,677	26,949	5,922	14,013	14,626	47,947
鳥の子紙			83,600	2,691	1,077	3,778	85,677	2,970
連史紙			6,493	3,692	1,077	6,769	7,570	10,461
包裝用紙			4,673	976	3,853	1,077	8,526	1,876
小計	1,734	19,609	33,667	54,749	12,026	24,423	57,427	118,857
雁皮紙及薄葉紙			1,393	633			1,393	633
吉野紙及典具帖					4,701	13,113	4,701	13,113
牛紙及美濃紙			16,800	1,052	5,570	1,577	22,370	2,629
塵紙			10,800	567	8,893	2,570	19,693	2,570
小計	27,506	18,902	40,533	33,243	27,763	27,763	95,802	49,235
其他の紙			8,000	17,826	3,301	8,938	11,301	26,764
合計	30,600	22,212	33,337	94,814	17,826	40,333	61,163	75,000
板紙			1,001,677	7,773	83,333	1,714,277	777,333	3,517,000
總計	30,600	22,212	34,338	102,587	19,659	49,066	74,000	124,000
百分率	0.3	0.8	0.7	0.7	1.5	2.0	2.0	100.0

備考 本表國別順位は價額の多寡に據る。

次に更に對支及關東州に向つての輸出事情を觀れば左表の如くである。

昭和三年中對支及關東州紙類輸出高表 (大藏省關稅課調査)

種目	滿洲		北支		中支	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
印刷用紙	9,905	99,812	3,336	33,000	5,999	66,812
煙草用紙	1,600	87	3,013	2,910	2,156	1,793
雁皮紙及薄葉紙	1,677	83	1,733	1,315	7,067	4,992
吉野紙及典具帖					5,666	6,827
鳥の子紙	101,200	3,553	2,051	3,411	2,000	3,768
連史紙	84,900	1,005	7,549	91,666	6,977	8,717
板紙及美濃紙	8,173	49,991	8,847	11,887	9,670	11,740
中紙及濃紙	3,366	1,058	1,600	4,990	7,013	3,366
包裝用紙	5,950	787	3,000	4,990	2,000	3,366
塵紙	5,600	1,966	1,100	3,366	6,666	2,558
其他の紙	2,700	3,417	1,700	2,700	2,000	2,558
以上合計	214,776	381,809	35,733	57,668	79,174	101,367
前年	1,145,340	3,184,849	2,509,900	4,576,668	3,123,866	5,630,466
種目	數量	價額	數量	價額	數量	價額
合計	663,342	1,170,529	663,342	1,170,529	663,342	1,170,529
關東州	數量	價額	數量	價額	數量	價額
合計	1,285,007	2,332,967	1,285,007	2,332,967	1,285,007	2,332,967

第三章 日本に於ける紙の需給状態

前篇 滿洲に於ける紙の需給

前年	以上合計	其他の紙	塵紙	包裝用紙	牛紙及美濃紙	板紙	連史紙	鳥の子紙	吉野紙及典具帖	雁皮紙及薄葉紙	煙草用紙
二五,四〇〇	二七,〇七〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
五〇,四三三	一八,四三〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
五九,五八〇,〇〇〇	一六,七九四,二六六	三,九〇〇,〇〇〇	三,四〇〇,〇〇〇	五,九八八,九三三	二,〇〇六,六六六	一〇,〇九七,七三三	二,三三七,五三三	四,三二八,一三三	五,四六六	九,八六七	二,七〇,九三三
一〇,七〇〇,二六六	一五,八〇七,七四四	七,六六〇	七,五七一	八,七六九,九七	九,七六九	一〇,〇九七,七三三	二,九一〇,〇〇〇	五,一九〇,〇〇〇	六,八四九	五,八六三	一,六五,一三三
一五,九八八,六六六	二四,八六〇,八六六	一,五六一,〇〇〇	一,四三〇,〇〇〇	一,四三二,六六七	一,四三二,六六七	一,四三二,六六七	一,四三二,六六七	一,四三二,六六七	一,四三二,六六七	一,四三二,六六七	一,四三二,六六七
三,七四二,七二	三,八四二,七四	三,七四二,七二	三,七四二,七二	三,七四二,七二	三,七四二,七二	三,七四二,七二	三,七四二,七二	三,七四二,七二	三,七四二,七二	三,七四二,七二	三,七四二,七二

七〇

備考 本表の對支及關東州、紙類輸出合計一九、七五一、二九八圓（前年は一四、四七三、四六七圓）は當年紙類總輸出高二五、六七二、三〇八圓（前年は一九、二六三、一九八圓）の内七割六分九厘（前年は七割五分一厘）を占む。

次に輸出額を洋紙及和紙に分けて調べて見れば左の如く、和紙の總額は三百數十萬圓（大正一三年）に止まるが、洋紙は一千二百數十萬圓（大正一三年）に達し、大正元年を基準にすれば大正晩年頃は和紙約三倍に増加し、洋紙に至つては六倍二分に激増してゐる。

一、和紙

大正元年以降大正十四年に至る和紙の輸出高は次表の如く、大正元年より同三年に於て稍々減少し爾來年々漸増し

大正七、八年の好景氣時代が最も旺盛にして、八年には五二一萬餘斤、此の價額四四〇萬圓に達し、大正元年の一〇〇餘萬圓に比べれば、約四倍即ち元年を一百とする時は三百九十二に増加してゐる。而して大正八年以降は大戦後に於ける不況に遭遇し、逐年減少の傾向を辿り、大正十年には二百四十五萬圓に減少した。然しながら大正元年に較べれば尙二十一割九歩の増加になつてゐる。その後大正十年を底として爾來漸増を辿りつゝ現在に及んでゐる。

和紙輸出高

年次	種別	計			其他價額	總價額	價額指數
		數量	價額	價額			
大正元年	雁皮紙及薄葉紙	五八,三六六斤	四九,六六六	一〇,六六六	一〇,六六六	一〇〇	
同二年	吉野紙及典具帖	九六,八二二斤	一,四七〇,四六六	一〇,六六六	一〇,六六六	一〇〇	
同三年	鳥の子紙	三三,二九八斤	一,三三七,七三三	一〇,六六六	一〇,六六六	一〇〇	
同四年	半紙及美濃紙	四六,九一〇斤	一,三三七,七三三	一〇,六六六	一〇,六六六	一〇〇	
同五年	美濃紙	三二,一九八斤	一,三三七,七三三	一〇,六六六	一〇,六六六	一〇〇	
同六年	美濃紙	四〇,七五七斤	一,三三七,七三三	一〇,六六六	一〇,六六六	一〇〇	
同七年	美濃紙	四三,三三七斤	一,三三七,七三三	一〇,六六六	一〇,六六六	一〇〇	
同八年	美濃紙	八九,〇四四斤	一,三三七,七三三	一〇,六六六	一〇,六六六	一〇〇	
同九年	美濃紙	三三,九〇八斤	一,三三七,七三三	一〇,六六六	一〇,六六六	一〇〇	
同十年	美濃紙	三三,九〇八斤	一,三三七,七三三	一〇,六六六	一〇,六六六	一〇〇	
同十一年	美濃紙	三三,九〇八斤	一,三三七,七三三	一〇,六六六	一〇,六六六	一〇〇	
同十二年	美濃紙	三三,九〇八斤	一,三三七,七三三	一〇,六六六	一〇,六六六	一〇〇	

第三章 日本に於ける紙の需給状態

七一

前篇 滿洲に於ける紙の需給

大正十三年	七五、六〇〇	一七、一〇〇	一、〇二〇、〇〇〇	八九、〇〇〇	三、八五七、〇〇〇	二、六二〇、〇七五	八〇、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇	三〇七
大正十四年	五五、三〇〇	六、八〇〇	一、〇一五、九〇〇	四三、〇〇〇	一、九二九、〇〇〇	一、三三三、〇〇元	三、四四、九六五	一、五七七、八二四	一三九

註 大藏省調査に據る。十四年は六月迄

二、洋紙

本邦輸出額は左表に示す通り最近千數百萬圓臺に在りて、輸入額より稍々少い(大正一四年以降現在の趨勢は七五頁圖表参照)。而して之等輸出額の約八割は支那に向けられてゐるのである。今之を大正元年に較べれば、現在は約六倍以上に増加してをるのである。而して品別に見れば印刷用紙が尠然多きを占めてゐる。

洋紙輸出高 (單位斤、但連史紙は刀)

年次	種別	計		其他價額	總價額	指價額
		數量	價額			
大正元年	印刷料紙	四八〇、五二一	一、六二八、四四五	三九、二七	二、〇〇七、七二二	一〇〇
同 二年	印刷料紙	五、三六五、三三四	一、九〇一、〇三三	三、四四七、六	二、九五六、九七九	一四
同 三年	印刷料紙	七、三三〇、〇八五	二、〇一、〇三三	三、九四七、六	二、二七五、〇一	一〇六
同 四年	印刷料紙	一五、〇九八、九八	二、四〇一、〇三三	二、七四一、八七	二、六九四、二九三	一三四
同 五年	印刷料紙	三、七七一、九八	六、六七三、六六三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	三九六
同 六年	印刷料紙	三、〇五五、三〇二	二、八五五、四七二	一、四〇三、七四	一、四〇三、七四	六九八
同 七年	印刷料紙	一八、三六七、七五	二、五七三、三三三	二、七三三、七四	二、四七三、七九	一、三三
大正元年	標準用紙	一	二、九〇、七四	三、〇五、五〇	六、七〇、二三	
同 二年	標準用紙	四二、二五七、二六六	四、八七、一〇七	三、〇一、九六二	一、九〇一、〇三三	
同 三年	標準用紙	四二、二五七、二六六	四、八七、一〇七	三、〇一、九六二	一、九〇一、〇三三	
同 四年	標準用紙	九四、八一七	九、〇〇、一〇六	七、〇六、八七三	二、七四一、八七	
同 五年	標準用紙	一、〇一、六六三	三、五七、二五三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	
同 六年	標準用紙	一、〇一、六六三	三、五七、二五三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	
同 七年	標準用紙	一、〇一、六六三	三、五七、二五三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	
大正元年	連史紙	一	二、九〇、七四	三、〇五、五〇	六、七〇、二三	
同 二年	連史紙	四二、二五七、二六六	四、八七、一〇七	三、〇一、九六二	一、九〇一、〇三三	
同 三年	連史紙	四二、二五七、二六六	四、八七、一〇七	三、〇一、九六二	一、九〇一、〇三三	
同 四年	連史紙	九四、八一七	九、〇〇、一〇六	七、〇六、八七三	二、七四一、八七	
同 五年	連史紙	一、〇一、六六三	三、五七、二五三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	
同 六年	連史紙	一、〇一、六六三	三、五七、二五三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	
同 七年	連史紙	一、〇一、六六三	三、五七、二五三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	
大正元年	東洋紙	一	二、九〇、七四	三、〇五、五〇	六、七〇、二三	
同 二年	東洋紙	四二、二五七、二六六	四、八七、一〇七	三、〇一、九六二	一、九〇一、〇三三	
同 三年	東洋紙	四二、二五七、二六六	四、八七、一〇七	三、〇一、九六二	一、九〇一、〇三三	
同 四年	東洋紙	九四、八一七	九、〇〇、一〇六	七、〇六、八七三	二、七四一、八七	
同 五年	東洋紙	一、〇一、六六三	三、五七、二五三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	
同 六年	東洋紙	一、〇一、六六三	三、五七、二五三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	
同 七年	東洋紙	一、〇一、六六三	三、五七、二五三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	
大正元年	紙板	一	二、九〇、七四	三、〇五、五〇	六、七〇、二三	
同 二年	紙板	四二、二五七、二六六	四、八七、一〇七	三、〇一、九六二	一、九〇一、〇三三	
同 三年	紙板	四二、二五七、二六六	四、八七、一〇七	三、〇一、九六二	一、九〇一、〇三三	
同 四年	紙板	九四、八一七	九、〇〇、一〇六	七、〇六、八七三	二、七四一、八七	
同 五年	紙板	一、〇一、六六三	三、五七、二五三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	
同 六年	紙板	一、〇一、六六三	三、五七、二五三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	
同 七年	紙板	一、〇一、六六三	三、五七、二五三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	
大正元年	包裝紙	一	二、九〇、七四	三、〇五、五〇	六、七〇、二三	
同 二年	包裝紙	四二、二五七、二六六	四、八七、一〇七	三、〇一、九六二	一、九〇一、〇三三	
同 三年	包裝紙	四二、二五七、二六六	四、八七、一〇七	三、〇一、九六二	一、九〇一、〇三三	
同 四年	包裝紙	九四、八一七	九、〇〇、一〇六	七、〇六、八七三	二、七四一、八七	
同 五年	包裝紙	一、〇一、六六三	三、五七、二五三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	
同 六年	包裝紙	一、〇一、六六三	三、五七、二五三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	
同 七年	包裝紙	一、〇一、六六三	三、五七、二五三	七、九五四、〇五	七、九五四、〇五	

年次	印刷料紙	標準用紙	連史紙	東洋紙	紙板	紙包裝紙	數量	價額	其他價額	總價額	指價額
同 八年	三、六八八、四六二	一、八二九、九〇〇	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三
同 九年	一、八二九、九〇〇	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三
同 十年	三、五二一、八〇〇	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三
同 十一年	三、九三二、四〇〇	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三
同 十二年	三、七四四、九〇〇	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三
同 十三年	四、八三三、一〇〇	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三	一、〇一、六六三

註 大藏省調査に據る。

第二項 相手國

今洋紙輸出の相手國を見れば左の如く、大部分は支那に向けられ、他は遙に下つて居るのである。即ち日本紙界は支那を唯一の海外販路として居ると云ふことが出来る。

國別	昭和二年	昭和元年	大正十四年
支那	一〇、七三〇、二九六	一〇、九六一、八六六	一一、三六五、五二三
關東州	三、七四三、一七一	三、六六八、九四六	三、八一六、九〇八
香港	一、一六九、〇〇二	六八四、五八九	一、一二一、七一六
英領印度	六二一、六六八	二五二、六二五	三八〇、五六九
海峽殖民地	三四三、〇二四	三〇五、七九二	四一〇、五四六

第三章 日本に於ける紙の需給状態

前篇 滿洲に於ける紙の需給

蘭領印度	八五、四七二	二〇〇、〇二七	四〇五、六九四
露領亞細亞	二四八、二〇五	七三七、九〇一	七四六、三〇六
比律賓諸島	二九七、六〇〇	三六二、八一八	二四七、二一一
英吉利	四六四、八〇六	三八五、二七三	四三一、八四〇
北美合衆國	一、〇四〇、五四五	八五五、五九六	五五二、二六九
埃太利	二二、六四五	一八、八五一	二〇、三三四
其他	五〇四、七六四	五六四、九一九	七三三、八六四
計	一九、二六三、一九八	一八、九九九、二〇三	二〇、二三六、七八〇

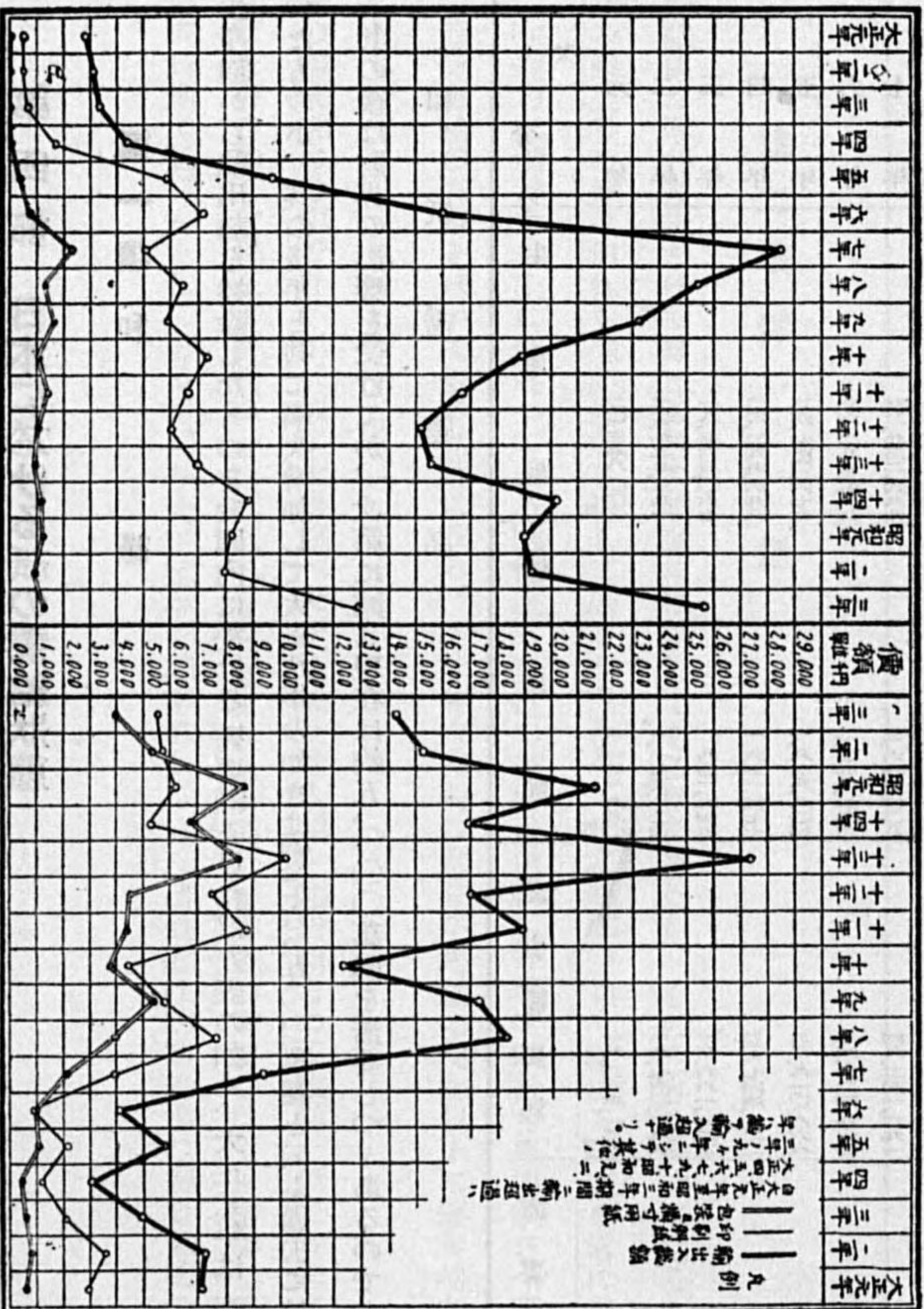
七四

第三項 輸出入趨勢圖表

大正元年以降今日に至る貿易の趨勢を圖表を以て示せば左の如く、輸出は大正五六年の頃より急激に増加して同年遂に二九〇〇萬圓近くに達し其の後、次第に減じて大正十二年迄この趨勢を續けたがその後再び遞増して今や二、六〇〇萬圓近くに及んだ。

輸入も又大正八年頃急激に増加したが、その額一、八〇〇萬圓を頂上にその後、次第に減じて十年迄この傾向を續け、その後再び急増して大正十三年は二、七〇〇萬圓以上に達したが、之を最高としてその後大體減じて今や一、四〇〇萬圓臺に減少しゝる。

本邦紙類(製紙品ヲ除ク)輸出入高之部



第四節 日本に於ける紙の需給状態

第一項 和紙

假に上述生産額から輸出額を控除したものを我國內に於ける需要額と見れば左表の如く、大正元年は一、九〇〇萬圓に過ぎなかつたものが、其の後年と共に漸次増加して大正八年の如きは實に六、五〇〇萬圓と云ふ過去に於ける最高記録を作つた。其の後は財界の影響を受けてか、次第に減じ現在は約五、〇〇〇萬圓を需要しつゝあるのである。

和紙 需要高

年次	生産額	輸出額	差引需要額	需要指數
大正元年	二〇,三八〇,〇〇〇	一,二一八,八〇〇	一九,一六一,二〇〇	100
同 二 年	二〇,九三三,九一〇	一,一七三,〇〇〇	一九,七六〇,九一〇	103
同 三 年	一八,五五三,〇六七	九〇一,四四五	一七,六五一,六一二	92
同 四 年	三三,三九五,九六八	一,六五一,四七七	三一,七四四,四九一	168
同 五 年	二四,七〇四,六七三	一,八二九,八〇四	二二,八七四,八六九	119
同 六 年	三六,二八三,三三三	二,〇八八,九九三	三四,一九四,三四〇	181
同 七 年	五三,九三三,九九九	三,六九一,〇〇八	五〇,二四二,九九一	264
同 八 年	七九,五七四,〇七九	四,三九三,九九三	七五,一八〇,〇八六	395
同 九 年	六九,三三三,六四四	四,四七三,六四五	六四,八五九,九九九	341
同 十 年	六二,二二六,三三三	二,四三二,六六七	五九,七九三,六六六	314

第二項 洋紙

洋紙の需給關係は本邦製紙だけでは比較的順調に推移してをる様であるが、その内容を調べて見ると元年、四年、十年及十一年の四箇年の外は何れも生産過剰を示して居るのである。加之前述の如く輸出入關係も常に幾分宛の輸入超過であり、生産力は消費力以上に進みつゝある關係上、最近の需要は供給に伴はず時折生産過剰さへ來たして操短問題の起る等幾分需給の圓滑を缺いで居る状態に在る。そは年末在荷の割合が需給の増加以上に逐年増加することによつて容易に判る。

厳格な意味の需要額は分明でないが、假に上來述べた生産額及輸入額と輸出額との相殺額を以て我國に於ける洋紙の需要と見れば左表の如く、現在需要額は一一、〇〇〇萬圓臺に在る。而して洋紙の需要額は年々増加して來てをり、此の趨勢は更に將來に延びんとしてをるが、今大正元年を基準にして見れば最近は約四倍半の需要を見つゝあるのである。

洋紙 需要額

同 十 一 年	四四,四六八,八〇八	二,五九八,八〇七	五一,八六七,〇〇一	270
同 十 二 年	五〇,四八八,四九九	二,七七一,三九三	四七,七一一,一〇七	249
同 十 三 年	五三,四六三,七五〇	三,四四〇,五〇四	四九九,九六三,二四六	260
同 十 四 年	五三,〇〇一,九九九	一,五七三,八二四	五一,四二八,一七五	267

年次	生産額	輸入額	輸出額	差引需要額	需要指數
大正元年	100,000,000	6,661,000	110,000,000	2,000,000	100
同二年	130,000,000	6,714,000	115,556,000	2,000,000	104
同三年	150,000,000	4,947,690	117,501,000	2,757,310	111
同四年	197,952,000	3,077,730	126,429,000	3,000,000	113
同五年	238,333,000	5,277,000	149,000,000	4,170,770	126
同六年	292,776,000	4,077,700	140,367,000	4,928,800	130
同七年	107,007,117	9,395,400	147,777,000	4,774,825	135
同八年	112,741,370	18,366,820	117,000,000	1,009,799	137
同九年	135,896,600	17,000,100	187,770,000	1,500,000	140
同十年	101,666,500	22,112,000	160,667,000	9,100,000	141
同十一年	107,979,950	10,000,000	137,770,000	1,013,000	140
同十二年	107,683,000	17,000,000	129,667,000	1,800,000	140
同十三年	95,689,900	27,600,000	125,289,000	1,000,000	139

以上は金額を以て示した需給状態であるが、之を數量から見れば左表の如く、現在の需要量は一〇億封度見當にして大正元年の三億餘封度から見れば約三倍以上になつてゐる。而してその供給は殆んど内地生産であり輸入額は約一割に過ぎない。洋紙は今や特殊の紙を除いて全く自給自足の状態に在る。今より僅に五十五年前に著手した洋紙が現在斯の如き状態に至つたとはその長足の進歩に一驚を喚せざるを得ない。

(單位千封度)

年次	内地生産高	輸入高	計	輸出額	差引需要高	指數
大正元年	23,777	8,000	31,777	17,933	33,710	100
同二年	45,490	3,471	48,961	5,067	43,894	133
同三年	53,000	5,031	58,031	7,887	50,144	154
同四年	87,663	1,967	89,630	8,869	80,761	248
同五年	22,733	9,760	32,493	9,001	23,492	297
昭和元年	107,000	13,790	120,790	95,775	115,015	341

備考 一、本表は商業及經濟研究第四十七冊に據る。
二、内地製造高は製紙聯合會加盟會社の統計である。

第五節 日本に於けるパルプ需給状態

第一項 概説

製紙の原料に種々あることは既に世間周知のことであるが、今日主として使用するものは何と云つても木材パルプである。殊に洋紙に於て然り。歴史を尋ねれば明治初年洋紙の製造に著手するや、樺皮を以て唯一の原料とし、後稻麥の蘖稈を用ひたが、同二十二年より木材パルプを製造して製紙するに至つた。之が我國に於ける嚆矢たり。降て歐州戦後我國製紙業が長足の進歩するに伴ひ、其の原料たるパルプ製造業も次第に發達を遂げた。即ち我國パルプ製造業は大正二年頃より漸次顯著なる發達を遂げ、大正九年迄は年々順調な徑路を辿り、大正九年には會社數一七、工場數

三二を算し、木材パルプの生産二六八、〇〇〇噸に上りしも、翌十年には財界不況、工場の災厄、會社の併合等の影響を受け、同年は會社數一三、作業工場數二八に減じ、延てその産額二五萬噸となり、生産稍々減少したるも、爾來工場の新設、既設工場擴張の結果、その産額著しく増加し、昭和三年に於ては五六七、〇〇〇噸の多きに達し、大正九年に比し約一一割、昭和二年よりも六歩の増加となれり。尙事業擴張の計畫あり、昭和四年には約六三萬噸に達する見込である。而して原料木材の使用量に就ては、大正九年の三、九三八、〇〇〇餘石に對し、同十年には稍々減少して三四八萬餘石となりしも、十一年以降逐年増加して昭和三年中は大正十年に比し一〇割増を示し、昭和四年には昭和三年に比し更に一割一分の増加を見る見込である。

第二項 生産状況

第一種類 製法及用途

パルプは之を通常碎木紙料 (Ground Pulp) 及化學的紙料 (Chemical Pulp) の二種に分つ。

一、碎木紙料

本紙料は又別に機械的紙料 (Mechanical Pulp) とも稱せられ、其の製法は種々あれども、通常木材を剝皮し適當の長さに切り、之を砂岩製の砥石を備へたる碎木機械に掛け、木材を石の周圍面に壓著し、水を注入しつゝ擦り碎きたる後篩にて纖維の大小を分ち、粗きものは更に碎き所要の大きになし、前者とともに貯槽内に集め、之を除渣機に送り、粗糙なる纖維を除きたる後、紙料抄製機にかけ板狀に抄製して乾燥するものである。本紙料は粗糙で且つ漂

白が不充分であるから、上等紙料には不適當である。それ故主として新聞用紙其他下等紙の紙料に供してをる。

二、化學的紙料

化學的紙料は更に其處理せられたる藥品の種類に依り亞硫酸法木紙料、曹達法木紙料及硫酸曹達法木紙料の三種に大別せられてをり、此の三種を總稱して通常化學的紙料と稱してをる。化學的紙料は上等紙料に給せられるものなるが故に、其纖維は碎木紙料に比べ能く分解せられ、漂白も亦充分にせられて居るのである。その製法は通常木材を削截機に依り截片に削りて、之を除塵機で精淨したる後蒸煮罐に入れて酸性亞硫酸石灰液、苛性曹達液又は苛性曹達と硫酸曹達との混合液を注入し、壓力を加へて八時間内外を蒸煮し、纖維が分解したる頃を見計ひ、取出し洗滌槽にて能く水洗して紙料抄製機に掛け板狀に抄製乾燥して市場に送るのである。

第二 木材パルプ生産額

本邦に於ける木材パルプの産額は、大正二年には七六、〇〇〇噸にして、同九年迄は漸次増加し、同九年は二六八、〇〇〇噸に上りしも、翌十年には前年の約七%即ち一八、〇〇〇餘噸を減じた。然るに十一年より再び年々増加し、昭和三年には五六七、〇〇〇餘噸に達し、前年に比し六%、大正九年に比べれば一一割強の増加を示した。

而して大正九年迄に著しく生産の増加せる地方は樺太及北海道なりしも、同十年中北海道及び朝鮮に於てのみ産出稍々増加して、北海道一二三、〇〇〇餘噸、朝鮮一萬餘噸を算せしも、樺太に於ては五四、〇〇〇噸、内地に於ては六一、〇〇〇餘噸に減少した。然るに翌十一年には朝鮮に於て若干の生産減少を示せるも樺太、北海道、内地何れも増加せり。十二年及十三年中、朝鮮にはその生産なかりしも、樺太、北海道及内地は何れも生産を増加し、更に翌十四年に

は樺太一二二、〇〇〇餘噸、北海道一七萬餘噸、内地一二三、〇〇〇餘噸、朝鮮八、二八〇噸に達し、十五年には樺太一六一、〇〇〇餘噸、北海道一九四、〇〇〇餘噸、内地一三二、〇〇〇餘噸、朝鮮一二、〇〇〇餘噸、昭和三年中は樺太一三七、〇〇〇餘噸、北海道一三七、〇〇〇餘噸、朝鮮一三、〇〇〇餘噸となつた。

大正四年以降昭和三年に至る生産量を示せば次の如し。(農林省山林局調査)

年次	生産量	前年に比し増(減)歩合%	指数
大正四年	一一二、〇七五	—	一〇〇
同五年	一三四、九六八	二〇	一一〇
同六年	一六九、〇三六	二五	一五一
同七年	一九八、五九六	一七	一七七
同八年	二三五、二二七	一八	二二〇
同九年	二六八、二六一	一四	二三九
同十年	二五〇、〇二七	(六・八)	二二三
同十一年	三〇一、四二五	二二	二六九
同十二年	三三八、一〇六	二二	三〇二
同十三年	三五七、〇八四	一五	三一九
同十四年	四一四、七〇六	一六	三七〇
昭和元年	五〇〇、三〇一	二〇	四四六
同二年	五三六、三九〇	七	四七九
同三年	五六七、五二九	六	五〇六

同 四 年(見込) 六三六、四一六

一一二

五六八

備考 括弧内の数字は負数を示す。

即ち我國に於ける木材パルプの産額は年々著しく増加して、大正四年を基準にすれば昭和三年は五倍以上に達してをるのである。

次に木材パルプの種類生産に就て觀るに、大正二年には亞硫酸パルプ一五、〇七七噸、碎木パルプ五四、〇〇四噸にして、その割合前者三七%、後者六三%なりしが、爾來亞硫酸パルプの生産著しく増加し、同八年より遂に亞硫酸パルプは碎木パルプの産額を凌駕するに至り、昭和三年には亞硫酸パルプ三一萬餘噸、碎木パルプ二三七、二〇〇餘噸、クラフトパルプ二〇、三〇〇餘噸の産出を見た。而してその割合亞硫酸パルプ五四%強、碎木パルプ四一%、クラフトパルプ約四%に當る。

次に之等各種パルプの産額を地方別に觀れば左の通りである。(單位噸)―農林省山林局調査

工場所在地	種類	年次					將來見込
		大正十四年	同十五年	和和二年	同三年	同四年見込	
樺太	亞硫酸パルプ	一一〇、九七四	一五四、五七六	一九〇、五〇八	一九七、三三三	二七六、八三三	三三〇、〇七六
	碎木パルプ	—	—	一一九、九七〇	一八三、六一二	三八九、九二二	四九、二二五
北海道	計	一一〇	一六八、五七六	八九、二八	一〇三、〇〇六	二六七、〇二二	三六、七〇〇
	亞硫酸パルプ	一三三、〇九四	一六二、四三三	二二一、三六三	二七三、三九〇	二八三、三三三	三〇七、九四四
北海道	碎木パルプ	二五、五九九	三〇、九〇三	三三、〇一九	三三、六三三	三六、六六一	七、二二八
	碎木パルプ	二五、二八三	二九、六二八	二八、四六七	二二、三〇五	二二、八〇三	一六、八五五

滿洲	合 計		朝 鮮		内 地	
	碎木	亞硫酸パルプ	碎木	亞硫酸パルプ	碎木	亞硫酸パルプ
計	1,120	4,476	1,120	4,476	1,120	4,476
碎木	1,120	4,476	1,120	4,476	1,120	4,476
亞硫酸パルプ	1,120	4,476	1,120	4,476	1,120	4,476
計	1,120	4,476	1,120	4,476	1,120	4,476
碎木	1,120	4,476	1,120	4,476	1,120	4,476
亞硫酸パルプ	1,120	4,476	1,120	4,476	1,120	4,476

生産地別に見れば、昭和元年迄は北海道最も多く、樺太之に次いだが、昭和二年以降に在りては地位逆轉して樺太最も多く、北海道之に次げり。

第三 木材パルプ原料使用高

本邦に於けるパルプ原料木材の使用量は、大正二年に一、〇一三、〇〇〇餘石なりしが、同七年には二七六萬石となり、五箇年間に約二倍七分の増加を來たし、更に同九年に三、九三八、〇〇〇餘石となり、僅に二箇年間に約四二%以上の増加を示したが、同十年は前年より約一一%強即ち四六萬石を減じた。然るに同十一年は前年より約二〇%、同十二年は約一〇%、同十三年約五〇%、翌十四年は約一八%、同十五年即昭和元年は約二二%を、昭和二年には約一%を増加し、昭和二年中の使用額七、〇九三、〇〇〇餘石に上り、更に昭和三年には前年より一一%の増加を見、其使用額七、九

〇五、〇〇〇餘石の多きに及んだ。而して大正九年迄の使用量の著しく増加せる地方は、樺太及北海道にして、樺太一三五萬石、北海道一、六〇七、〇〇〇餘石に對し、内地に於ては僅に七六九、〇〇〇餘石を算するに過ぎない。朝鮮に於ては大正八年事業を開始し、九年には二一萬餘石を使用せり。超へて大正十一年以降昭和二年迄は内地北海道、樺太に於ける木材の使用量は年々増加した。但し昭和三年中の内地は前年より約三〇%を増加し、一、四三三、一五二石となり、北海道は約五厘の減少を示して二、四一一、五七二石、樺太は一三%増加し、三、八二五、九二五石を算せり。而して曩に休業中の朝鮮工場に於ても大正十四年下半年より事業を開始し、大正十五年中は二〇三、八四四石なりしが昭和三年には二三六、二三六石の多きに及べり。

大正四年以降昭和三年に至る毎年の原料使用量を見れば左の如し。(農林省山林局調査)

年 次	使用量(石)	前年に比し増(減)歩合	指 數
大 正 四 年	一、四三一、五九一	—	一〇〇
同 五 年	一、七九三、八六九	二五	一二五
同 六 年	二、三一九、二六七	二九	一六二
同 七 年	二、七六八、〇六七	一九	一九三
同 八 年	三、三八九、六三〇	二二	二三七
同 九 年	三、九三八、三六〇	一六	二七五
同 十 年	三、四八七、五五七	(一・四)	二四四
同 十 一 年	四、一八四、五八〇	二〇	二九二
同 十 二 年	四、六一〇、四〇五	一〇	三二二

第三章 日本に於ける紙の需給状態

前篇 滿洲に於ける紙の需給

大正十三年	四、八三二、五二一	五	三三八
同十四年	五、六七二、九六〇	一七	三九六
同十五年	七、〇一〇、四二三	二四	四九〇
昭和二年	七、〇九三、二二〇	一	四九五
同三年	七、九〇五、八八四	一一	五五二
同四年(見込)	八、八一五、六四二	一一	六一六

即ち原料木材の使用量は、大正四年に比し、現在は約六倍に激増せり。然らば之等の原料材は何處に産し、何處に於て消費されるやを見れば左の如くである。(單位石)

木材産地	工場所在地	昭和元年	同二年	同三年	同四年(見込)	將來見込
内地材	内地	一九三三		三九	一、〇〇〇	五、〇〇〇
北海道材	北海道	六、四四三				
内地材	内地	二、四二七	二、四二七	二、四二七	二、四二七	二、四二七
北海道材	北海道	二、五〇九、八三三	二、四二七	二、四二七	二、四二七	二、四二七
内地材	内地	一、三三〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
北海道材	北海道	四、〇七〇	六、七〇			
樺太材	樺太	二、八三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三
朝鮮材	朝鮮	六、八二〇	三、三三三、三三三	二、二二二、二二二	六、〇〇〇、〇〇〇	六、七〇八、七五
滿洲材	滿洲	四、四四四、四四四	四、三三三、三三三	三、二二二、二二二	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
朝鮮材	朝鮮	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三

(農林省山林局調査)

産地	工場所在地	昭和元年	同二年	同三年	同四年(見込)	將來見込
鴨綠江材	内地					
西伯利材	内地					
北滿計	北滿					
滿洲計	滿洲	七、〇一〇、四二三	七、〇一〇、四二三	七、〇一〇、四二三	七、〇一〇、四二三	七、〇一〇、四二三
合	計	七、〇一〇、四二三	七、〇一〇、四二三	七、〇一〇、四二三	七、〇一〇、四二三	七、〇一〇、四二三

第三項 輸入状況

第一輸 入 額

パルプの輸入状況下の如く、大正八年四萬噸餘に過ぎなかつたものが、昭和二年には七萬數千噸に増加して來た。之を割合で見れば約八〇%の増である。

パルプ 輸入 状況

年次	數量(噸)	金額(圓)
大正八年	四〇、五八一	一〇、六八七、二〇六
同九年	四六、八〇八	一三、一九〇、三八三
同十年	三九、〇七五	八、八二九、一三一

第三章 日本に於ける紙の需給状態

前篇 滿洲に於ける紙の需給

大正十一年	六六、三八一	一一、七五五、四二一
同十二年	三五、七二二	六、三三三、八三九
同十三年	五七、〇九八	一〇、〇八七、九三七
同十四年	七七、四四〇	一四、九二五、二〇六
昭和元年	六三、一五一	一一、〇一七、八八二
同二年	七一、三〇〇	一一、九三〇、一五九
同三年	七三、一四四	一一、四五四、九八五

備考 大正十三年迄は鐵道省調査に據り、其後は大藏省關稅課調査に據る。

第二相手國及品種

これ等パルプは果して何れの國から輸入されつゝありやを見れば左表の如く、最近加奈陀を以て嶄然第一となす。而して以下の諸國は遙に下つて諾威、北米、瑞典、瑞西、獨逸及英吉利の順位にその量を減する、即ち日本はそのパルプ輸入の過半を加奈陀に需めてゐると云ふことが出来る。

パルプ輸入状況 (大藏省關稅課調査)

仕出國 種別及年次	加奈陀		諾威		北米		瑞典		瑞西		英吉利		獨逸		其他		合計	
	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數
メカニカルパルプ	100	1,000	50	500	10	100	5	50	1	10	1	10	1	10	1	10	1	10
其他製紙	100	1,000	50	500	10	100	5	50	1	10	1	10	1	10	1	10	1	10
計	200	2,000	100	1,000	20	200	10	100	2	20	2	20	2	20	2	20	2	20

仕出國 種別及年次	加奈陀		諾威		北米		瑞典		瑞西		英吉利		獨逸		其他		合計	
	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數
昭和三年合計	105,557,000	1,055,570	15,777,000	157,770	15,129,000	151,290	14,646,000	146,460	7,105,000	71,050	1,125,100	11,251	3,683,000	36,830	1,974,000	19,740	1,648,700	16,487
昭和二年	95,470,000	954,700	17,550,000	175,500	15,129,000	151,290	14,646,000	146,460	7,105,000	71,050	1,125,100	11,251	3,683,000	36,830	1,974,000	19,740	1,648,700	16,487
昭和元年	70,200,000	702,000	11,000,000	110,000	9,700,000	97,000	9,700,000	97,000	1,800,000	18,000	1,100,000	11,000	2,500,000	25,000	1,100,000	11,000	1,100,000	11,000
大正十四年	71,970,000	719,700	10,830,000	108,300	28,330,000	283,300	28,330,000	283,300	7,670,000	76,700	1,400,000	14,000	1,300,000	13,000	1,400,000	14,000	1,400,000	14,000

備考 昭和三年分は原表の一、二、三、八、三二一擔を總て封度に換算せり。

第四項 輸出状況

大正八年以降のパルプ輸出状況は左表の如くであるが、その數量は最も多かりし大正九年の八、〇〇〇噸餘を最高として爾後急に減少して來て居る。

年次	數量(噸)	金額(圓)
大正八年	1,106	264,080

第三章 日本に於ける紙の需給状態

前篇 滿洲に於ける紙の需給

大正九年	八、一八〇	一九二、七四六
同十年	一、一三三	一二五、五四九
同十一年	三一	四、九六五
同十二年	三	四五二
同十三年(九月迄)	四	六五六
昭和元年	一	一五一
同二年	一七〇	二七、五八四
同三年	一	一

備考 大正十二年迄は鐵道省調査、以後は大藏省關稅課調査に據る。

九〇

第五項 需給狀況

我國に於けるパルプの需要量は、大正三年に在りては僅に一三五、〇〇〇餘噸に過ぎなかつたが、其の後十數年間に漸次増加して、最近は六〇數萬噸の多量に上つて來た、今大正二年の需要量を一〇〇として指數を求めれば、現在は五倍餘の増加である。而してその大部分約八―九〇%は自國生産で、残り一―二〇%を輸入に仰いでをる。以下大正三年以降昭和三年に至るパルプの需給状態を表示すれば在の如し。

パルプ 需給 状態

年次	産額	輸入額	輸出額	需要高	同指數
大正三年	八、八七四	四、三三三	一	一、三三三	一〇〇
同四年	一一、〇七五	五、三六六	一	一、五七二	一四四
同五年	一四、九六六	五、七三〇	一	一、九六六	一六六
同六年	一六、〇〇元	一四、三三四	三、七三三	一、七三三	一四五
同七年	一九、八七六	二八、七九元	三、九〇七	三、三三三	一八一
同八年	二二、三三七	四〇、五〇八	一、〇七	二、七〇三	二三三
同九年	二六、二六一	四六、八〇八	八、八〇	三、〇八八	二八八
同十年	二五、〇七五	三九、〇五五	一、三三	二、七九元	三三三
同十一年	三〇、四三三	六、三六二	三	三、七七八	二九七
同十二年	三三、一〇六	三、七三三	三	三、七三三	三〇一
同十三年	三三、七〇四	五、〇九八	四	四、一四六	三三三
同十四年	四四、七〇六	七、七四〇	一	四、二四六	三九七
昭和元年	五〇、〇〇一	六、一五二	一	五、〇〇一	四四四
同二年	五三、九九〇	七、〇〇〇	一七	六、〇〇〇	四九〇
同三年	五七、五九九	七、一四四	一	六、〇七五	五二六

備考 指數は大正二年を一〇〇とす。

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

第一節 生産狀況

滿洲に於ける紙の生産額は最近約二五〇萬圓にして、その中約一八〇乃至一九〇萬圓が新式機械製紙工業により、残り約六五萬餘圓が従來の舊式製紙業即ち滿洲各地に散在する紙房と稱する家内工業によりて生産せられてゐるのである。

今之を地方別に示せば次の如し。

生産地	新式生産	舊式生産	合計
大連	一〇〇、三七四・八六	—	一〇〇、三七四・八六
營口	五〇、〇九〇・三四	—	五〇、〇九〇・三四
瓦房店	—	八、五七一・六五	八、五七一・六五
遼陽	—	四四、四五三・六四	四四、四五三・六四
奉天	—	二六三、七七九・〇〇	二六三、七七九・〇〇
鐵嶺	—	三三、六一一・〇〇	三三、六一一・〇〇
長春	—	四二、四七八・一四	四二、四七八・一四
吉林	—	一六八、六三七・五〇	一六八、六三七・五〇
安東	一、七五八・六〇七・三六	六、八八一・九五	一、七六五、四八九・三一
鄭屯	—	二〇、三一二・〇〇	二〇、三一二・〇〇
洮南	—	二七、八二〇・八〇	二七、八二〇・八〇

齊々 哈爾濱 計

二七、六四六・九二
八、〇〇〇・〇〇
二、五六一、二六五・一六

備考 新式製紙産額は後述需給狀應計算の都合上昭和二年度をとり、舊式製紙産額は最近(主として三年)一箇年間に於ける推定額である。本表に就ては後編第二章及第三章参照。

その生産品は舊式製紙が全部毛頭紙であるのは勿論、新式機械製紙と雖殆ど全部之等支那紙代用品にして、隨てその需要先は全部支那人である。よつてその販路も亦新式製紙の一部が山東、天津方面に移出される外、大部分は滿洲各地に於て消費されることである。但しこの傾向は最近の事にして昭和二年度迄新式製紙品の六割近くは山東、天津、上海方面に移出されてゐる。

第二節 輸移入狀況

第一項 概勢

最近滿洲に於ける紙(外國紙及支那紙)の年輸入額は約六〇〇乃至六五〇萬海關兩に達し、其の九割七八分即ち殆ど全部が南滿三港より輸入せられてゐる、東北滿洲及間島諸關より輸入せられる額は僅に一〇萬乃至二〇萬兩の間、割合にして二分乃至三分に止まる。今大正三年以降昭和二年に至る十四箇年間に於ける紙の輸移入狀況趨勢を示せば下の如くである。

滿洲に於ける紙の輸入状況趨勢

(單位海關兩)

年	區	南滿三港		其他滿洲各關		合計
		金額	割合	金額	割合	
一九一四年	分	二,三六七,七二七	九.九	一〇,三八五,一〇	四.三	二,四〇八,五二七
一九一五年	分	二,八五九,四三三	九.九	一,三三三,七五	四.二	二,九九三,一八三
一九一六年	分	三,五三三,七三六	九.九	一,〇三〇,九三	四.一	三,七八六,九
一九一七年	分	三,九五三,〇六七	九.九	一,〇二四,八	四.一	三,九八七,五
一九一八年	分	四,一九三,三三四	九.九	二,九七三,五	四.一	四,三三三,三
一九一九年	分	五,六三三,九七六	九.九	四,四二七	四.一	五,六七三,三
一九二〇年	分	四,八四六,九〇	九.九	三,〇五三	四.一	四,三四四,〇
一九二一年	分	四,三三三,三三一	九.九	二,六六八	四.一	四,九三三,一八
一九二二年	分	四,三六六,一八七	九.九	二,〇六七	四.一	四,九三三,一八
一九二三年	分	五,四八,九〇三	九.九	七,七七元	四.一	五,五二六,三
一九二四年	分	四,六五三,〇五	九.九	六,七〇	四.一	四,三六〇,八
一九二五年	分	五,六四三,九〇三	九.九	一〇,三九九	四.一	五,七四六,八
一九二六年	分	六,六二七,三四	九.九	二,八八三	四.一	六,九一五,五
一九二七年	分	六,一〇〇,四九六	九.九	二,〇七	四.一	六,一〇二,八

備考 北支那貿易年報に據る。

第二項 輪移入港及關別

滿洲輸入紙は大連、牛莊及安東の南滿三港(大東溝港は現在なし)及東北滿洲及間島の諸關より輸入されるのであるが

最近の状況を見れば大連より輸入されるもの最も多く、年額約三〇〇乃至三五〇萬兩、その割合五割乃至五割四分、牛莊二三〇萬兩、四割乃至三割三分、安東遙に降つて七一八〇萬兩、割合にして一割乃至一割三分を輸入されてゐる。即ち滿洲輸入紙の過半は大連港より這入つてゐるのであるが、一九二四年前迄はその輸入額常に牛莊が大連の上になつた。然るに一九二五年以後は彼此その地位を轉倒して來た。今先づその過去に於ける趨勢を表示すれば次表の如くである。(單位海關兩)

年	區	安東港		大東溝港		大連港		牛莊港		計	其他諸關		合計
		金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合		金額	割合	
一九一四年	分	三,〇八〇,〇〇〇	二.四	六,八三三	三.三	七,五三三,四四	三三.三	三,一四三,〇	一三.〇	一五,六〇九,四八	六三.三	一,〇二,八五一	四.一
一九一五年	分	三,〇三三,四二	二.二	八,七九	三.二	七,二四三,八六	三〇.一	四,七二七,七六	一九.九	一五,八〇八,三	六三.八	一,〇二,七五	四.一
一九一六年	分	四,四八七,二七	二.七	一,二六五	〇.五	一,五〇一,〇五	六.二	四,〇一七,八〇	一六.六	一〇,二〇七,一	四〇.〇	二,〇三〇,九	八.〇
一九一七年	分	四,七九七,四	二.五	一,六四一	〇.七	一,六三三,三三	六.六	四,〇一七,九	一六.六	一〇,〇六三,〇	四〇.〇	一,〇六四	四.一
一九一八年	分	四,九七六,四	二.五	一,六四一	〇.七	一,六三三,三三	六.六	四,〇一七,九	一六.六	一〇,〇六三,〇	四〇.〇	一,〇六四	四.一
一九一九年	分	九,四七三,五	二.六	一,六四一	〇.七	一,六三三,三三	六.六	四,〇一七,九	一六.六	一〇,〇六三,〇	四〇.〇	一,〇六四	四.一
一九二〇年	分	七,〇四一,九	二.六	一,六四一	〇.七	一,六三三,三三	六.六	四,〇一七,九	一六.六	一〇,〇六三,〇	四〇.〇	一,〇六四	四.一
一九二一年	分	八,四三三,七	二.七	一,六四一	〇.七	一,六三三,三三	六.六	四,〇一七,九	一六.六	一〇,〇六三,〇	四〇.〇	一,〇六四	四.一
一九二二年	分	六,三九〇,六	二.四	一,六四一	〇.七	一,六三三,三三	六.六	四,〇一七,九	一六.六	一〇,〇六三,〇	四〇.〇	一,〇六四	四.一
一九二三年	分	六,三九〇,六	二.四	一,六四一	〇.七	一,六三三,三三	六.六	四,〇一七,九	一六.六	一〇,〇六三,〇	四〇.〇	一,〇六四	四.一
一九二四年	分	三,八四〇,三	一.九	一,六四一	〇.七	一,六三三,三三	六.六	四,〇一七,九	一六.六	一〇,〇六三,〇	四〇.〇	一,〇六四	四.一
一九二五年	分	三,八四〇,三	一.九	一,六四一	〇.七	一,六三三,三三	六.六	四,〇一七,九	一六.六	一〇,〇六三,〇	四〇.〇	一,〇六四	四.一
一九二六年	分	三,八四〇,三	一.九	一,六四一	〇.七	一,六三三,三三	六.六	四,〇一七,九	一六.六	一〇,〇六三,〇	四〇.〇	一,〇六四	四.一
一九二七年	分	三,八四〇,三	一.九	一,六四一	〇.七	一,六三三,三三	六.六	四,〇一七,九	一六.六	一〇,〇六三,〇	四〇.〇	一,〇六四	四.一

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

前篇 滿洲に於ける紙の需給

一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九四〇年
六七六九	六六九三	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
二六三三六	二五二〇七	三〇六六三	三〇六六三	三〇六六三	三〇六六三	三〇六六三	三〇六六三	三〇六六三	三〇六六三	三〇六六三	三〇六六三	三〇六六三	三〇六六三	三〇六六三
二八八三	二八八三	二八八三	二八八三	二八八三	二八八三	二八八三	二八八三	二八八三	二八八三	二八八三	二八八三	二八八三	二八八三	二八八三
二九七二	二九七二	二九七二	二九七二	二九七二	二九七二	二九七二	二九七二	二九七二	二九七二	二九七二	二九七二	二九七二	二九七二	二九七二
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

備考 北支那貿易年報に據る。

次に南滿三港外の各海關の輸入趨勢を見れば左表の如し。(單位海關兩)

年	區	別	金額		比		計		南滿三港		合計	
			金額	千分比	金額	千分比	金額	千分比	金額	千分比	金額	千分比
一九二四年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九二五年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九二六年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九二七年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九二八年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九二九年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九三〇年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九三一年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九三二年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九三三年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九三四年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九三五年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九三六年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九三七年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九三八年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九三九年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇
一九四〇年	哈爾濱	滿洲里	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇	一三三	一〇

備考 北支那貿易年報に據る。計以下各欄の太字は割合。

第三項 内外品別

滿洲に輸移入される紙は單に諸外國から輸入される所謂外國紙の外に、金額に於て殆ど之と相伯仲する支那紙の移入がある。

今この兩者を分けて過十一箇年間に於ける輸入趨勢を觀れば左表の如く、最近一兩年は外國紙三五〇萬乃至三八〇萬兩、支那紙三〇〇萬兩前後に在り、割合から見て外國紙五割乃至約六割、支那紙四割臺に在りて外國の輸入大であるが、一九二五年以前に在りては例外なしに支那紙の輸移入大である。

その詳細を示せば左の通り。

内外品別輸移入趨勢概観 (單位海關兩)

年	區	分	合計		外國品		支那品	
			金額	千分比	金額	千分比	金額	千分比
一九二六年	哈爾濱	滿洲里	四六六九	一〇〇	一七四九八	三九六	二八八三	六二
一九二七年	哈爾濱	滿洲里	二五三六	一〇〇	一五〇七	七〇	二〇七	六
一九二八年	哈爾濱	滿洲里	一〇九三	一〇〇	一〇三三	九	一〇三三	一
一九二九年	哈爾濱	滿洲里	一四三九	一〇〇	一三三三	九	一〇三三	一
一九三〇年	哈爾濱	滿洲里	一〇九三	一〇〇	一〇三三	九	一〇三三	一
一九三一年	哈爾濱	滿洲里	一〇九三	一〇〇	一〇三三	九	一〇三三	一
一九三二年	哈爾濱	滿洲里	一〇九三	一〇〇	一〇三三	九	一〇三三	一
一九三三年	哈爾濱	滿洲里	一〇九三	一〇〇	一〇三三	九	一〇三三	一
一九三四年	哈爾濱	滿洲里	一〇九三	一〇〇	一〇三三	九	一〇三三	一
一九三五年	哈爾濱	滿洲里	一〇九三	一〇〇	一〇三三	九	一〇三三	一
一九三六年	哈爾濱	滿洲里	一〇九三	一〇〇	一〇三三	九	一〇三三	一
一九三七年	哈爾濱	滿洲里	一〇九三	一〇〇	一〇三三	九	一〇三三	一
一九三八年	哈爾濱	滿洲里	一〇九三	一〇〇	一〇三三	九	一〇三三	一
一九三九年	哈爾濱	滿洲里	一〇九三	一〇〇	一〇三三	九	一〇三三	一
一九四〇年	哈爾濱	滿洲里	一〇九三	一〇〇	一〇三三	九	一〇三三	一

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

前篇 滿洲に於ける紙の需給

年次	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合
一九二〇年	四,四四四,〇〇〇	一〇〇	一,〇七五,九七五	二四	二,三六八,〇二五	五三	二,〇七五,九七五	四七	二,三六八,〇二五	五三	二,〇七五,九七五	四七
一九二一年	四,九三三,一八八	一〇〇	二,三三三,五七三	四七	二,六〇〇,六一五	五三	二,三三三,五七三	四七	二,六〇〇,六一五	五三	二,三三三,五七三	四七
一九二二年	四,四六六,八五四	一〇〇	一,八四〇,一一九	四一	二,六二六,七六五	五九	一,八四〇,一一九	四一	二,六二六,七六五	五九	一,八四〇,一一九	四一
一九二三年	五,五二六,六三三	一〇〇	二,四二一,八〇三	四四	三,一〇四,八三〇	五六	二,四二一,八〇三	四四	三,一〇四,八三〇	五六	二,四二一,八〇三	四四
一九二四年	四,三六〇,八五五	一〇〇	二,〇一〇,八三九	四六	二,三五〇,〇一六	五四	二,〇一〇,八三九	四六	二,三五〇,〇一六	五四	二,〇一〇,八三九	四六
一九二五年	五,七四八,八三三	一〇〇	二,七〇〇,九七七	四七	三,〇四七,八五六	五三	二,七〇〇,九七七	四七	三,〇四七,八五六	五三	二,七〇〇,九七七	四七
一九二六年	六,七九一,五五六	一〇〇	三,〇〇〇,一四〇	四四	三,七九一,四一六	五六	三,〇〇〇,一四〇	四四	三,七九一,四一六	五六	三,〇〇〇,一四〇	四四
一九二七年	六,四二〇,八三七	一〇〇	三,八三〇,二九六	五九	二,五九〇,五七一	四一	三,八三〇,二九六	五九	二,五九〇,五七一	四一	三,八三〇,二九六	五九

備考 北支那貿易年報に據る。
以下之を輸移入地別に觀れば左の如し。

第一外國紙

イ、南滿三港

外國紙の殆ど全部は南滿三港から輸入され、東北滿洲及間島諸關より輸入されるものは極めて些少に止まる。而して南滿三港中に在りてもその七八割は大連港より輸入され、之に次ぐものは最近數年間に於ては牛莊であるが、一九二二年以前は安東第二位を占めてゐる。今その實狀を表示すれば左の如くである。

南滿三港外國紙輸入趨勢 (單位海關兩)

年次	安東港		大連港		牛莊港		計		其他諸關		合計	
	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合
一九一七年	三,七五五,〇〇〇	三六	一,一〇〇,〇〇〇	一〇	一,〇〇〇,〇〇〇	八	一,〇〇〇,〇〇〇	九	四,〇〇〇,〇〇〇	二五	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇
一九一八年	三,九五〇,〇〇〇	三六	一,一〇〇,〇〇〇	一〇	一,二〇〇,〇〇〇	八	一,二〇〇,〇〇〇	九	四,〇〇〇,〇〇〇	二五	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇
一九一九年	三,四〇〇,〇〇〇	三六	一,一〇〇,〇〇〇	一〇	一,二〇〇,〇〇〇	八	一,二〇〇,〇〇〇	九	四,〇〇〇,〇〇〇	二五	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇
一九二〇年	三,九〇〇,〇〇〇	三六	一,一〇〇,〇〇〇	一〇	一,二〇〇,〇〇〇	八	一,二〇〇,〇〇〇	九	四,〇〇〇,〇〇〇	二五	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇
一九二一年	四,〇〇〇,〇〇〇	三六	一,一〇〇,〇〇〇	一〇	一,二〇〇,〇〇〇	八	一,二〇〇,〇〇〇	九	四,〇〇〇,〇〇〇	二五	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇
一九二二年	四,〇〇〇,〇〇〇	三六	一,一〇〇,〇〇〇	一〇	一,二〇〇,〇〇〇	八	一,二〇〇,〇〇〇	九	四,〇〇〇,〇〇〇	二五	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇
一九二三年	三,七五五,〇〇〇	三六	一,一〇〇,〇〇〇	一〇	一,二〇〇,〇〇〇	八	一,二〇〇,〇〇〇	九	四,〇〇〇,〇〇〇	二五	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇
一九二四年	三,三三三,三三三	三六	一,一〇〇,〇〇〇	一〇	一,二〇〇,〇〇〇	八	一,二〇〇,〇〇〇	九	四,〇〇〇,〇〇〇	二五	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇
一九二五年	三,三三三,三三三	三六	一,一〇〇,〇〇〇	一〇	一,二〇〇,〇〇〇	八	一,二〇〇,〇〇〇	九	四,〇〇〇,〇〇〇	二五	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇
一九二六年	三,三三三,三三三	三六	一,一〇〇,〇〇〇	一〇	一,二〇〇,〇〇〇	八	一,二〇〇,〇〇〇	九	四,〇〇〇,〇〇〇	二五	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇
一九二七年	三,三三三,三三三	三六	一,一〇〇,〇〇〇	一〇	一,二〇〇,〇〇〇	八	一,二〇〇,〇〇〇	九	四,〇〇〇,〇〇〇	二五	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇

備考 北支那貿易年報に據る。

ロ、南滿三港外

南滿三港外即東北滿洲及間島の諸關より輸入される外國紙は極めて僅少にして、その輸入外國紙の三分見當に止まる。只一九二七年のみが五分五厘を占めた。各關別に之を示せば左表の如し。

南滿三港外外國紙輸入趨勢

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

年次別	哈爾濱		滿洲里		綏芬河		愛琿		琿春		龍井村		三姓		計		南滿三港		合計		
	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合	
一九一七年	40	100	19,934	50,000	5,336	13,340	13,340	33,340	83,340	208,340	516,660	1,291,660	3,228,340	8,066,660	20,166,660	50,416,660	125,000,000	1,291,660	3,228,340	8,066,660	20,166,660
一九一八年	38	100	19,515	50,000	5,127	12,817	12,817	32,127	80,317	200,317	500,317	1,250,317	3,125,317	7,812,634	19,531,585	48,828,962	122,072,425	1,250,317	3,125,317	7,812,634	19,531,585
一九一九年	36	100	19,196	50,000	4,918	12,296	12,296	30,744	76,960	192,460	481,150	1,202,875	3,007,187	7,517,967	18,794,917	46,987,292	117,468,231	1,202,875	3,007,187	7,517,967	18,794,917
一九二〇年	34	100	18,877	50,000	4,709	11,775	11,775	29,437	73,592	183,980	459,950	1,149,875	2,874,687	7,187,467	18,218,667	45,546,667	113,866,667	1,149,875	2,874,687	7,187,467	18,218,667
一九二一年	32	100	18,558	50,000	4,500	11,254	11,254	28,130	70,325	175,437	438,592	1,101,479	2,753,697	6,876,967	17,447,417	43,618,542	109,046,354	1,101,479	2,753,697	6,876,967	17,447,417
一九二二年	30	100	18,239	50,000	4,291	10,733	10,733	26,823	66,560	166,875	417,062	1,040,625	2,632,709	6,566,417	16,676,042	41,751,604	104,062,500	1,040,625	2,632,709	6,566,417	16,676,042
一九二三年	28	100	17,920	50,000	4,082	10,212	10,212	25,516	63,295	158,312	395,562	984,166	2,511,720	6,255,250	15,704,666	39,511,666	98,416,666	984,166	2,511,720	6,255,250	15,704,666
一九二四年	26	100	17,601	50,000	3,873	9,691	9,691	24,209	60,037	150,750	374,062	935,166	2,390,770	5,944,000	14,833,333	37,406,666	93,516,666	935,166	2,390,770	5,944,000	14,833,333
一九二五年	24	100	17,282	50,000	3,664	9,170	9,170	22,902	56,770	142,187	352,666	881,666	2,270,000	5,633,333	14,000,000	35,266,666	88,166,666	881,666	2,270,000	5,633,333	14,000,000
一九二六年	22	100	16,963	50,000	3,455	8,649	8,649	21,595	53,503	133,625	331,166	828,333	2,149,333	5,322,000	13,333,333	33,116,666	82,833,333	828,333	2,149,333	5,322,000	13,333,333
一九二七年	20	100	16,644	50,000	3,246	8,128	8,128	20,288	50,236	125,062	309,666	770,000	2,028,666	5,111,666	12,666,666	30,966,666	77,000,000	770,000	2,028,666	5,111,666	12,666,666

備考 單位海關兩、計以下各欄の上段は千分比。

第二支 那 紙

イ、南 滿 三 港

支那紙も亦その殆ど全部を南滿三港より輸入されてゐることは敢て外國紙の場合と異らぬが、外國紙の場合には大

連嶺然第一位に任じ、その七八割を該港が占めてゐるに反し、支那紙の場合には牛莊之に代りて第一位に在りて、その六一八割を占めてゐる點が之と趣を異にする。これ同港が我克貿易港として古き歴史を有するによる。

南滿三港支那紙輸入趨勢 (單位海關兩)

年次別	安東港		大連港		牛莊港		計		其他諸港		合計	
	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合
一九一七年	18,644	100	53,266	285	126,196	680	238,106	1,277	—	—	238,106	1,277
一九一八年	18,325	100	51,793	283	123,856	676	233,974	1,271	—	—	233,974	1,271
一九一九年	18,006	100	50,320	280	121,517	672	229,843	1,265	—	—	229,843	1,265
一九二〇年	17,687	100	48,847	276	119,178	668	225,711	1,259	—	—	225,711	1,259
一九二一年	17,368	100	47,374	273	116,839	664	221,581	1,253	—	—	221,581	1,253
一九二二年	17,049	100	45,901	269	114,500	660	217,450	1,247	—	—	217,450	1,247
一九二三年	16,730	100	44,428	265	112,161	656	213,319	1,241	—	—	213,319	1,241
一九二四年	16,411	100	42,955	261	109,822	652	209,188	1,235	—	—	209,188	1,235
一九二五年	16,092	100	41,482	257	107,483	648	205,057	1,229	—	—	205,057	1,229
一九二六年	15,773	100	40,009	253	105,144	644	200,926	1,223	—	—	200,926	1,223
一九二七年	15,454	100	38,536	249	102,805	640	196,795	1,217	—	—	196,795	1,217

備考 北支那貿易年報に據る。

ロ、南 滿 三 港 外

南滿三港外より輸入される支那紙は殆ど皆無と云つてよい程度である。即ち一九二四年前に全く之を見なかつたが、

前篇 滿洲に於ける紙の需給

一九二四年後僅に哈爾濱關から左の如く移入されたのみである。
 一九二四年 二四兩
 一九二五年 九九
 一九二六年 一九
 一九二七年 一二兩

第四項品 種別

之等滿洲に輸移入される紙は果して如何なる品種であるか、云ひ換へれば滿洲が需要する紙は如何なる種類のもの
 であるかを知らんが爲めに本項を設け、以下外國紙と支那紙とに分けて之を明にしやう。

第一外國紙

輸移入外國紙の種類は可なり多種に互るが、毎年金額に於て最も多いのは各種印刷用紙である。今各海關別にその
 輸移入状況を掲げれば左の如くであるが、資料たる滿洲貿易詳細統計が海關により、年によりて分類を異にしたり、
 或は譯語を異にして一表に其の趨勢を表はし得ないこと、並に茲に掲げる大連、牛莊、安東及哈爾濱各關以外のもの
 に就ては其の資料を缺ぐが故に之を明にし得ないことを遺憾とする。

イ、大連港 (單位數量擔、價額海關兩)

品別	一九一五年		一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
白及色油光紙 (メカニカルウッドパルプ)	—	—	四九五九	五、九八八	八、四三四	二〇、八四三	七、七四四	七、八四四	八、三九五	八、七五四

品別	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
包裝紙	四、三九二	二、八〇三	三、七四四	三、七三二	四、七五七	五、一三三	四、六二八	五、八九七
印刷用紙 (光澤を附したるもの又は附せざるもの、普通品)	二〇、八八四	一、五、九六六	一九、六六六	四〇、八二二	五、三六〇	五、〇八三	五、四一五	七、八〇五
同 (光澤を附したるもの又は附せざるもの、メカニカルウッドパルプを用ひざるもの)	—	—	五、四九三	一〇、〇三三	二、八八三	一、四九七	一、六二九	二、六三九
圖書用紙及フールスカップ	三、六六	七、三三〇	三、七三三	三、七四九	三、〇三六	一、〇一〇	二、五八七	三、三三三
板紙	四、八三六	一、五七二	六、〇六	八、八八六	四、九八四	一、五、一四	七、四四二	二、六〇九
テツシユ (メカニカルウッドパルプを用ひざるもの)	—	—	三、七	四、九〇五	四、六	五、四	一、一七五	三、九〇
分類外 (數量によるもの)	三、六九三	三、二九四	八、三〇	二、九、七七	二、三、五七	六、五〇	二、七、四六	一、五、一八
日紙	—	—	—	—	—	—	—	—
壁紙	—	—	—	—	—	—	—	—
分紙	—	—	—	—	—	—	—	—
紙類外 (數量によるもの)	—	—	—	—	—	—	—	—
紙卷	—	—	—	—	—	—	—	—
煙草用紙	—	—	—	—	—	—	—	—

備考 本表は滿洲貿易詳細統計に據る。以下各港とも同様。一九一五年の印刷用紙中には各種印刷用紙を、分類外中には各種紙を、
 分類外價額によるものの中には紙製品を含む。

品別	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
板紙	一、七二	六、七二	三、七五	六、九五	三、六	五、五三	七、四六	七、五三
卷煙用紙	四、〇〇六	一、九、五〇〇	三、六三三	一、九、五九九	四、〇七	三、七五九	四、八〇〇	二、八、三三

第四章 滿洲に於ける紙の需給状況

前篇 滿洲に於ける紙の需給

品別	一九一五年		一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
同 (片引及兩面エナ)				八八五		八九五		二五七		四〇〇〇
印刷用紙普通品		五、六九		六、三九〇		五、五〇元		七、九三		七、四四七
同 (光澤を附けるもの)				一、七四三		三、八八一		二、八二		二、五七〇
白及色油光紙 (ルブを用いたるもの)		二〇、九七		二五、九四七		三〇、三五〇		三三、四四〇		三三、五四〇
包裝紙褐色又は色附		四、〇〇四		七、〇〇五		六、〇五八		一、四四〇		一、四二一
印刷用紙 (メカニカルワッドパルプ)		三、〇〇四		三、七〇九		四、五八七		三、六六九		五、〇九三
板紙 (薬板紙)		二、八六六		三、五六六		一、四一五		一、六五二		二、六六二
日 本 紙		四、七二		四、九		九、六三六		四、〇〇		七、〇八四
寫字製圖美術印刷用紙		三、三三		四、九五五		九、八四二		三、五八二		三、五八二
其 他 (數量によるもの)		九、九七		一〇、一〇三		一〇、八四二		一、七五九		一、七五九
其 他 (價額によるもの)				三、一〇六		二、四九七		二、四七七		二、四七七
壁紙				六、六九		三、九五一		七、七〇		四、五九七

口、牛 莊 港

(單位數量擔、金額海關兩)

品別	一九一五年		一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
印刷用紙				四、六六四		五、〇五〇		五、五八五		五、〇一〇
其 他 (數量)		一、六三九		二、七五九		五、二六二		三、八八三		一、九〇九
其 他 (價額)				四、〇八七		五、五八〇		一、九〇九		二、〇〇六

備考 包裝用紙及印刷用紙の一九一五年、一九二一年は各種中に一括され詳細不明。

品別	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
板紙 (純白に染せるもの)				七、九四		三、六		
卷煙草用紙				二、五二四		三、六		
蠟を附せるもの、艶付せるもの、側又は兩側共				九、九		七、九		
普通印刷紙				一、三六八		一、三二七		
光澤印刷紙				八、三		一、八七		
白色有光紙				二、六七		三、三		
包裝用紙				二、六七		三、三		
印刷用紙 (薬板紙)				三、六三		三、六三		
光澤なきティッシュ				三、六三		三、六三		
寫字製圖用紙				八、八五〇		五、〇		
ワッテイン紙				七、六〇		一、五七		
其 他 紙				一、六〇		一、五七		

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

前篇 滿洲に於ける紙の需給

品別	一九一五年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年
日 本 紙					
塵 紙					

ハ、安 東 港

(單位數量擔、金額海關兩)

品 種 別	一九一五年		一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
上 等 品	七二	三,七〇〇							一七〇	三,九八〇
中 等 品	六六	三,四〇〇							一〇九	一,〇九二
包 裝 紙	九五	六,六〇〇							一〇九	一,〇九二
分 類 外 (數量)	三,四〇二	八〇,三三九	二,一六四	三,五五四	三,九七九	四,三九六	二,五七五	二,五七五	一〇,六二二	二〇,八八〇
分 類 外 (價額)	一,九〇二	二,一〇二	四,七三三	三,九七九	九,六〇〇	一三,一〇五	八,一九四	八,一九四	七,三三九	七,三三九

品 種 別	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
板 紙			一四	二七五	八	一八二	一	三
卷 煙 草 用 紙			三三	二七四	二〇	一八二	一	三
綴 附 せ る も の、 贈 付 せ る も の					八	一八二		
印 刷 用 紙 普 通 品			二,四〇五	二,四〇六	二,七四	六,七九四	四	六二
光 澤 紙			四九	一,〇〇二	四	一七四	四	八〇
白 及 色 油 光 紙			三三	二,四〇六	二七	二,七四九	二七	二,七四九
包 裝 紙			四九	一,〇〇二	一〇	一,四八四	一五	一,五三四

品 種 別	一九一五年		一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
印 刷 用 紙 (膠 板 紙)					四六	六,〇七	五三	八,一九九	五三	七,九八
板 紙 (膠 板 紙)					八〇	三,六二	五〇	二,四八三	四三	一,九八
メカニカルワッパルプ及ラバー用紙					一六	二二				
タイツシユ及漂白紙					二二	二七				
寫字製圖美術印刷用紙其他			一六,〇五		二,五五	一,二二	一,九三	三,八三		
其 他										
日 本 紙										
塵 紙					四四	一,二九	二二	一,五〇	五九	一,五〇
壁 紙										

ニ、哈 爾 濱 稅 關

(單位數量擔、金額海關兩)

品 種 別	一九一五年		一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
紙 類	一五,六五		三,九六		二,八四		九,三五		一四,九四	

品 種 別	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
普 通 品 印 刷 用 紙	三九	五,四四	一〇,八四	一,三〇	一,三〇	四,六七	五,五〇〇	
メカニカルワッパルプ用紙			三三	一〇〇	七四	六,六〇	五九	七,〇〇
包 裝 紙			三三	一〇〇	七四	六,六〇	五九	七,〇〇
メカニカルワッパルプ用紙			三三	一〇〇	七四	六,六〇	五九	七,〇〇
包 裝 紙			三三	一〇〇	七四	六,六〇	五九	七,〇〇
メカニカルワッパルプ用紙			三三	一〇〇	七四	六,六〇	五九	七,〇〇
包 裝 紙			三三	一〇〇	七四	六,六〇	五九	七,〇〇

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

品種	一九一五年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年
寫字製圖美術印刷用紙	二	五	四〇三三	八九二	四七三
其 他			六五七	二四三六	四七三
紙 卷				二二七	二九
紙 煙				七九	二九
紙 草					二
紙 用					二
紙 他					四
紙 紙					九
紙 刷					九
紙 板					九

第二支 那 紙

イ、大 連 港

(單位數量擔、金額海關兩)

品種	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
上等	四	九〇	五	一〇七	三	七三	二	二
中等	三	三〇	三	四九	一	一〇	二	二〇
下等	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
其他	二	三	一	五	一	三	一	四
合計	三	一三	三	二四	一	一三	一	二

品種	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
中等	三	一七	三	二二	三	二七	二	二九
下等	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
其他	一	七	一	七	一	七	一	七
合計	一	一七	一	一七	一	一七	一	一七

品種	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
上等	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
中等	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
下等	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
其他	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
合計	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇

前篇 滿洲に於ける紙の需給

品種	區年	一九一五年		一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
中品	等	二五,八三三	二,九六六	四,六五七	三,四〇九	三,四九二	二,七五三	四,四八〇	三,五三六	三,五三六	三,五三六
	等	三,五〇六	一,七四五	五,八六一	二,六八二	四,四九二	二,〇七〇	三,〇九三	三,〇九三	三,〇九三	三,〇九三
下品	等	五,六九六	一,七五〇	九,五四三	二,六三三	八,五二一	二,〇四〇	七,八九七	三,三二八	三,三二八	三,三二八
	等	五,一七〇	一,六八八	二,一九五	一,〇〇八	五,二二四	二,〇四〇	七,八九七	三,三二八	三,三二八	三,三二八
燒製紙	他紙	七,八八三	六,三六九	九,三〇四	六,四二七	七,四七四	五,四七九	一〇,一三三	九,一〇五	九,一〇五	九,一〇五
	板紙	七〇	三三	九四	一,五〇六	一,五〇六	一,五〇六	一,五〇六	一,五〇六	一,五〇六	一,五〇六

ハ、安東港

(單位數量擔、金額海關兩)

品種	區年	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
上品	等	一,六九九	二,四三九	三,四七七	五,〇四八	二,六六六	五,六九三	三,四三三	七,五二六
	等	二,八九九	一〇,五四六	一,九〇三	三,三三七	二,五〇三	三,四三三	三,八六六	二,三二四
中品	等	—	—	—	—	—	—	—	—
	等	—	—	—	—	—	—	—	—
燒製紙	他紙	九二七	二,五六八	二,二七七	三,九四二	七九	一,九三六	一,六六七	五,二八七
	紙	二七	一,〇〇六	三	一七	—	—	—	—
其製紙	他紙	—	—	—	—	—	—	—	—
	紙	—	—	—	—	—	—	—	—
廠製紙	他紙	—	—	—	—	—	—	—	—
	紙	—	—	—	—	—	—	—	—

ニ、哈爾濱稅關

(單位數量擔、金額海關兩)

品種	區年	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
上品	等	一,〇〇一	二,八九〇	三,一三三	六,九五五	三,三三三	九,八六四	二,一八三	四,五七三
	等	七,八八五	九,二四三	一〇,三四五	一,三三三	二,五五五	二,九三六	三,九三二	二,八四八
中品	等	三,七二一	四,五四九	九,二六八	一〇,九三九	三,四九六	一,五六七	七,〇〇一	六,四八七
	等	六〇七	二,六二六	一,五三二	四,七四三	一,〇九二	五,八七九	二,二五九	六,三三三
燒製紙	他紙	六二	三三	七	八〇	—	—	—	—
	紙	—	—	—	—	—	—	—	—
其製紙	他紙	—	—	—	—	—	—	—	—
	紙	—	—	—	—	—	—	—	—
廠製紙	他紙	—	—	—	—	—	—	—	—
	紙	—	—	—	—	—	—	—	—

第五項 輪移入紙界に於ける各國の勢力

滿洲に輪移入される紙が果して何國の産であるか云ひ換へれば、滿洲紙界に於ける各國の勢力分野を知ることには吾人の最も興味を有する問題の一つなれども、本項の資料たる「北支那貿易年報」が仕出國別に調べられて、生産國別に

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

調査してないがために嚴格に云へば此の目的は達せられないのである。何となれば一國の産品は必ずしも自國からでなく、第二國を通して滿洲に輸入されることがあるからである。然しながらこの數字は實際上左迄多額に上るものではない。一例を示せば支那及香港から來る外國品は大部分この例であるが、その額は僅に一〇萬兩臺に止まる。故に輸入紙界に於ける各國の勢力は仕出別數字によつても大體の見當は付けられると惟ふ。

今此見地から最近に於ける各國の勢力分野を見れば、輸入紙總勢に在りては總額六〇〇萬乃至七〇〇萬海關兩の中支那諸港より移入される支那紙が約三〇〇萬海關兩内外、日本より輸入される紙が二〇〇萬乃至三〇〇萬海關兩の間に在るから、其他の外國から輸入される紙は僅に數十萬多くも百萬兩に達しないことになる。換言すれば滿洲紙界に於ける勢力は支那が第一位を占め、日本に次で略々兩分してゐる形である。隨て日支以外の諸國に至つては遙に下つてはゐるが、その中では獨り一九二四年以降の獨逸の擡頭が光つてゐる。

抑々滿洲に於ける紙の殆ど大部分は悉く支那人の需要にかゝるものである。由來支那人は古來傳統と慣習に恐しき執著を有つてゐる國民である。事實は上述せる如く支那紙の移入が滿洲外來紙の半を占めてゐることによつて明に裏書されてゐる。然しながら最近文化の向上發展はこの古き傳統の一端を崩して否新なる需要を惹き起して來た。この事實は支那紙の移入が近年依然二百數十萬乃至三百萬兩に止つてゐるに反し外國品を代表する日本品が數年間に約倍加して來たことによつて容易に之を知ることが出来る。而して支那の製紙工業にして既に第二章記述の通り、近き將來に於て大なる活躍を望み得ない限り、此の傾向は益々濃厚になり、恐らく遠き將來を俟たずして日本の勢力は滿洲紙界を壓するものではないかと惟はれる。

以上概述せる事實を數字を以て示せば左の如くである。

仕出地別輸入狀況 (單位海關兩)

品別	年次									
	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
日本	1,275,000	1,450,000	1,211,000	1,811,000	1,942,000	2,164,000	2,184,000	2,307,000	2,385,000	2,455,000
朝鮮	859,000	1,079,000	1,404,000	1,412,000	1,463,000	2,766,000	2,439,000	990,000	1,310,000	1,493,000
支那	3,953,000	3,011,000	2,601,000	2,977,000	1,402,000	3,279,000	3,443,000	1,906,000	2,554,000	1,549,000
香港	1,597,000	1,867,000	3,307,000	2,547,000	1,402,000	3,775,000	6,218,000	7,775,000	3,360,000	2,403,000
英領印度及海峽殖民地						6,604,000	3,757,000		1,571,000	
露西亞	1,367,000	2,396,000	1,153,000	2,530,000	780,000	1,457,000	1,139,000	6,006,000	4,679,000	2,520,000
獨逸				2,294,000	2,477,000	6,804,000	1,444,000	1,576,000	2,278,000	1,015,000
英吉利				3,211,000	2,407,000	7,776,000	8,866,000	4,676,000	5,578,000	4,255,000
白耳義				78,000	1,070,000	776,000	2,110,000	5,633,000	8,282,000	6,876,000
和蘭				835,000	1,161,000	3,889,000	7,776,000	3,834,000	2,088,000	5,119,000
佛蘭西							1,160,000	1,334,000	3,611,000	5,381,000
伊太利							1,476,000	2,109,000	2,353,000	1,708,000
瑞典								1,526,000	1,526,000	
丁抹典								1,049,000	1,049,000	5,744,000
芬蘭								1,153,000	1,153,000	7,000,000
其他歐羅巴	1,255,000	810,000	3,655,000	1,875,000	877,000	6,553,000	4,307,000	2,011,000	2,101,000	3,126,000

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

品名	北米合衆國		其他		支那諸港		支那龍江沿岸		總計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
其計	4,333,197	15,790,000	500	1,936	2,696,626	9,633,000	2,696,626	2,696,626	10,000,000
支那諸港					2,696,626	9,633,000	2,696,626	2,696,626	10,000,000
支那龍江沿岸									
總計	4,333,197	15,790,000	500	1,936	2,696,626	9,633,000	2,696,626	2,696,626	10,000,000

備考 一九一八年—一九二〇年間の支那品は外國品中に合計さる。本表は北支那貿易年報に據る。

第三節 輸移出狀況

第一項 概勢

滿洲から輸移出される紙は一九二六年迄は年々五萬兩に足らなかつたが、一九二七年に至つて俄然六二萬餘兩に達した。而して從來是等輸移出は一九二五年迄はその數量及金額に於て哈爾濱稅關管内を以て第一位とし大連港之に次で、牛莊港、安東港の順に下つてゐたが、一九二六年以來、大連、哈爾濱に取つて代り斷然第一位を占むるに至つた。之を示せば左表の通りである。

輸移出(支那品)狀況 (單位數量擔、金額海關兩)

年次	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
一九一五年	4,066	4,568	5,533	3,063	26	283	15	15	1,001	8,108
一九二〇年	4,333	6,084	5,791	8,110	41	41	4	6	1,077	14,770
一九二一年	11,271	6,364	2,241	3,934	60	85	109	183	1,550	22,995
一九二二年	7,810	3,310	3,371	4,894	114	210	246	452	3,577	25,833
一九二三年	8,841	4,473	3,818	6,476	55	85	177	341	2,994	24,990
一九二四年	8,841	6,891	7,001	4,598	233	78	119	267	2,810	29,033
一九二五年	11,444	9,933	6,861	8,667	171	158	137	141	3,500	34,297
一九二六年	48,444	23,566	4,451	9,887	87	251	73	109	6,839	46,869
一九二七年	42,260	41,587	1,933	5,953	16,561	19,321	831	13,454	59,638	62,255

第二項 輸移出地別

各輸移出地別にその輸移出狀況を觀れば以下諸項の通りである。

イ、大連港

大連港より輸移出される紙は各品種を合して一九二五年迄は一萬兩に達しなかつたが、一九二六年には二四、〇〇〇兩に上り、一九二七年に至つて一躍遂に四二、〇〇〇兩に達した。之を品種別に觀れば從來中等品が最も多

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

かつたが、一九二六年以來上等品が嶄然多くなり、尙一九二七年には新に白及油光紙並筆記用紙が相當輸出されてゐる。

大連港輸出状況

品種	年次		品種	年次		品種	年次		品種	年次		品種	年次		品種	年次		品種	年次	
	数量	金額		数量	金額		数量	金額		数量	金額		数量	金額		数量	金額		数量	金額
上等品	4,910	1,077	上等品	3,377	2,299	上等品	3,713	2,933	上等品	2,123	2,267	上等品	2,100	1,081	上等品	2,290	3,273	上等品	2,586	5,006
中等品	3,550	3,941	中等品	4,966	4,966	中等品	4,966	4,966	中等品	4,966	4,966	中等品	4,966	4,966	中等品	4,966	4,966	中等品	4,966	4,966
下等品	3,550	3,941	下等品	4,966	4,966	下等品	4,966	4,966	下等品	4,966	4,966	下等品	4,966	4,966	下等品	4,966	4,966	下等品	4,966	4,966
其他紙	2,356	5,561	其他紙	2,356	5,561	其他紙	2,356	5,561	其他紙	2,356	5,561	其他紙	2,356	5,561	其他紙	2,356	5,561	其他紙	2,356	5,561
切紙	2,356	5,561	切紙	2,356	5,561	切紙	2,356	5,561	切紙	2,356	5,561	切紙	2,356	5,561	切紙	2,356	5,561	切紙	2,356	5,561
其紙	2,356	5,561	其紙	2,356	5,561	其紙	2,356	5,561	其紙	2,356	5,561	其紙	2,356	5,561	其紙	2,356	5,561	其紙	2,356	5,561
白及油光紙	2,356	5,561	白及油光紙	2,356	5,561	白及油光紙	2,356	5,561	白及油光紙	2,356	5,561	白及油光紙	2,356	5,561	白及油光紙	2,356	5,561	白及油光紙	2,356	5,561
筆記用紙	2,356	5,561	筆記用紙	2,356	5,561	筆記用紙	2,356	5,561	筆記用紙	2,356	5,561	筆記用紙	2,356	5,561	筆記用紙	2,356	5,561	筆記用紙	2,356	5,561
計	4,910	1,077	計	3,377	2,299	計	3,713	2,933	計	2,123	2,267	計	2,100	1,081	計	2,290	3,273	計	2,586	5,006

口、牛 莊 港

同港より輸出される額は常に一萬兩に達してゐない。之を品種別に見れば、一九二五年から一九二三年迄は不明であるが、一九二四年以後は常に半以上は上等品である。

牛莊港輸出状況

品種	年次		品種	年次		品種	年次		品種	年次		品種	年次	
	数量	金額		数量	金額		数量	金額		数量	金額		数量	金額
上等品	1,955	3,553	上等品	1,955	3,553	上等品	1,955	3,553	上等品	1,955	3,553	上等品	1,955	3,553
中等品	1,955	3,553	中等品	1,955	3,553	中等品	1,955	3,553	中等品	1,955	3,553	中等品	1,955	3,553
下等品	1,955	3,553	下等品	1,955	3,553	下等品	1,955	3,553	下等品	1,955	3,553	下等品	1,955	3,553
其他品	1,955	3,553	其他品	1,955	3,553	其他品	1,955	3,553	其他品	1,955	3,553	其他品	1,955	3,553
紙	1,955	3,553	紙	1,955	3,553	紙	1,955	3,553	紙	1,955	3,553	紙	1,955	3,553
計	1,955	3,553	計	1,955	3,553	計	1,955	3,553	計	1,955	3,553	計	1,955	3,553

ハ、安 東 港

本港より輸出される紙は一九二四年迄は一千兩に達せず。一九二五年以後増加して二千兩前後に及び、一九二七年には急に一九三、〇〇〇兩になつた。然しその中の一九二、〇〇〇兩は新にふへた廠製紙である。

安東港輸出状況

品種	年次		品種	年次		品種	年次		品種	年次	
	数量	金額		数量	金額		数量	金額		数量	金額
上等品	1,955	3,553	上等品	1,955	3,553	上等品	1,955	3,553	上等品	1,955	3,553
中等品	1,955	3,553	中等品	1,955	3,553	中等品	1,955	3,553	中等品	1,955	3,553
下等品	1,955	3,553	下等品	1,955	3,553	下等品	1,955	3,553	下等品	1,955	3,553
其他品	1,955	3,553	其他品	1,955	3,553	其他品	1,955	3,553	其他品	1,955	3,553
紙	1,955	3,553	紙	1,955	3,553	紙	1,955	3,553	紙	1,955	3,553
計	1,955	3,553	計	1,955	3,553	計	1,955	3,553	計	1,955	3,553

第四章 滿洲に於ける紙の需給状況

前篇 滿洲に於ける紙の需給

品種	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
中品	190	56	23	25	3	3
下等	192	60	1	1	9	3
燒紙	193	40	1	1	1	1
其他紙	193	85	1	1	1	1
計	678	186	26	28	12	7

一一八

ニ、哈爾濱稅關管内

本管内より輸移出する額は最近常に一萬數千兩に止まる。

哈爾濱稅關管内輸移出狀況

品種	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
上品	195	192	14	24	27	27
中等	190	60	33	43	30	37
下等	192	109	35	44	35	42
燒紙	193	186	48	68	41	51
其他紙	193	34	18	23	4	5
計	763	581	138	202	141	172

第三項品種別

最近に於ける實績から見れば、中等品最も多いのが普通であるが、一九二七年に入りて新に筆記用紙、廠製紙、白及油光紙斷然増加して來た。これ安東鴨綠江製紙製品が山東、天津及上海方面に輸出されたためである。

總括

品種	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
上品	292	567	54	121	94	208	460	
中等	75	84	97	123	180	307	350	
下等	84	59	53	66	50	63	70	
燒紙	5	13	7	11	11	14	18	
其他紙	87	77	134	165	133	144	187	
廠製紙					113	101	101	101
白及油光紙					209	409	173	324
筆記用紙							164	197
合計	501	791	348	493	478	702	983	

次に之等各品種を港別に見れば、各品種を通じ大體大連港よりするを最多とするが、只下等品、燒紙、其他紙類に限り哈爾濱稅關より出るものが多い。其他屑紙、白及油光紙並筆記用紙は大連港のみから出で、廠製紙は安東港から出されてゐる。

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

イ、上等品

年次	關別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
一九二七年	一	五八六	四〇〇八	一九〇	三三七四	五	二四四	三七	二一五	六二〇八
一九二六年	一	三六	三二七	二五	四八二	六	一六〇	七	一九三	五三
一九二五年	一	一〇	二九〇	三五	七六六	一四	六六	一四	二四七	五八七
一九二四年	一	一〇	一四〇	一四	二八四	五	三五	二四	二六三	二九二
計										

ロ、中等品

年次	關別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
一九二七年	一	一七五	三三〇八	三	二四	三	三	三〇	三七〇	三〇七
一九二六年	一	一四七	二三四	八	七三	六	二九〇	二四	二七九	一〇四
一九二五年	一	五五	六六六	一	一三	一六	一四	四〇	四四五	九三
一九二四年	一	三七	三〇三	二	三	三	二七五	三	五二五	七五
計										

ハ、下等品

年次	關別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
一九二七年	一	一六	一〇六	一	一	九	五三	三	三三	六六
一九二六年	一	三六	一八四	一	一	六	三六	三	三六	六七
一九二五年	一	三三	二六	一	一	三	一六	四	四八	五〇
一九二四年	一	四九	三七三	一	一	二	一〇五	三	三五〇	八四
計										

ニ、燒紙

年次	關別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
一九二七年	一	一	一	二	一	二	六	四	九	四
一九二六年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一九二五年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一九二四年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計										

ホ、其他

年次	關別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
一九二七年	一	一	一〇〇〇	一	一六五	一	一五	一	四	一
一九二六年	一	一	一四三	一	三六四	一	一六五	一	三七三	一
一九二五年	一	一	一七二	一	八四	一	六	一	一八	一
一九二四年	一	一	一	一	一	一	一〇	一	五五	一
計										

へ、切紙

紙の輸出は大連港のみから次の如く出たのみで、一九二四及一九二五年には全然ない。(單位數量擔、金額海關兩)

一九二六年	數量	三七一	金額	六八三
一九二七年	數量	四〇	金額	一〇一

ト、屑紙

屑紙も一九二六及一九二七の兩年に於て大連港から次の如く出たのみで他港からは出てゐない。

一九二六年	數量	二、〇九六	金額	四、〇一九
一九二七年	數量	一、七一三	金額	三、二四二

本紙は一九二四、一九二五及一九二六年には何れの港にもなく、只一九二七年に安東港から次の如く移出されてゐる。

一九二七年	數重	一六、四七三	金額	一九二、二八五
リ、白及油光紙				

本紙も一九二四、一九二五及一九二六年には全然なく、一九二七年大連港から次の如く出たことになつてをる。

一九二七年	數量	一五、〇六八	金額	一四七、三二九
又、筆記用紙				
一九二七年	數量	一六、六二四	金額	一九五、七四二

第四項 仕向地別

以上によつて滿洲より輸移出される紙の數量、金額が幾許であるか、それが何處より輸移出されつゝありや、及是等輸移出品は如何なる品種でありやを説明したが、本項に於ては然らば是等の紙は何處に仕向けられるか、云ひ換へれば何處に需要されるやを輸移出地別及品種別に調べてみよう。以下諸表に見る如く滿洲各地を仕向地とする紙は滿洲から云へば輸出でも移出でもないから之を控除すべきであるが、「貿易詳細統計表」に倣ひ暫く其の儘を掲げることにする。

イ、大連港より輸移出される紙の仕向地

一、上等品

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

最近に於ける上等品の主たる仕向地は天津及上海であるが詳細を示せば左の如くである。

仕向地	區別	年次	
		年一九一五	年一九二〇
日朝	計	數量	金額
		數量	金額
	朝鮮	數量	金額
		數量	金額
	日本	數量	金額
		數量	金額
	威海衛	數量	金額
		數量	金額
	上海	數量	金額
		數量	金額
	天津	數量	金額
		數量	金額
	龍口	數量	金額
數量		金額	
山東	數量	金額	
	數量	金額	
江蘇	數量	金額	
	數量	金額	
直隸	數量	金額	
	數量	金額	
合計	數量	金額	
	數量	金額	

二、中等品

一兩年間の主たる仕向地は滿洲及天津並に山東省である。その趨勢を示せば左の通り。

仕向地	區別	年次	
		年一九一五	年一九二〇
日朝	計	數量	金額
		數量	金額
	朝鮮	數量	金額
		數量	金額
	日本	數量	金額
		數量	金額
	芝罘	數量	金額
		數量	金額
	天津	數量	金額
		數量	金額
	青島	數量	金額
		數量	金額
	安東	數量	金額
數量		金額	
龍口	數量	金額	
	數量	金額	
山東	數量	金額	
	數量	金額	
滿洲	數量	金額	
	數量	金額	
江蘇	數量	金額	
	數量	金額	
直隸	數量	金額	
	數量	金額	
合計	數量	金額	
	數量	金額	

三、下等品

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

仕向地	年次	一九二一年		一九二二年		一九二三年		一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
朝鮮															
天津															
奉天															
上海															
芝罘															
山東															
直隸															
合計		四三	一〇、五五	四三	一〇、五五	四〇〇	一三、〇〇	四九	一三、〇〇	三三	一〇、五五	三六	一〇、五五	三六	一〇、五五

備考 一九一五年及一九二〇年なし。

四、燒紙

仕向地	年次	一九一五年		一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年		一九二四年		一九二五年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
龍口															
山東															
威海															
合計		三	六	八	三	二	三	一	二	四	六	二	三	五	二

備考 一九二六年及一九二七年なし。

五、切紙

仕向地	年次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
日本							
青島							
芝罘							
龍口							
其他							
合計		三	六	三	六	三	六

備考 一九二五年前はなし。

六、屑紙

仕向地	年次	一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額
朝鮮					
合計		一	一	一	一

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

仕向地	區別	年次	
		一九二五年	一九二七年
龍青	計	數量	金額
		數量	金額
朝日	計	數量	金額
		數量	金額
鮮本	計	數量	金額
		數量	金額
口島	計	數量	金額
		數量	金額

一二九

九、其

仕向地別	一九二七年	
	數量	價額
香港	二二二	二、六六四
上海	五、四六二	六〇、五五五
青島	四、六〇五	五六、四八一
芝罘	一三〇	一、五七四
龍口	二〇五	二、四六四
天津	六、〇〇〇	七二、〇〇七
合計	一六、四〇二	一九三、〇八一
合計	一六、六二四	一九五、七四五

備考 一九二七年前はなし。

其他

八、筆記用紙

仕向地別	一九二七年	
	數量	價額
上海	四、七一一	四五、二五四
天津	七、六九七	七六、二四六
青島	一、七二七	一六、六九七
龍口	一七六	一、七〇八
芝罘	七六三	七、三八八
威海衛	四	三六
合計	一五、〇六八	一四七、三二九

備考 一九二七年前はなし。

七、エム、ジー、キヤップ白又色付

仕向地別	一九二六年		一九二七年	
	數量	價額	數量	價額
天津	四八	九九五	九九五	一二八
上海	一七	三三	三三	三三
青島	六	二〇	二〇	二〇
其他	六	三〇	三〇	三〇
芝罘	二九	二八三	二八三	二八三
威海衛	三	一〇	一〇	一〇
龍口	二	二六	二六	二六
合計	一〇六	四〇九	四〇九	四〇九
合計	一〇六	四〇九	四〇九	四〇九

備考 一九二六年前はなし。

前篇 滿洲に於ける紙の需給

計	芝天		戎直		山直		滿洲		合
	津	梁	省	省	東	東	洲		
計	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	三	三	三	三	三	三	三	三	三
計	五	九	一	一	一	一	一	一	一
計	九七	七六	八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七
計	八〇	二五	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八
計	一七三	六四	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
計	三九八	一五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
計	一四五	一	一	一	一	一	一	一	一
計	二〇七	一	一	一	一	一	一	一	一

備考 一九二四年、一九二〇年、一九二二年、一九二三年、一九二四年なし。

口、牛莊港より輸移出する紙の仕向地

一、上等品

計	朝鮮		上海		天津		龍口		合
	計	克	計	克	計	克	計	克	
計	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	三	三	三	三	三	三	三	三	三
計	五	五	五	五	五	五	五	五	五
計	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
計	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
計	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
計	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
計	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇

二、中等品

計	朝鮮		上海		天津		龍口		合
	計	克	計	克	計	克	計	克	
計	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	三	三	三	三	三	三	三	三	三
計	四	四	四	四	四	四	四	四	四
計	五	五	五	五	五	五	五	五	五
計	六	六	六	六	六	六	六	六	六
計	七	七	七	七	七	七	七	七	七
計	八	八	八	八	八	八	八	八	八
計	九	九	九	九	九	九	九	九	九
計	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

三、燒紙

本紙は一九二六年に朝鮮に向けて二擔その金額五七海關兩を出したのみである。

四、其他

計	日本		朝鮮		日		仕向地
	計	克	計	克	計	克	
計	一	一	一	一	一	一	一
計	二	二	二	二	二	二	二
計	三	三	三	三	三	三	三
計	四	四	四	四	四	四	四
計	五	五	五	五	五	五	五
計	六	六	六	六	六	六	六
計	七	七	七	七	七	七	七
計	八	八	八	八	八	八	八
計	九	九	九	九	九	九	九
計	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

仕向地	年次	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
朝鮮		三	二七五	六	一五	三	二六	三	三
日本									
合計		三	二七五	六	一五	三	二六	三	三

二、中等品

仕向地	年次	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
日本		一	四五	二	二七	一	六	一	九
朝鮮		四	二五	一	七	六	一〇	二	八
天津									
合計		五	七〇	三	三四	七	一六	三	一七

一、上等品

ハ、安東港より輸移出される紙の仕向地

仕向地	年次	一九一五年		一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
日本		八	四	一	四	一	五	一	三	一	七〇
天津				二	七	三	二	三	七	三	七〇
海州				二	四	一	一	一	一	一	一
龍口				九	七	三	九	一	一	一	一
芝罘				二	四	一	一	一	一	一	一
合計		一〇	三三	一六	二七	七	一七	六	一七	五	一四〇

五、紙類

仕向地	年次	一九一五年		一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
天津		二	二	一	一	一	一	一	一	一	一
海州		二	二	一	一	一	一	一	一	一	一
龍口		二	二	一	一	一	一	一	一	一	一
芝罘		二	二	一	一	一	一	一	一	一	一
合計		八	八	四	四	四	四	四	四	四	四

前篇 滿洲に於ける紙の需給

前篇 滿洲に於ける紙の需給

三、下等品

仕向地	年次	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
朝鮮	計	三五	一〇五	三五	一〇五	三五	一〇五	三五	一〇五
芝罘	計	五	一五	五	一五	五	一五	五	一五
近海	計	三〇	九〇	三〇	九〇	三〇	九〇	三〇	九〇
合計	計	三〇	九〇	三〇	九〇	三〇	九〇	三〇	九〇

四、燒紙

仕向地	年次	一九二四年		一九二五年		一九二六年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
朝鮮	計	二	六	二	六	二	六
合計	計	二	六	二	六	二	六

五、廠製紙 (一九二六年及それ以前なし)

備考 一九二七年なし。

芝 仕向地別 粟

數量 一、七五八

金額 二〇、五八五

一九二七年

六、其他

龍天青大近
口津島連海

數量 一一一
四、八三五
一二
九、七〇八
三九
一六、四七三

金額 一、三三三
五七、二〇四
一三五
一一二、六二三
四二五
一九二、二八五

七、紙類

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

仕向地	年次	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
朝鮮	計	一	八	三	一六	三	一六	二	一六
日本	計	一	八	三	一六	三	一六	二	一六
上芝	計	一	八	三	一六	三	一六	二	一六
龍口	計	一	八	三	一六	三	一六	二	一六
合計	計	一	八	三	一六	三	一六	二	一六

二、哈爾濱稅關管内より輸出する紙の仕向地

仕向地	年次	一九一五年		一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
日 本		六	一六	四	一四	八	二六	二	一四	三	一六
朝鮮		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
天津		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
支那		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
合 計		九	一八	六	一六	一〇	二八	六	二〇	六	二四

一、上等品

仕向地	年次	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
支那領黑龍江		一三	二六	一四	二七	七	一五	三	二九

二、中等品

仕向地	年次	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
支那領黑龍江		三	五	四	四	二	二	三	三

三、下等品

仕向地	年次	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
支那領黑龍江		三〇	二七	四八	二六	三七	二五	三五	二二

四、燈紙

仕向地	年次	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
太平洋沿岸露西亞		一	一	一	一	一	一	一	一
支那領黑龍江		一	一	一	一	一	一	一	一
合 計		二	二	二	二	二	二	二	二

五、其他

仕向地	年次	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
太平洋沿岸露西亞		七	二五	一	一	一	一	一	一
西伯利亞		四	一六	一	一	一	一	一	一
支那領黑龍江		二	四	一	一	一	一	一	一
合 計		十三	四五	三	三	三	三	三	三

六、紙類

仕向地	年次	一九一五年		一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
太平洋沿岸露西亞		一	一四								
西北利露西亞											
黑龍江沿岸露西亞			一七								
計		一	一四								
支那領黑龍江											
合計		一	一四								

ホ、愛理より輸移出する紙の仕向地

一、上等品 (一九二四年以降不明)

仕向地	年次	一九一五年		一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
露		六	二五	六〇	三六〇〇	三	八六	六	一四七	六	三〇〇
中											
等											
品											
(一九二四年以降不明)											

第四節 再輸移出狀況

第一項 支那紙

第一概 勢

滿洲より再輸移出される支那紙は極めて少く、金額一萬兩を出でない。而して其の大部分は大連よりも寧ろ哈爾濱税關管内より輸移出されてゐる。最近はその額六七千兩を前後してゐる。今最近の趨勢を表示すれば左の如くである。

支那品再輸移出狀況

再輸移出地	年次	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱税關管内		計	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
一九二五年		一	一	二	二七	二	一四六	五九〇	六〇六	七〇	七五九
一九二六年		一九	一七九	一五	一九八	七	八五	六三	五三三	一〇七	九四七
一九二七年		六	二七	一九	一五〇	一六	一四六	七四	六七三	一〇七	九四七

第二輸移出地別

是等再輸移出支那紙をその輸移出地から見れば左の如くである。

イ、大連港

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

本港より再輸出する紙は尙に少額に止る。最近の情勢を示せば左の通りである。

大連港より輸出される支那紙

品 種 別	年 次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
上 等 品		一	一〇	一	一〇	一	一〇
中 等 品		一	一〇	一	一〇	一	一〇
下 等 品		一	一〇	一	一〇	一	一〇
燒 紙		一	一〇	一	一〇	一	一〇
其 他		一	一〇	一	一〇	一	一〇
計		五	五〇	五	五〇	五	五〇

ロ、牛 莊 港

牛莊港より輸出される支那紙も亦極めて尠く、最近千數百兩を出でゝゐない。

牛莊港より再輸出される支那紙

品 種 別	年 次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
上 等 品		一	一〇	一	一〇	一	一〇
中 等 品		一	一〇	一	一〇	一	一〇
下 等 品		一	一〇	一	一〇	一	一〇
計		三	三〇	三	三〇	三	三〇

ハ、安 東 港

本港より輸出される支那紙も亦大連、牛莊と大差なく極めて尠少である。今品種別に示せば左の如くである。

安東港より再輸出される支那紙

品 種 別	年 次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
上 等 品		一	一〇	一	一〇	一	一〇
中 等 品		一	一〇	一	一〇	一	一〇
下 等 品		一	一〇	一	一〇	一	一〇
燒 紙		一	一〇	一	一〇	一	一〇
其 他		一	一〇	一	一〇	一	一〇
計		五	五〇	五	五〇	五	五〇

品 種 別	年 次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
上 等 品		一	一〇	一	一〇	一	一〇
中 等 品		一	一〇	一	一〇	一	一〇
下 等 品		一	一〇	一	一〇	一	一〇
燒 紙		一	一〇	一	一〇	一	一〇
其 他		一	一〇	一	一〇	一	一〇
計		五	五〇	五	五〇	五	五〇

ニ、哈爾濱税關管内

再輸出支那紙の大部分が同關管内より輸出されてゐることは既述の通りであるが、次に之を品種別に分けて示

せば左表の如し。

哈爾濱税關管内より再輸出される支那紙

品 種 別	年 次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
上等品		1,110	1,110元	1,066	1,066元	1,110	1,110元
中等品		45	45元	45	45元	45	45元
下等品		2,550	2,550元	2,550	2,550元	2,550	2,550元
燒紙		45	45元	45	45元	45	45元
其他		600	600元	600	600元	600	600元
計		5,360	5,360元	5,360	5,360元	5,360	5,360元

第三品 種 別

再輸出支那紙の種類は上等品、中等品、下等品、燒紙、ミル紙及其他の六種に分かれてゐるが、今各品種別にその趨勢を見れば以下諸表の如く、最も多きは下等品である。

總括

品 種 別	年 次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
上等紙		1,110	1,110元	1,066	1,066元	1,110	1,110元
中等紙		45	45元	45	45元	45	45元
下等紙		2,550	2,550元	2,550	2,550元	2,550	2,550元
燒紙		45	45元	45	45元	45	45元
其他		600	600元	600	600元	600	600元
計		5,360	5,360元	5,360	5,360元	5,360	5,360元

品 種 別	年 次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
中等品		1,110	1,110元	1,066	1,066元	1,110	1,110元
下等品		45	45元	45	45元	45	45元
燒紙		2,550	2,550元	2,550	2,550元	2,550	2,550元
其他		600	600元	600	600元	600	600元
計		5,360	5,360元	5,360	5,360元	5,360	5,360元

イ、上等品

再輸出地	年次	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱税關管内		計	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
一九二五年		1	1元	1	1元	1	1元	1	1元	4	4元
一九二六年		1	1元	1	1元	1	1元	1	1元	4	4元
一九二七年		1	1元	1	1元	1	1元	1	1元	4	4元

ロ、中等品

再輸出地	年次	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱税關管内		計	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
一九二五年		1	1元	1	1元	1	1元	1	1元	4	4元
一九二六年		1	1元	1	1元	1	1元	1	1元	4	4元
一九二七年		1	1元	1	1元	1	1元	1	1元	4	4元

ハ、下等品

年次	再輸出地		牛莊港	安東港	哈爾濱税關管内	計
	數量	金額				
一九二五年	1	1				
一九二六年	35	235				
一九二七年	33	230	57	67	54	80
			17	106	344	534
			3	70	284	597
			1	6	250	262
						387
						534

ニ、燒紙

年次	再輸出地		牛莊港	安東港	哈爾濱税關管内	計
	數量	金額				
一九二五年	1	1				
一九二六年	1	10				
一九二七年			8	10	59	77
			2	1	27	30
					235	272
					66	98
						240
						97
						208

ホ、ミル紙

年次	再輸出地		牛莊港	安東港	哈爾濱税關管内	計
	數量	金額				
一九二五年	1	1				
一九二六年	1	1				
一九二七年	6	3	8	6	1	15
						6
						21
						36
						6
						36

ヘ、其他

年次	再輸出地		牛莊港	安東港	哈爾濱税關管内	計
	數量	金額				
一九二五年	1	1				
一九二六年	1	1				
一九二七年	1	1	15		8	25
						3
						3
						3
						3
						3

第四仕向地別

然らば以上記述した再輸出支那紙は何れへ仕向けられたであらうか、前にも述べた通り之等再輸出支那紙の大部分は哈爾濱税關管内より仕出されてゐる。而して哈爾濱税關管内より仕出された支那紙は左に掲げる通り全部支那領黒龍江筋へ仕向けられてゐるのである。

支那領黒龍江は明に滿洲なるが故に上記の事實からすれば、滿洲からの支那品再輸出は殆どなしと見るべきである。況して以下諸表に掲げる通り其他の滿洲各地をも仕向地としてゐるからである。然しながら當に再輸出のみならず滿洲貿易統計は輸入、輸移出共に滿洲内の移動をも輸移出入に計上しありて、之を區別することは容易ならざるが故に暫く其儘掲げることとする。

(イ) 大連港より再輸出される支那紙の仕向地

一、中等品

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

合計	朝鮮	仕向地別	
		年次	數量
計	計	一九二五年	數量
		金額	額
		一九二六年	數量
		金額	額
		一九二七年	數量
		金額	額

二、下等品

合計	朝鮮	仕向地別	
		年次	數量
計	計	一九二五年	數量
		金額	額
		一九二六年	數量
		金額	額
		一九二七年	數量
		金額	額

三、燒紙

合計	朝鮮	仕向地別	
		年次	數量
計	計	一九二五年	數量
		金額	額
		一九二六年	數量
		金額	額
		一九二七年	數量
		金額	額

四、其他

合計	山東省
計	計

合計	芝罘	仕向地別	
		年次	數量
計	計	一九二五年	數量
		金額	額
		一九二六年	數量
		金額	額
		一九二七年	數量
		金額	額

(口) 牛莊港より再輸出される支那紙の仕向地

一、上等品

合計	朝鮮	大連	上海	朝	仕向地別	
					年次	數量
計	計	計	計	計	一九二五年	數量
					金額	額
					一九二六年	數量
					金額	額
					一九二七年	數量
					金額	額

二、中等品

朝鮮	仕向地別	年次	
		一九二五年	一九二六年
		數量	數量
		金額	金額
		一九二七年	一九二七年
		數量	數量
		金額	金額

三、下等品

朝鮮	仕向地別	年次	
		一九二五年	一九二六年
		數量	數量
		金額	金額
		一九二七年	一九二七年
		數量	數量
		金額	金額

合計	朝鮮	上	寧波	上海	年次
					數量
					金額
					一九二七年
					數量
					金額

四、燒紙

朝鮮	仕向地別	年次	
		一九二五年	一九二六年
		數量	數量
		金額	金額
		一九二七年	一九二七年
		數量	數量
		金額	金額

合計	上海	天津	年次
			數量
			金額
			一九二七年
			數量
			金額

五、ミル紙

上海	仕向地別	年次	
		一九二五年	一九二六年
		數量	數量
		金額	金額
		一九二七年	一九二七年
		數量	數量
		金額	金額

六、其他

天津	仕向地別	年次	
		一九二五年	一九二六年
		數量	數量
		金額	金額
		一九二七年	一九二七年
		數量	數量
		金額	金額

(ハ) 安東港より再輸出される支那紙の仕向地

一、上等品

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

仕向地 別	年次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
朝鮮							
山東							
合計							

二、中等品

仕向地 別	年次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
朝鮮							
合計							

三、下等品

仕向地 別	年次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
朝鮮							
合計							

四、燒紙

仕向地 別	年次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
朝鮮							
山東							
合計							

一、上等品

仕向地 別	年次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
支那領黑龍江							
合計							

(ニ) 哈爾濱税關管内より再輸出される支那紙の仕向地

仕向地 支那領黒龍江	年次 區別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
		—	—	106	133	6	97

三、下等品

仕向地 支那領黒龍江	年次 區別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
		45	250	22	284	54	344

四、燒紙

仕向地 支那領黒龍江	年次 區別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
		95	235	25	66	7	159

五、其他

仕向地 支那領黒龍江	年次 區別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
		—	—	—	—	—	—

第二項 外國紙

第一概勢

一旦滿洲に輸入された外國紙にして更に他に輸出される額は年々一〇萬兩臺にして、最近三箇年間の趨勢から見れば年々漸増の傾向に在る。而してその大部分は大連港から輸出されるが之に次では哈爾濱税關管内からである。

外國紙再輸出狀況

年次 區別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱税關管内		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
一九二五年	640	600	6	135	6	866	75	2513	707	10160
一九二六年	416	410	8	84	25	263	56	1952	400	10712
一九二七年	957	2649	109	465	98	78	43	966	1113	12090

第二輸移出地別

次に是等外國紙の再輸移出狀況を輸移出地別に見れば以下述べる通りである。
イ、大連港

本港より再輸出される外國品は十數種に及び年々總額七、八萬乃至一三萬兩の間に在りて、年々増加の傾向が窺はれる。年にもよるが概して最も多く再輸出されるものは印刷用紙である。之に次では白及色油光紙、日本紙、巻煙

草用紙及包装紙が年により多額に及ぶことがある。
大連港より再輸出される外國品

仕向地	年次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
板紙		110	6011	377	3954	171	14
卷煙草用紙		368	2874	337	3295	533	3998
普通印刷用紙		3	60	4	193	15	4563
有光澤、有模様の紙		1503	300	68	1953	155	3950
白及色油光紙		6	1221	36	586	165	1399
包裝紙		26	44	29	53	124	1326
印刷用紙		26	44	32	53	93	1340
馬糞紙		84	246	33	153	110	148
寫字及製圖用紙		1	250	1	242	1	533
日本紙		1	173	1	286	1	1088
日紙		1	26	1	58	1	89
塵紙		1	26	1	58	1	89
壁紙		1	126	1	74	1	1566
其他紙類		640	640	486	6101	955	12492

ロ、牛 莊 港

本港より再輸出される外國紙は極めて輕少に過ぎないが、その中には上述大連港と趣を異にして寧ろ卷煙草用紙

が多い。

牛莊港より再輸出される外國紙

品種別	年次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
卷煙草用紙		14	76	8	4	99	322
普通印刷用紙		9	43	8	4	15	180
白及色油光紙		4	35	1	4	7	66
包裝紙		6	110	1	4	7	66
馬糞紙		2	6	1	4	1	6
紙		1	4	1	4	1	6
壁紙		1	4	1	4	1	6
計		54	135	28	28	101	406

ハ、安 東 港

本港より再輸出される外國紙も亦極めて少額に止まる。而して年々漸減の傾向に在る。

安東港より再輸出される外國品

品種別	年次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額
板紙		1	7505	1	7505	1	7505

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

前篇 滿洲に於ける紙の需給

品種別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
卷煙草用紙	5	102	3	134	1	99
普通印刷用紙	5	102	3	134	1	99
包裝用紙	5	102	3	134	1	99
寫字及製圖用紙	5	102	3	134	1	99
座紙	5	102	3	134	1	99
壁紙	5	102	3	134	1	99
其他紙	5	102	3	134	1	99
計	30	896	25	995	28	780

ニ、哈爾濱稅關管内

本管内より再輸出される外國紙は最近の實績より見れば、年々減少して行きつゝある。品種別に見れば、卷煙草用紙及印刷用紙がその主なるものである。

哈爾濱稅關管内より再輸出される外國品

品種別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
卷煙草用紙	5	102	3	134	1	99
片面又は両面エナメル引紙	5	102	3	134	1	99
普通印刷用紙	5	102	3	134	1	99
光澤を附したるもの	5	102	3	134	1	99
晒又は染色紙	5	102	3	134	1	99
包裝紙	5	102	3	134	1	99
計	30	896	25	995	28	780

品種別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
印刷用紙	76	106	1	1	4	6
寫真及製圖用紙	7	90	1	396	3	7
其他紙	7	110	1	378	1	4
計	90	216	2	397	8	15

第三品種別

品種別再輸出狀勢は以下諸表の如く年によりて増減あり、別に定まつた傾向を見出し得ない。

總括

品種別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
板紙	1	7500	1	3776	1	15
卷煙草用紙	1	11002	1	3776	1	7379
片面又は両面エナメル引紙	5	1010	1	1	1	1
普通印刷用紙	407	3321	259	2590	573	5128
有光澤、有模様紙	3	60	11	227	1	3950
白及色油光紙	177	1416	701	5888	1494	13691
包裝紙	20	1183	23	2739	126	15076
印刷用紙	281	2563	22	2458	947	22996

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

前篇 滿洲に於ける紙の需給

紙類	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
馬糞紙		八三				
漂白紙		二五八				
亞硫酸紙		二六				
寫字及製圖紙		三三〇				
日本紙		一七五				
日紙		二六				
塵紙		一九				
壁紙		二五八				
其他紙類		一〇				
計	七〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	七,〇〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇

一五八

イ、板紙

仕出地	年次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
大連港	数量	一					
	金額						
	計						
牛莊港	数量						
	金額						
	計						
安東港	数量						
	金額						
	計						
哈爾濱稅關管内	数量						
	金額						
	計						
計		七五〇					

ロ、卷煙草用紙

仕出地	年次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
大連港	数量	一〇〇	六〇〇				
	金額						
	計						
牛莊港	数量	一四	七〇				
	金額						
	計						
安東港	数量						
	金額						
	計						
哈爾濱稅關管内	数量						
	金額						
	計						
計		一〇八	五八四				

ハ、片面又は両面エナメル引したるもの

仕出地	年次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
大連港	数量						
	金額						
	計						
牛莊港	数量						
	金額						
	計						
安東港	数量						
	金額						
	計						
哈爾濱稅關管内	数量						
	金額						
	計						
計		五二	一〇一〇				一〇一〇

ニ、普通印刷用紙

仕出地	年次	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
大連港	数量	三六五	二八七四	二七九	二二九五	三三三	二六〇七
	金額						
	計						
牛莊港	数量	九	四三	八	八〇	一五	一八〇
	金額						
	計						
安東港	数量						
	金額						
	計						
哈爾濱稅關管内	数量	三六三	三八二五	三三〇	四〇三五	三六七	四六二六
	金額						
	計						
計		三六二	三,〇〇〇	三三〇	四,〇二〇	三六二	四,〇二〇

ホ、有光澤、有模様紙

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

一五九

へ、白及色油光紙

年次	仕出地別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
一九二五年		三	六〇							三
一九二六年		九	一五三							九
一九二七年		一五	三九〇							一五
計		二四	五〇三							二四

ト、包装紙

年次	仕出地別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
一九二五年		一五〇	二四二							一五〇
一九二六年		六五	一〇八							二一五
一九二七年		一四	二二	七	一〇					二一
計		二二九	三七二	七	一〇					二三六

チ、印刷用紙

年次	仕出地別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
一九二五年		二五	四三							二五
一九二六年		三二	五八							六四
一九二七年		九	一五							一四
計		六六	一一六							九九

リ、馬糞紙

年次	仕出地別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
一九二五年		八〇	一四六	六	一〇					八六
一九二六年		三五	六五							三五
一九二七年		四〇	七六							四〇
計		一五五	二八七	六	一〇					一六一

又、メカニカルウッドパルプに非るティツシユ及漂白亞硫酸鹽紙

年次	仕出地別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
一九二五年				二				七		二
一九二六年										
一九二七年										
計				二				七		二

ル、寫字及製圖用紙

年次	仕出地別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
一九二五年			二五〇								二五〇
一九二六年			二四三								二四三
一九二七年			五五三								五五三
計			一〇四六								一〇四六

ヲ、日本紙

年次	仕出地別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
一九二五年			一三五								一三五
一九二六年			三八四								三八四
一九二七年			一〇一八								一〇一八
計			一五三七								一五三七

ワ、塵紙

年次	仕出地別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
一九二五年			二六								二六
一九二六年			五〇八								五〇八
一九二七年			五九								五九
計			五九三								五九三

カ、壁紙

年次	仕出地別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
一九二五年											
一九二六年											
一九二七年			四								四
計			四								四

ヨ、其他紙類

年次	仕出地別	大連港		牛莊港		安東港		哈爾濱稅關管内		計	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
一九二五年			二七六								二七六
一九二六年			七四								三五〇
一九二七年			一五三六								一五三六
計			二〇八六								二〇八六

第四 仕向地

然らば是等外國紙は何れへ仕向けられるか。以下輸移出地別に而して品種別にその詳細を掲げるであらう。
再輸出外國品も亦滿洲各地を仕向地とするもの少しとせず、隨て滿洲から見れば決して再輸出にあらざれども之亦
俄に貿易統計を動かし難いからその儘掲げて置く。

(イ) 大連港より再輸出される外國紙の仕向地
一、板紙純白に漂せるもの、蠟を附せざるもの

仕向地 別	年次		
	一九二五年	一九二六年	一九二七年
上海	數量 —	數量 —	數量 —
	金額 —	金額 —	金額 —

二、卷煙草用紙

仕向地 別	年次		
	一九二五年	一九二六年	一九二七年
日本	數量 —	數量 —	數量 —
朝鮮	數量 —	數量 —	數量 —
天津	數量 —	數量 —	數量 —
上海	數量 —	數量 —	數量 —
青島	數量 —	數量 —	數量 —
合計	數量 —	數量 —	數量 —
	金額 —	金額 —	金額 —

三、普通印刷用紙

仕向地 別	年次		
	一九二五年	一九二六年	一九二七年
日本	數量 —	數量 —	數量 —
朝鮮	數量 —	數量 —	數量 —
威海衛	數量 —	數量 —	數量 —
上海	數量 —	數量 —	數量 —
天津	數量 —	數量 —	數量 —
烟台	數量 —	數量 —	數量 —
龍口	數量 —	數量 —	數量 —
安東	數量 —	數量 —	數量 —
青島	數量 —	數量 —	數量 —
直隸	數量 —	數量 —	數量 —
河北省	數量 —	數量 —	數量 —
合計	數量 —	數量 —	數量 —
	金額 —	金額 —	金額 —

四、光澤を付け磨をかけ又は模様を付けたるもの

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
日 本	1	193	1	193	1	193
威 廉 州	1	193	1	193	1	193
天 津 口	1	193	1	193	1	193
龍 口	1	193	1	193	1	193
芝 罘	1	193	1	193	1	193
上 海	1	193	1	193	1	193
安 東	1	193	1	193	1	193
青 島	1	193	1	193	1	193
合 計	3	386	3	386	3	386

五、白及色油光紙(主としてメカニカルウツ)
Fパルプを用ひたるもの

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
日 本	1	193	1	193	1	193
天 津 口	1	193	1	193	1	193
上 海	1	193	1	193	1	193
合 計	3	386	3	386	3	386

六、包裝紙

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
芝 罘	1	193	1	193	1	193
龍 口	1	193	1	193	1	193
安 東	1	193	1	193	1	193
青 島	1	193	1	193	1	193
同 濟 州	1	193	1	193	1	193
同 直 隸	1	193	1	193	1	193
同 東 省	1	193	1	193	1	193
合 計	7	1371	7	1371	7	1371

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
日 本	1	193	1	193	1	193
威 廉 州	1	193	1	193	1	193
天 津 口	1	193	1	193	1	193
龍 口	1	193	1	193	1	193
芝 罘	1	193	1	193	1	193
上 海	1	193	1	193	1	193
安 東	1	193	1	193	1	193
青 島	1	193	1	193	1	193
合 計	9	1771	9	1771	9	1771

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
日本		五		六		一七四
威海衛				六		五
天津				三		四〇
青島		六		七		八五
芝罘		三		三		五九
龍口		六		六		一七五
合計						

一六九

九、寫字及製圖用紙

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
青島	一〇三	八八	五	四七〇		
威海衛						
龍口	五	一七	四	二四七		
芝罘						
天津	一四三	一七	八	二四七		
安東						
牛莊	五八	二七	四	一四		
合計						

八、板紙(馬糞紙)

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
日本	四六	四六	五	三五		
朝鮮	一〇七	一〇七	三	九〇		
青島	七	七〇				
龍口						
芝罘	二	一八				
天津	二	二七				
安東	八	八三				
合計						

七、印刷用紙

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
龍口	一	一				
上海	五	四〇	三	二五		
安東	五	四〇	三	二五		
合計						

前篇 滿洲に於ける紙の需給

一六八

第四章 滿洲に於ける紙の需給状況

朝日 計	仕 向 地 別	年次	
		一九二五年	一九二六年
鮮本	數量		
	金額	一八三	一七九
鮮本	數量		
	金額		三九

一三、其他紙類

朝日 計	仕 向 地 別	年次	
		一九二五年	一九二六年
鮮本	數量		
	金額		
鮮本	數量		
	金額		

一二、壁紙

合計	天龍青芝上			
	津口	島	采	海
計	數量			
	金額	一五	一四	三三
計	數量			
	金額	一五	一四	三三

前篇 滿洲に於ける紙の需給

日 計	仕 向 地 別	年次	
		一九二五年	一九二六年
本	數量		
	金額	五	元
本	數量		
	金額		

一一、塵紙

合計	威海青芝龍安牛					
	本	衛	津	島	采	東
計	數量					
	金額	三九	九	元	九	九
計	數量					
	金額	三九	九	元	九	九

一〇、日本紙

合計	安東	
	計	東
計	數量	
	金額	一六
計	數量	
	金額	一六

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
上海	四	四				
其他諸港					七	七
合計					七	七

三、白及色油光紙(主としてメカニカルツツ)
(ドパルプを用ひたるもの)

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
日本	九	四三			五	一八〇
朝鮮	九	四三			五	一八〇
上海			八	八		
天津			八	八		
合計			八	八	五	一八〇

二、普通印刷用紙

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
大連					九	三三
青島					九	三三
合計					九	三三

一、卷煙草用紙

(ロ) 牛莊港より再輸出される外國紙の仕向地

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
日本						
朝鮮						
天津	四	七〇			五	一八
合計	四	七〇			五	一八

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
威海衛						
天津						
青島						
芝罘						
龍口						
安東						
上海						
牛莊						
合計						

前篇 滿洲に於ける紙の需給

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

日 本	仕 向 地 區 別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數 量	金 額	數 量	金 額	數 量	金 額
			二九		四七		

一七七

八、其他紙類

天 津	仕 向 地 區 別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數 量	金 額	數 量	金 額	數 量	金 額
			元				

七、壁紙

日 本	仕 向 地 區 別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數 量	金 額	數 量	金 額	數 量	金 額
							二〇

六、塵紙

芝 罌	仕 向 地 區 別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數 量	金 額	數 量	金 額	數 量	金 額
							二六

五、筆記用、畫用、印刷用、銀行券、羊皮紙、耐油紙

朝 鮮	仕 向 地 區 別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數 量	金 額	數 量	金 額	數 量	金 額

四、包裝紙

合 計	芝 罌	朝 鮮	日 本	仕 向 地 區 別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
					數 量	金 額	數 量	金 額	數 量	金 額
							四四		六六	六六

三、普通印刷用紙

合 計	上 海	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數 量	金 額	數 量	金 額	數 量	金 額
				三三	二三四		

前篇 滿洲に於ける紙の需給

一七六

前篇 滿洲に於ける紙の需給

朝鮮	計	七五	八六	九五	〇八
----	---	----	----	----	----

(三) 哈爾濱税關管内より再輸出される紙の仕向地

一、卷煙草紙

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
太平洋沿岸露西亞	—	—	101	六四九	—	—
西伯利露西亞	—	—	—	—	—	—
支那領龍江	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	101	六四九	—	—

二、片面又は両面エナメルを引ききたるもの

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
太平洋沿岸露西亞	—	—	—	—	—	—
西伯利露西亞	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—

三、普通印刷用紙

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
太平洋沿岸露西亞	—	—	—	—	—	—
西伯利露西亞	—	—	—	—	—	—
支那領龍江	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—

四、光澤を附したるもの

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
太平洋沿岸露西亞	—	—	—	—	—	—

五、晒又は染色

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
支那領龍江	—	—	—	—	—	—

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

前篇 滿洲に於ける紙の需給

六、包裝紙

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
太平洋沿岸露西亞	三	二六四	三	三三九	一	三六
西伯利露西亞	三	二六四	三	三三九	一	三六
支那領黑龍江	三	二六四	三	三三九	一	三六
合計	九	七九二	九	一〇一四	三	一〇八

七、印刷用紙

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
支那領黑龍江	六	一〇六	一	一〇	四	四

八、メカニカル木質パルプに非ざる光澤を附せざるティツシュ及M・G漂白亞硫酸鹽紙

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
支那領黑龍江	七	二六	一	一	一	三

九、寫字及製圖用紙

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
太平洋沿岸露西亞	一	〇	一	一	一	一
西伯利露西亞	一	〇	一	一	一	一
支那領黑龍江	一	〇	一	一	一	一
合計	三	〇	三	三	三	三

一〇、其他

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
太平洋沿岸露西亞	一	四八六	一	七六六	一	四四六
西伯利露西亞	一	二二〇	一	一	一	一
支那領黑龍江	一	七二八	一	三〇一	一	四四六
合計	三	一四三四	三	一〇六八	三	八九三

一一、壁紙

仕向地別	一九二五年		一九二六年		一九二七年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
支那領黑龍江	一	一	一	一	一	一

第四章 滿洲に於ける紙の需給狀況

第五節 滿洲に於ける紙の需給状態

以上生産及貿易状態に就て之を詳説したから、滿洲に於ける紙の需給状態自ら明であるが、今茲に之等の數字から滿洲に於ける紙の需要額及その供給状態を見ることにする。

一九二七年に就て見れば滿洲の紙の需要額は左の如く、約七百數十萬兩に達し、その供給は殆ど大部分輸移入に仰ぎ、生産は僅に一八〇萬兩に過ぎない。

昭和二年度需給状態 (單位海關兩)

内外品別	生産額	輸移入額	輸移出額	再輸移出額	差引需要額
外國品	—	三八〇,二六六	—	—	三八〇,二六六
支那品	一七六,六六六	二五〇,五七一	六三,二五五	九,九三三	三七八,〇九九
計	一七六,六六六	六四〇,八三七	六三,二五五	一五〇,八三三	七四七,四四三

備考 本年度に於ける海關兩一兩は金の一圓四四錢に當る。

之に因て見れば滿洲に於ける紙の需要は、外國紙、支那紙相半ばしてゐるのであるが、外國紙は殆ど大連港から輸移入され、支那紙は殆ど牛莊港より移入されてゐる。即ち昭和二年度に於ける大連港の輸移入額約三四〇萬餘兩の中、外國品約三〇〇萬兩を占め、支那品は僅に五〇萬兩に充たない。反之牛莊港は總額二〇〇萬餘兩の中、外國品僅に四〇萬餘兩に過ぎずして、残り一六〇萬兩は擧げて支那品である。安東港に於ける輸移入額は上記二港に比して遙に少

いが、之亦支那品多く、その額四六萬兩に對し、外國品は約二一萬兩に止まる。而して第二節所説の如く支那紙は上海を中心とする支那諸港より移入され、外國品は殆ど日本の仕出すところである。即ち輸移入總額三八〇餘萬兩の中、二八〇餘萬兩は日本より供給されるものである。

以上は過去に於ける滿洲産紙額不明のため、單に昭和二年度一箇年の需給状態を見たに過ぎないが、事實産額も急激な増減なきを以て近年の需給状態先づ上述の事情に在りと云ふことが出来よう。

而して輸移入された紙類は鐵道、船舶其他により各輸移入地から需要地に輸送されること第七節に於て述べる如くである。

第六節 滿洲に於けるパルプ需給状態

滿洲に於けるパルプの生産工場は、獨り安東の鴨綠江製紙あるのみ、同社はもと大正八年金五〇〇萬圓の資本金を以て専ら東洋市場を目的とするパルプ製造を主業として生れた滿洲唯一の近代的大規模工業であるが、操業開始偶々歐洲大戰の終結期に當れるを以て、當時歐洲産パルプは旺に東洋市場に於て投資され、ために日本内地品の滞貨夥しく、茲に同業者は窮餘の一策を講じて一時一部の生産を手控することを協約したが、同社は其の選に入り一時操業中止の止むなきに至つたから、殆ど所期の目的は達し得なかつた。其後同社は昭和二年右協約解除を機會に、従來のパルプ工場を利用して新しく支那向製紙を操業することとした。而してそのパルプの生産は單に自家用數量に止めてゐるが、現在その生産高は約八、〇〇〇噸と云はれてゐる。その内譯は、サルファイ、パルプ約六、〇〇〇噸(月當五〇〇